

赤ちゃんから
おとなまで

聖書教育

2020年

10
11
12

月号

絵
主
題

時代を生きる教会

テ
マ

神の永遠の中で



「コヘントの言葉・マタイ」による福音書

テーマ 神の永遠の中で

教会学校の目的

教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人々がイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の中において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある。

日本バプテスト連盟 1971年制定、1999年改訂

聖書教育ホームページ <https://www.bapren.com/>

1 目次

2 プログラム表

3 準備のための聖書日課

川上敏夫

特集・連載

4～ **特集** クリスマスメッセージ

奥田知志

6～ **特集** キリスト教教育週間

NCC教育部

8～ **連載** 世界バプテスト祈禱週間によせて

小樽バプテスト教会

10～ **連載** 今、改めて「教会学校の目的」に目を向ける

中田義直

12 執筆者紹介

13 **概論** この時代に「コヘレトの言葉」を読む

坂元幸子

今号の展開例 ● 第27課～第39課

14～ 聖書の学び・成人科

坂元幸子

16～ みんなで聴く聖書のおはなし

坂元幸子

17～ 青少年科

森 恭子

18～ 幼小科

富田直美

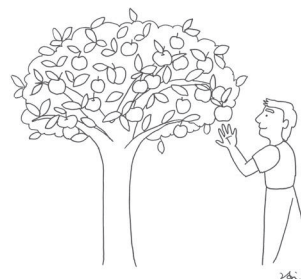
92～ 暗唱聖句手話

塩山幸子

94～ 暗唱聖句カード 新共同訳・口語訳

99 「聖書教育」読者アンケート

100 次号予告



2020年 聖書教育 2020~2022年度プログラム

2021年度 総主題 時代を生きる教会

課	月日		週題	聖書箇所
27	10月4日		風を追うようなこと	コヘレ1:1~18
28	10月11日		神の永遠の中で	コヘレ3:1~17
29	10月18日		交わりの中で生きる勇氣	コヘレ4:1~12
30	10月25日		わからない「今」を生きる	コヘレ7:15~22
31	11月1日		なお、そこで生きる	コヘレ8:8~17
32	11月8日		それでも、種を蒔こう	コヘレ11:1~6
33	11月15日		喜びなさい	コヘレ11:9~12:8
34	11月22日		コヘレの解放の言葉	コヘレ12:9~14
35	11月29日	世界祈禱週間	だから、こう祈りなさい	マタイ6:9~13
36	12月6日		アブラハムからマリアまで	マタイ1:1~17
37	12月13日		神は我々と共におられる	マタイ1:18~25
38	12月20日	クリスマス	喜びの道	マタイ2:1~12
39	12月27日		夢でのお告げ	マタイ2:13~23
40	1月3日		これはわたしの愛する子	マタイ3:13~17
41	1月10日		力ではなく神の言葉で生きる	マタイ4:1~11
42	1月17日		自由にする律法	マタイ5:17~20
43	1月24日		イエスの望み	マタイ8:1~17
44	1月31日	協力伝道週間	平和があるように	マタイ9:35~10:15
45	2月7日	信教の自由	恐れるな、この世の力を	マタイ10:26~31
46	2月14日		問いつつ、問われつつ	マタイ11:2~19
47	2月21日		自分の十字架を背負って	マタイ16:13~28
48	2月28日		柔らかなお方	マタイ21:1~11
49	3月7日		天の国はどんなところ？	マタイ25:1~13
50	3月14日		小さい者のひとりに	マタイ25:31~46
51	3月21日		共に目を覚まして	マタイ26:36~46
52	3月28日	受難週	十字架上の神の子	マタイ27:32~56
1	4月4日	イースター	行く手に立つイエス	マタイ28:1~15
2	4月11日		世の終わりまで、いつも共に	マタイ28:16~20
3	4月18日		幸いである	マタイ5:1~12
4	4月25日		つながり、つながれる	マタイ18:15~20
5	5月2日		サウロの回心	使徒9:1~19
6	5月9日		キリスト者と呼ばれて	使徒11:19~30
7	5月16日		ただ主イエスの恵みによって	使徒15:1~21
8	5月23日	ペンテコステ	この幻を見た時に	使徒16:6~15
9	5月30日		真夜中の賛美	使徒16:25~40
10	6月6日		光の中を歩む	1ヨハネ1:1~10
11	6月13日		弁護者イエス・キリスト	1ヨハネ2:1~17
12	6月20日	沖繩命どう宝の日	互いに愛し合う	1ヨハネ4:7~21
13	6月27日	神学校週間	永遠の命	1ヨハネ5:6~15
14	7月4日		聞くだけでは終わらない	ヤコブ1:19~27
15	7月11日		人を分け隔てせず	ヤコブ2:1~13
16	7月18日		義の実は、平和を実現する人たちによって	ヤコブ3:13~18
17	7月25日		主が来られるときまで	ヤコブ5:7~20
18	8月1日		エゼキエルの召命	エゼキエル2:1~10
19	8月8日		主の聖所を背にし	エゼキエル8:1~18
20	8月15日	平和	もはやむなししい幻を見ることもなく	エゼキエル13:1~23
21	8月22日		新しい心・新しい霊	エゼキエル18:21~32
22	8月29日		立ち帰れ、立ち帰れ	エゼキエル33:10~20
23	9月5日		主こそ真の牧者	エゼキエル34:1~16
24	9月12日	教会学校月間	主が建て直す日	エゼキエル36:33~38
25	9月19日		枯れた骨よ、主の言葉を聞け	エゼキエル37:1~14
26	9月26日		真の神殿の幻	エゼキエル43:1~12

2020年7月現在

2020年10月

準備のための聖書日課

1日㊥ 列王記上5:9~14	名立たるソロモン王の知恵	17日㊥ コヘレト9:4~6	命あるものの安心さ
2日㊥ 詩編39:3~10	すべては空しいもの	18日㊥ コヘレト4:1~12	交わりの中で生きる勇氣
3日㊥ ヨハネ3:1~15	風は思いのままに吹く	19日㊥ 箴言21:20~22	知恵ある人の幸い
4日㊥ コヘレト1:1~18	風を追うようなこと	20日㊥ 詩編14:1~3	善を行なう者はいない
5日㊥ 創世記1:31~2:3	天地万物は極めて良かった	21日㊥ コヘレト5:12~19	神の賜物を感謝せよ
6日㊥ 箴言9:7~12	知恵の初めとは何か	22日㊥ コヘレト6:1~6	幸福とは何か
7日㊥ 箴言16:1~9	あなたの業を主に委ねよ	23日㊥ コヘレト7:7~14	神の御業を見よ
8日㊥ コヘレト2:1~11	すべては風を追うようなこと	24日㊥ コヘレト7:23~29	賢者でありたいとの願い
9日㊥ コヘレト2:12~26	神の手からいただくもの	25日㊥ コヘレト7:15~22	わからない「今」を生きる
10日㊥ コヘレト5:1~6	神は天にいます	26日㊥ ヨブ記40:1~5	口に手を置くヨブ
11日㊥ コヘレト3:1~17	神の永遠の中で	27日㊥ マタイ6:25~34	まず神の国と神の義を求めよ
12日㊥ 創世記2:6~18	人は独りでいるのは良くない	28日㊥ ヨブ記21:22~34	誰が裁くのか
13日㊥ ヨブ記3:1~10	生まれた日を呪うヨブ	29日㊥ ローマ2:1~16	神の憐れみによる裁き
14日㊥ ヨブ記3:11~19	なぜ、生きているのか	30日㊥ ローマ11:33~36	神の富と知恵と知識
15日㊥ ヨブ記3:20~26	なぜ、生かされているのか	31日㊥ コヘレト8:1~7	ふさわしい時を求めて
16日㊥ コヘレト3:18~22	すべては塵に返る		

2020年11月

準備のための聖書日課

1日㊥ コヘレト8:8~17	なお、そこで生きる	16日㊥ 申命記6:1~9	すべての掟と戒めを守れ
2日㊥ 箴言31:10~14	商人の船のように	17日㊥ 申命記6:10~15	あなたの神、主を畏れよ
3日㊥ ミカ5:4~5	七人の牧者と八人の君主	18日㊥ 詩編23:1~6	主は羊飼い
4日㊥ 詩編139:13~18	神の御計いを感謝して	19日㊥ ルカ10:25~28	あなたはどうか読んでいるか
5日㊥ ルカ16:1~9	この世の子らの賢さ	20日㊥ ローマ8:18~25	被造物のうめきを共にして
6日㊥ コヘレト9:7~10	喜んであなたのパンを食べよ	21日㊥ コリント二5:16~21	新しい創造への招き
7日㊥ コヘレト9:11~12	時と機会を生かして	22日㊥ コヘレト12:9~14	コヘレトの解放の言葉
8日㊥ コヘレト11:1~6	それでも、種を蒔こう	23日㊥ ルカ11:1~4	祈りを教えてください
9日㊥ 申命記12:8~12	主の御前で喜び祝え	24日㊥ 詩編89:20~30	あなたは、わたしの父
10日㊥ イザヤ65:17~20	代々とこしえに喜び躍れ	25日㊥ マルコ14:32~42	アッパ、父よ
11日㊥ フィリピ4:4~7	主において常に喜べ	26日㊥ ガラテヤ4:1~7	神の子とされるために
12日㊥ テサロニケ一5:16~22	いつも喜び、祈り、感謝せよ	27日㊥ マタイ7:7~12	求める人は受ける
13日㊥ 出エジプト記20:8~11	安息日を心に留めよ	28日㊥ マタイ6:5~8	願う前からすべてをご存じの神
14日㊥ 申命記8:11~18	あなたの神、主を思い起こせ	29日㊥ マタイ6:9~13	だから、こう祈りなさい
15日㊥ コヘレト11:9~12:8	喜びなさい	30日㊥ 創世記22:15~18	海辺の砂のように

2020年12月

準備のための聖書日課

1日㊥ 創世記38:24~30	双子の母タマル	17日㊥ マタイ27:32~44	ユダヤ人の王イエス
2日㊥ ヨシヤ記2:1~14	遊女ラハブの誠意	18日㊥ ルカ1:46~56	救い主なる神を喜ぶ
3日㊥ ルツ記1:1~19前半	モアブの女ルツ	19日㊥ ルカ2:1~20	飼い葉桶の救い主
4日㊥ サムエル記下12:1~15前半	ウリヤの妻バト・シェバ	20日㊥ マタイ2:1~12	喜びの道
5日㊥ ルカ1:26~38	主のはしため・マリア	21日㊥ 出エジプト記1:15~22	神を畏れぬエジプト王
6日㊥ マタイ1:1~17	アブラハムからマリアまで	22日㊥ イザヤ11:1~5	萌えいでるひとつの芽
7日㊥ 申命記22:23~24	姦淫の罪の現実	23日㊥ エレミヤ31:15~17	苦悩に満ちた嘆き
8日㊥ イザヤ43:1~7	わたしは主、あなたの救い主	24日㊥ ヨハネ1:43~51	ナザレへの偏見
9日㊥ アモス5:1~3	おとめイスラエルの悲しみの歌	25日㊥ ヨハネ7:40~44	メシアの誕生を巡って
10日㊥ イザヤ7:10~17	その名はインマヌエル	26日㊥ 使徒言行録2:22~24	ナザレの人イエス
11日㊥ イザヤ8:5~10	インマヌエルの原点	27日㊥ マタイ2:13~23	夢でのお告げ
12日㊥ マタイ28:16~20	いつもあなたがたと共にいる	28日㊥ マタイ3:1~12	神が来られる
13日㊥ マタイ1:18~25	神は我々と共におられる	29日㊥ マルコ1:1~8	罪の赦しを得させるために
14日㊥ 詩編148:1~6	輝く星よ、主を賛美せよ	30日㊥ ルカ3:1~20	わたしよりも優れた方
15日㊥ エゼキエル34:23~31	群れを養う牧者	31日㊥ ヨハネ1:19~28	わたしたちに近づく神
16日㊥ ミカ5:1~3	ベツレヘム、いと小さき者よ		



クリスマス メッセージ



余地の誕生 他者不在の時代に

ルカによる福音書 2章1〜7節



東八幡キリスト教会 牧師
奥田知志

撮影…タカオカ邦彦

はじめに

予想もしなかった一年が終わろうとしています。新型コロナウイルスで私たちの生活は一変しました。大変な一年でしたが、クリスマスはちゃんと来ます。

春にトイレットペーパーが店から無くなりました。これは「コロナ禍」ではなく、「人間禍」でした。無くなったのはトイレットペーパーではなく、私たちの中にいる「他者」だと思います。感染の不安の中でみんなが「自分だけ」の状態となりました。先の不安が募る中、安心したいと他人の分まで買い占めたのです。しかし、「自分さえよければ」という行動は、私たちを一層不安にさせたただけでした。

ヨハネ福音書はクリスマスを「光の到来」と告げます。それは「光が来たので闇は去った」という事ではありません。「光は闇の中に輝く」、つまり、闇はあり続けるのです。光を探す人は闇を見つめなければなりません。これはつらい。だから聖書は世界の結末を告げたのです。「闇は光に勝てなかった」と。

あの夜の闇

ルカ福音書は、クリスマスの「闇」を記しています。生まれた子どもは、飼葉おけに寝かされました。なぜならば「客間には彼らのいる余地がなかったから」（ルカ2：7口語訳）です。ロマンチックなクリスマスではない、過酷な現実が描かれています。「余地が無かった」は「スペースが無い」ということではなく、「助けてくれる人」がいなかったということです。これは「人は独りで生きてはいけない。助けが必要」（創世記2章）と

いう神の創造の意思に反することでした。

赤ちゃんが「飼い葉おけ」に寝かされても、皆は見ても見ぬふりをしました。その子は、人として扱ってもらえませんでした。冷たさと分断の闇が支配し、「光」が「闇の現実」をえぐり出した瞬間でした。その気になれば「余地」はつくれましたが、「もう生まれるのか。そりゃ大変だ。こっちに来なさい」という人はいませんでした。「客間」とは「自分」の事だと思っています。「余地」は他人のための空間です。「客間に余地が無い」とは、自分の中に他人がないという事実を示します。これは2000年後の現代も同じ。「自国ファースト」と叫ぶリーダーが現れ、自分が一番、自分だけが大事と多くの人が思い始めています。例のトイレトペーパーの一件はそういうことです。

「自分のことで精一杯。他人を助ける余裕はない」。「宿屋の予約をしなかったのは自己責任だ」。そんな声が聞こえてきます。「自分のこともできない人が他人を助けるのは無理」と言う人もいます。では、いつになれば自分のことができるのでしょうか。いつまで待てば不安におびえる初産の妊婦を助ける日は来るのでしょうか。不潔極まりない「おけ」に寝かされた赤ちゃんに清潔なベッドが準備されるのはいつですか。お金がないから、時間がないから、余裕がないから、「できない理由」は尽きません。でも、あなたは気づいているはずです。「できない」のではなく、「しようとしないだけ」ということに。他人のために「余地」を空けず、全部自分のものにして「安心」したかったのです。しかし、それが救い主の存在から乖離する生き方だとすれば、それは最も「危険」なことになります。そもそも「自分だけ」ではつらい。少し考えればわかることです。もし、あなたがマリアだったらどう思う。考えるまでもなくわかることです。わからないふりをするのはもう止めたい

と思います。それがクリスマスにやるべきことです。

救い主の誕生

クリスマスは、イエス・キリストの誕生を祝う日です。イエス・キリストとは何か。それは「余地」だと思っています。「余地がない」とうそぶく世界に「余地」となるためにお生まれになったのです。そして、「余地」は「他者のため（の場所）」ということです。キリストは他者のために生まれ、他者のために死んだ。「他人は救ったが自分は救わない」（マルコ15章）と迫害者たちでさえイエス・キリストの本質を十字架に見ました。イエスは、人には「余地」、すなわち「他者のため」ということが必要であると身をもって示されました。自分だけ暖かく安全な場所に安住し「余地はない」と断わり続けている人の世の現実には耐え切れない神は、ひとり子を「この世の余地」とするために送られたのです。

あれから2000年。いまだ「余地がない」と断られている人がいます。だから、今年もクリスマスはやってきます。自分だけという闇に打ち勝つために。イエスを信じるということは、他人に分け与えるということです。だから自分の分が減るのは当然です。イエスほど徹底的にはできません。いのちがいくつあっても足りませんから。しかし挑戦する価値はあります。他人に自分を少しだけ分けてあげる。それがイエスの救い、すなわち十字架の恵みです。すべての人が「どうぞ、お泊りください」という日がきます。私はそんな夢を見ます。この夢は必ず実現します。なぜならば「闇は光に勝てない」、これが世界の結論だからです。その事実をすべての人々に告げ知らせるため今年もクリスマスはやって来るのです。

クリスマスおめでとうございます。

第70回 キリスト教教育週間

2020年10月18日(日)~25日(日)

日本キリスト教協議会(NCC)教育部
総主宰 比企敦子

「平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を保つように努めなさい。」
(エフェソの信徒への手紙 4章 3節)

イースター礼拝を教会で捧げられない事態が世界中で起きると思ってもみませんでした。新型コロナウイルス感染症の完全な終結には時間がかかるようです。これまで「平和のきずな献金」をお届けしたアジア・アフリカ・南米の教会や学校での被害も甚大です。日頃から弱い立場に置かれている子どもたちは、国内外を問わず更に深刻な状況に置かれてしまいます。信仰・国籍・性別にとらわれず、子どもたちの「いのち」や将来を守る教育支援のために、教派を超えてつながりましょう。

「コロナウィルスも 神さまがつくったの?」

教会学校に通っている子どもの素朴な疑問です。地上のすべてを神さまが創られたなら、どうして悪いウィルスなど創られたのかと思うのでしょうか。丁寧な説明が必要ですが、地球上の生物、あるいは地球そのものも人間のためだけに創られたのではないことは確かです。科学や医学は万能・絶対ではなく、地球温暖化が進む現代文明への警告かもしれません。神が私たちの苦悩をすべてご存知で、共にいてくださることは確かですから神に信頼

平和のきずなで結ばれて、
聖霊による一致を保つように努めなさい。
(エフェソの信徒への手紙 第4章3節)

「さあ、つながろう!」
募金期間 2020年6月~2021年3月末

献金先
① インド「プリ キンダーガールテンスクール」の教育支援
(「プリ キンダーガールテンスクール」里親の会を通して)
② パレスチナ「アハリー・アラブ病院」の活動支援
(「アハリー・アラブ病院」を支援する会を通して)
③ アイヌ奨学金
(「アイヌ奨学金キリスト教協力会」を通して)
④ 外国にルーツをもつ福島の子どもの教育支援
(「福島移住女性支援ネットワーク」(EIWAN)を通して)
⑤ NCC教育部平和教育推進基金

第70回
キリスト教教育週間

2020年10月18日(日)~25日(日)は、
第70回キリスト教教育週間です。
子どもたちのいのちや安全が守られ、
将来につながりますように共に祈りましょう。

総会送付先: 郵便振替 00150-8-58713
加入者名: 日本キリスト教協議会教育部
振込用紙に「平和のきずな献金」と明記してください
献金は2021年3月末までお受けします。

協力: 日本聖公会 絵: アザン・中野彰代

呼びかけ: NCC教育部 日本キリスト教協議会(NCC)教育部
東京都新宿区西中田2-3-18-21 TEL/FAX: 03-3203-0731
E-mail: ncc-education@cello.ocn.ne.jp
URL: <https://nccj-edu.lindo.com>

して祈りましょう。また、子どもたちが社会で起きている問題に関心や疑問をもった時には、一緒に考えたいと思います。

子どもたちの未来が 閉ざされませんように

2020年度海外献金先の2箇所を紹介しましょう。①1985年にS.K. モハンティ牧師によって創設され、日本バプテスト女性連合が長く支援している「プリ キンダーガールテンスクール」です。プリは東インドのベンガル湾沿いにあり、住民の多くは貧しいヒンドゥー教徒で、子どもたちは十分な教育を受ける機会がありません。インドでは宣教師の活動は正式には許可されていませんが、子どもたちの未来が閉ざされないようにと支援を続けています。②パレスチナ・ガザ地区にある「アハリー・アラブ病院」です。難民キャンプにあって長年医療奉仕を続けています。長引く戦闘状態の中で、子どもたちは病気や怪我だけでなく心にも傷を負います。各国の医療従

呼びかけ・問い合わせ先



NCC 教育部
(日本キリスト教協議会教育部)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-21
TEL&FAX 03-3203-0731
E-mail ncc-education@cello.ocn.ne.jp
URL <https://nccj-edu.jimdo.com>
募金期間 2020年6月～2021年3月末
献金送付先 郵便振替 00150-8-98713
加入者名 日本キリスト教協議会教育部
振込用紙に「平和のきずな献金」と明記してください

2020年度の「平和のきずな献金」は下記のように用いられます。
お祈りと共にどうぞお支えください。

- インド「プリ キンダーガルテンスクール」の教育支援（「プリ キンダーガルテンスクール里親の会」を通して）
- パレスチナ「アハリー・アラブ病院」の医療支援（「アハリー・アラブ病院を支える会」を通して）
- アイヌ奨学金に（「アイヌ奨学金キリスト教協力会」を通して）
- 外国にルーツをもつ福島の子どもの教育支援（「福島移住女性支援ネットワーク」(EIWAN)を通して）
- NCC 教育部平和教育推進基金に

事者が治療にあたり、PTSDを抱えないようケアしています。

軍隊をもたない国 コスタリカと日本の現状

中南米にあるコスタリカは、1949年施行の憲法で軍隊を廃止したことで知られています。国民の9割は軍隊がない事を支持しており、保健や教育が充実しています。^(注)外交によって平和を維持するのは大変な事でしょうが、世界中で紛争が絶えない中で希望がもてます。

憲法第9条を掲げ、被爆国でありながら5.3兆円という膨大な防衛費をつぎ込む日本政府の姿勢は平和に逆行しています。今後は、沖縄諸島だけでなく日本各地に戦闘機や巡航ミサイル等が配備されます。私たちの税金は、教育、医療、福祉に用いてほしいものです。

新型コロナウイルスへの台湾や韓国政府の迅速な対応に比べ、日本政府の初動の遅れは明らかです。オリンピック開催の可能性を探っ

ていたからでしょう。「いのち」より経済を優先する政府は、突然「非常事態宣言」を発令しました。感染拡大を止める措置は必要ですが、国家が一方的に国民を統括するような体制を安易に受け入れるのは危険です。営業自粛の義務化と補償は本来セットで実施されるものでしょうし、防衛費を取り崩せば可能ではないでしょうか。

(注)「東京新聞」2020年5月11日「軍廃止、保健・教育が充実」

「炊き出しの列にならぶイエス」

上記タイトルの木版画（フリッツ・アイヘンバーグ作）をご覧になったことがあると思います。本田哲郎神父の著作でも触れられています。今や、炊き出しの列だけでなく、失業し生きる気力を失った人、ネットカフェで夜を明かす人、DV被害者や子どもたち、死と隣り合わせの医療従事者、イエスはその只中におられます。平和のきずなに結ばれて、神の働きに連なる歩みへと押し出されたいと願っています。

天の窓は開かれた —世界バプテスト 祈禱週間によせて—

◎ 昨年のペンテコステの朝

昨年6月のペンテコステの日曜の朝、教会学校の時間、騒がしい声を聞きつけ幼小科の部屋に行ってみるとアジアの方と思われる若い女性がニコリと座っておられました。話を聞いてみると、日本に来て5年目のミャンマーのカチン州出身の方でした。その方は昨年4月より小樽市内で正社員として働いており、4月からずっと礼拝に出席するために、仕事で休みがもらえるように祈り、上司に掛け合っていたそうです。6月になりようやく休みがもらえて、インターネットで調べて小樽教会にたどり着いたということでした。数カ月礼拝と交わりを共にし、この教会の礼拝に出席し続けたい、献金も定期的にしたいたいということで転入会クラスをしました。日本バプテスト同盟・東京平和教会の大矢直人牧師にご相談すると、ミャンマーでは教会籍を移すという習慣が日本のバプテスト教会のように無く、5年ぐらいいたら教会員と見なされる場合が多いということでした。執事会とも協議を重ねながら、ミャンマーのお母様にもご協力いただき、教会員数が1万人ほどのミャンマーの教会でバプテストマを受けたという証明証の写しを確保し、ご本人の意思により日本で新たに教会籍を起すこととなりました。2019年度の小樽教会のテーマ聖句は「わたしたちの内に働く御力によって、



わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン」(エフェソ3:20～21)でした。この聖句のように、私たちの想定と想像をはるかに超える神さまは、私たちに共に礼拝する神の家族を遣わしてくださいました。

◎ 私たちの小さな 取り組みとして

小樽は昔から札幌と並んで国内からの観光客も多い非常に魅力的な町で冬はスキー、夏は運河観光や歴史的な石づくりの立派な銀行の建物などで有名ですが、近年ではアジア諸国からの観光客が増えて来ています。英語ができれば道を聞かれても困らないよねという話をする中で、まず教会員のお子さんやお孫さん、教会学校

にいらっしやっていたお子さんなどを対象として子ども英語クラブを月に一度やってみようということになり、昨年度からその取り組みが始まりました。実際小樽教会の礼拝にも、この一年だけでもミャンマー、ロシア、台湾、アメリカ、韓国からの出席者が与えられ、その度に生徒たちは英語で挨拶をします。小さなことかもしれませんが、外国からいらっしやった方々とまずは挨拶から、顔を合わせて話す経験が子どもたちにとって豊かなものとなるように、そして世界中にイエスさまを信じる人たちがいるんだよ、ということを伝えています。もう一つの私たちの小さな取り組みとして、昼食時にルワンダのコーヒーやインドのチャイ、手作りクッキーなどを販売し、その売上げをインドの幼稚園に服や文具、おもちゃを送るために捧げたり、「世界バプテスト祈禱献金」に捧げることを年間を通して続けています。11月末の礼拝の中ではルツの会という女性信徒の会が献金のアピールと、それぞれの宣教師、働き人、また様々な伝道活動をおぼえて代表祈禱をします。



ものみな主のみ手にあり

かつては、国外伝道といえば船で外国に宣教師を派遣し、祈り支えることでした。しかし今では、飛行機に乗って各国へ出かけてゆく働き人たちを見送り、祈り、捧げ、支え、励まし励まされる形となりました。形は変わりましたが、どの時代においても、私たちすべての者は主のみ手の内に置かれ、生かされ恵みをいただいていることに変わりはありません。イエスさまの十字架と復活を通して明確に提示されているその赦し、福音、招き、受容、祝福を祈りながら小さなことから、半径500メートルの範囲の中でもできることを見つけて前向きに取り組む続けたいと思います。

「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」(フィリピ4:13)。これは小樽教会始まって以来、初の外国籍の方の転入の証で読まれた愛唱聖句です。世界バプテスト祈禱週間に、私たち自身もまた祈りにおぼえられていることを感謝しつつ、小さな子どもたちや教会のみんなと、神さまのなさるわざの大きさと豊かさを分かち合ってゆけたらと願っています。

今、改めて 「教会学校の目的」に目を向ける



教会学校と バプテスト教会の形成

「教会学校の目的は、その活動を通してすべての人びとがイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の全領域において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある」

今、改めて 教会学校の意義を考える

『聖書教育』誌の本号がお手元に届く頃、私たちを取り巻く状況はどのようになっているのでしょうか。この原稿を執筆している時点(6月中旬)では自粛ムードも和らぎ、多くの教会から、会堂(一カ所)に集まる礼拝が再開されたという知らせが届いています。しかし、心からの解放感よりも、気を配り、予防に努めながらの礼拝という側面も拭いきることができません。本号がお手元に届く秋以降、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況がどのようになり、礼拝がどのように守られているのか予測がつかないというのがこの時点での「現実」です。

COVID-19の影響により、多くの教会が集まることを断念し、Webを用いたりモート礼拝や、説教原稿や週報を配布するということによる在宅での礼拝を行いました。また、細心の注意を払いながら会堂に集まって礼拝を続けた教会もありました。私たちはそれぞれの教会の判断を互いに大切にしてきました。

ところで、まだ自粛要請がなされる前、しかし、感染拡大が現実となり始めた頃、複数の教会が礼拝以外の集会を休会とするという判断をしました。礼拝以外の集会の中に「教会学校」も含まれていました。礼拝を大切に、何よりも優先するという事は間違いではありません。けれども、このような経験を経たからこそ、私たちは、改めて「教会学校」の意味と意義を確認したいのです。

教会学校のイメージと 六項のコメント

神学校を卒業して数年後、私は他派の夜間神学校で1年間教会教育の講座を聴講させていただきました。この時20名ほどの神学生の方々と一緒に学んだのですが、時折、私と他の神学生の方々との話が噛み合わない時がありました。その様子を見ていた講師の先生が「中田さんの教派であるバプテスト連盟の教会学校は大人のクラスもあるのですよ」とおっしゃいました。それを聞いた他の神学生の方々は驚いていました。私以外の学生は教会学校というのは子どもを対象とした教会活動というイメージで話をしていたので、全年齢層の教会学校というイメージを持っていた私と話が噛み合わなかったのです。

さて、「教会学校の目的」も全年齢層の「教会学校」を前提としています。そして、教会学校のより具体的な活動内容とイメージを示



日本バプテスト連盟 常務理事
所沢キリスト教会 協力牧師
中田義直

しているのが1992年に教会学校の働きについて宣教部が策定した六項からなるコメントです。

- 1) 教会教育の一つの重要な働きとして、教会学校をとらえる。
- 2) 充実した聖書の学びが必要である。
- 3) すべての人々が信仰告白に導かれるためのアウトリーチ活動の充実。
- 4) 教師が生徒を教えるという一方通行の学びより、そこでの人と人との出会い、そこから生れるイエス・キリストとの出会いを重視する。
- 5) 信徒が伝道・牧会を担い合う場としての教会学校を教会形成の一環として重視する。
- 6) 生の全領域としての隣人性、いと小さきものからの視点、平和をつくり出すものとしての視点、いのちを大切にするとする視点等が含まれる。

このコメントが出された背景には、世代別のカリキュラムから全年齢層で同じ聖書箇所を取り上げる「統一カリキュラム」へと移行するという『聖書教育』誌の大きな転換がありました。この時、宣教部は1971年の「教会学校の目的」を確認すると共に六項のコメントを策定したのです。

策定された頃は、特に第3項のアウトリーチ活動に力を入れた教会学校の推進が行われました。連盟の資金的サポートによる新規

伝道（いわゆる「開拓」伝道）が活発に推進された時期でした。その後、教会学校の推進において第4項と第5項が重視されるようになりました。共同学習、相互牧会の場としての教会学校です。確かに新規伝道が推進される中での教会学校も共同学習や相互牧会を重視していました。しかし、宣教理解において、他者を変えることよりも、共に育ち、共に変わるということをより大切にするという視点で共同学習、相互牧会が重視されるようになったのです。

私たちの教会学校と バプテスト教会の形成

ところで、「教会学校の目的」には「すべての人々が」と記されています。そして、これは「信仰告白に導かれ」るようという目的だけでなく、それ以降のすべての項目にかかっています。ですから、「教会学校の目的」が前提としているバプテスト教会は、そこに集うすべての人々が、教会形成に参加し、自ら主体的に主の言葉に耳を傾け、主を証しする信仰共同体といえるでしょう。そしてこのような教会形成を、教会学校という信徒間の共同学習と相互牧会によって行っていくことを私たちは大切にしてきたのです。

礼拝を第一に、それは本当に大切なことでしょう。同じように、教会学校もバプテスト教会の形成にとって極めて重要です。集まることが困難な状況の中にあっても、「教会学校の目的」に示されている事柄を大切に、バプテスト教会の形成に取り組んでいきたいのです。

執筆者紹介



概論・聖書の学び・成人科・
みんなで聴く聖書のおはなし

さかもと さちこ
坂元 幸子

藤沢バプテスト教会 牧師

青年時代にコヘレトの言葉に魅了されました。聖書にはこんな書もあるんだ！その驚きはやがてキリストにある新しい創造を信じる決心へとつながりました。神学校でコヘレトを学んだ時、B教授が笑顔で言いました。「コヘレトの精神を最も受け継いでいるのは実は主イエスである」。今号の執筆者会議でもそのことを皆さんと共有しました。皮肉屋のようであるが実はユーモアと慈しみに満ちたコヘレトの視点を、今の時代の私たちへのエールとして聴きたいと思います。



青少年科

もり きょうこ
森 恭子

高崎キリスト教会 教会員

時々刻々と世の中の状況が変わる中で、いったいどのような言葉が届くのか、まさに「空しさ」との戦いでした。「知恵も知識も愚かである」とコヘレトは言いますが、「今の私にはどちらも必要です（泣）」と文句たらたら3カ月でした。執筆者会議の中でいただいた言葉の数々は、貴重な黙想のヒントになりました。コヘレトを開くときに、青少年科がみなさんの黙想のタネになれば幸いです。



幼小科

とみた なおみ
富田 直美

市川大野キリスト教会 教会員

聖書の中で出会う「納得のいく言葉」はその時の慰めになるかもしれない、でも、本当に前へ向かって歩いていく力は、じっくりと「考えさせてくれる言葉」なのではないかと、コヘレトの言葉を何度も読み返しながら感じています。想像もつかない事態に何を大事に過ごすのか… 今、すべきことへと導かれ、新しい一歩を踏み出すことにいたしました。皆さまはどんなメッセージを受け取るようになるでしょう、期待しています。



表紙

みうら あや
三浦 あや

藤沢バプテスト教会 教会員

「そのそのそら」
聖書を読んでいて、分かったつもりで分からない、理解できても、実践できない…やりきれない気持ちになる時があります。そんな時にふと、空を見上げると神さまの「息吹（風）」を感じます。コヘレトの時代も現代も人生への悩みは尽きません。けれども「生きよ！」と神さまが呼びかけ続けています。虚無的なコヘレトの言葉の中にも、この時代への希望の光が少し差し込んでいるようなイメージを、秋らしい色彩で表現しました。

編集後記

編集人 長尾なつみ（府中キリスト教会 牧師）

- 新型コロナウイルスの影響で、教会に共に集まり、宣教を聴き、賛美するということが当たり前ではなくなってしまったこの時、「教会学校」はどうされていますか。それぞれの教会でいろいろな工夫がなされていることと思いますが、そのために『聖書教育』が豊かに用いられますように祈ります。
- 東京バプテスト神学校の2020年度後期授業（教会学校論）において、『聖書教育』の編集委員と編集スタッフが特別講師となり、いくつかの講座

を担当することになりました。「教会学校論」はオンラインの公開講座となっていますので、「聖書教育フォーラム」のように多くの皆さんにご参加いただければと願っています。詳しくは、東京バプテスト神学校へお問合せください。

- 2020年7月より、宣教部に富田直美教会教育室長を迎えました。『聖書教育』の編集にも助力いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この時代に 「コヘレトの言葉」を読む

藤沢バプテスト教会
牧師 坂元幸子

「コヘレト」は「集会を招集する者・伝道者」という意味を持つヘブライ語です。これがラテン語で「集会のメンバー」を意味する「エクレーシアステース」と訳され、英語の書名「Ecclesiastes」（イクリージャスティース）の語源となりました。著者と成立年代はよく分かっていませんが、伝統的なソロモン王説よりもずっと後代、紀元前3～2世紀頃であろうとされています。

でした。悪人が悪によって長らえ、義人が正しさによっては報われない世の中で、唯一公平なのは、「先はわからないこと」、そして「人は誰もが必ず死を迎えること」、コヘレトはそう語ります。神さまは一体どこにおられるのかと人々が問う時、コヘレトは「時」の中に働く「隠された神」の姿をさし示します。私たちの目には見えないけれど確かに生きて働いておられる「隠された神」、この方こそ私たち人間の生死をつかさどり、「時」の中にご自身を現わされる創造主なのです。

「空」（ヘベル） ～コヘレトの思想の中心

コヘレトの言葉で有名なのは冒頭の「空」です。これは著者の世界観・社会観・人間観を表すキーワードです（ヘブライ語で「ヘベル」）。新共同訳は「空しい」と訳しますが、他のほとんどの日本語訳では「空」と訳されています。「空」は、人間の存在のはかなさ、この世と人間の営みの無常さを表しますが、同時に、人間は自らを保障する何物をも実は持っていないと告白する言葉でもあります。コヘレトにとって「空」は、「主を畏れること」がもたらす「知恵の初め」（箴言1:7）そのものであると言えるでしょう。

今日という日を生きる！ ～私たちの時代

コヘレトはまた、「今日」という日は神がくださる恵みの賜物であると何度も強調しています。「空」なる人生の中で神が人間に与えてくださる「神の賜物」を受け取る「喜び」（コヘレト3:12～13、5:19、11:9他）、この「喜び」もまた、この書のもう一つのキーワードです。新型コロナウイルスの脅威の為に世界中が根底から揺り動かされている2020年、時代の大きな変革期に居合わせている私たちに、今こそコヘレトの言葉が「刺さる言葉」として身近に響いてくるのではないのでしょうか。

「時」の中に隠された神 ～コヘレトの時代

コヘレトの時代、それは神に忠実に正しく生きようとする人にもそうでない人にも、急激な人生の変化と悲劇が突然襲いかかる時代

参考図書

- ①現代聖書注解『コヘレトの言葉』、W.P. ブラウン 著、小友聡訳、日本基督教団出版局
- ②『コヘレトの言葉を読もう～「生きよ」と呼びかける書』、小友聡、日本基督教団出版局。



風を追うようなこと

聖書 コヘレトの言葉 1章1～18節

暗唱 聖句 見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった。
コヘレト 1：14

27課

10月4日

「コヘレトの言葉」について

「コヘレト」とはヘブライ語の動詞カーハールの分詞形で二つの意味があります。一つは「集会を招集する者」です。「説教者」「伝道者」「教師」と訳されます。「コヘレトの言葉」が「伝道（者）の書」と呼ばれる聖書があるのもそのためです。また、もう一つの意味は「知恵の格言をまとめて収集する者」です。つまり、格言、知恵と知識の語句、真理の言葉、賢者の言葉を集めて記録し編集する人です（コヘレト 12：10～11）。著者が伝統的にソロモン王とされたのも冒頭の「エルサレムの王、ダビデの子」（1：1）という「自己紹介」と、ソロモン王が非常に知恵のある者であったという伝承（列王記上 5：9～12）によります。しかし、書全体の内容や使用言語には明らかにバビロン捕囚以後のペルシャ時代やヘレニズム時代の影響が随所に見られるため、著作年代はソロモンの時代よりもっと遅い紀元前3～2世紀頃との説が今では一般的に広く受け入れられています。

人生は「空」

「なんという空しさ、すべては空しい」と新共同訳は形容詞形を用いています。しかし、ここは原語のヘブライ語では「名詞」の「ヘベル」を重ねて最上級形にした「ハバール・ハバーリーム」で、「まったくの、徹底した空（ヘベル）」を意味します。口語訳、岩波訳、聖書協会共同訳、新改訳2017年版、いずれも同様に「空の空」を用いています。ヘベ

ルはもともと「蒸気、息、霧、煙」等を意味し、「吹き払われる息」（箴言 21：6）、「ひと息」（イザヤ 57：13）と同じ語です。ヘベルが人名になる例は創世記 4：2の「アベル」です。

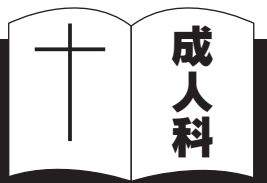
コヘレトは、「太陽の下」（1：3、9、13、14）で人は労苦（労働）するが、それらが「何になろう」と語ります。ここには「何の『利益』（イトロン）があるか」という経済用語が使われています。つまり、平たく言えば、「そこには何の儲けもない」と言っているのです。またコヘレトは時代や世代の変化、太陽や風、川、海といった自然現象を観察し、それらは終わりなく繰り返されるばかりで「新しいものは何ひとつない」（1：9）と語ります。「これこそ新しい」と人々が言ってもそれは以前もあったもので、時代が変化すると後の人々は誰も心に留めないのです（1：10～11）。コヘレトは、この世界を熱心に探究し、知恵を尽くして調べた結果、それらはすべて「空」であり、そのような世界を知ろうと心を傾けることそのものが「風を追うようなこと」（1：14）であると結論するのです。

風を追うようなこと

「風」は「ルアハ」という語で「息、霊」の意味もあります。風と言えば主イエスの「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない」（ヨハネ 3：8）が思い出されます。主イエスは、神の霊の働きは人間には捉えることも制御することもできない自由なものであるとイスラエルの教師ニコデモに言われま

した。コヘレトもまた言います。太陽の下で起こることはすべて、結局は人間には理解することも、支配も制御することもできないと。岩波訳は「風を追うようなこと」を「風を養うこと」と訳しています（または「風を飼うこと」、岩波訳脚注）。この世界の自然現象も、社会の出来事も、世代の変化も、人生の労苦や苦しみも、すべては空（ヘベル）であって人間には把握も理解も支配もコントロールもできない、それはちょうど風を飼いならそうとするにひとしいことなのだ。これが、コヘレトが見極め、聴き手に伝えようとしている「知恵」です。そしてその知恵は、現代の私たちの心にも刺さる言葉として迫ってくるのです。

準備のための聖書日課		
28日	㊦	出エジプト記32:15～24 モーセの激しい怒り
29日	㊧	出エジプト記33:12～17 あなたの道をお示してください
30日	㊨	出エジプト記33:18～23 憐れもうとする者を憐れむ主
1日	㊩	列王記上5:9～14 名立たるソロモン王の知恵
2日	㊪	詩編39:3～10 すべては空しいもの
3日	㊫	ヨハネ3:1～15 風は思いのままに吹く



成人科

- 「コヘレトの言葉」の出だしは日本の古典に似ています。（例）「ゆ

く川の流は絶えずして、しかも、もとの水にあらず」（方丈記）、「祇園精舎（ぎおんしょうじや）の鐘（かね）の声、諸行無常（しよぎやうむじやう）の響きあり…たけき者も遂にはほろびぬ、ひとへに風の前の塵に同じ」（平家物語）。このような書が聖書にあることで聖書に関心を持つ人がまわりにはいるのではないのでしょうか。

「コヘレトの言葉」は聖書のいろいろな訳を読み比べることで興味が増します。手元にいくつかの異なる訳を用意しましょう。

- キリスト者は「いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝」していないといけない、あるいは、神さまや信仰について疑問を持つのは不信仰、という決めつけが教会の中にないでしょうか。「コヘレトの言葉」はそのような信仰理解に一石を投じてきます。「空しく思えること、無力に感じること、失望すること」、それもまた大切な信仰の体験なのだ、そう語りかけていると言えないのでしょうか。
- 奉仕や教会の人間関係で疲れを覚えている人がいるのではないのでしょうか。そのような時、どのように語りかけ、どう寄り添ったらよいのでしょうか。

風を追うようなこと

聖書 コヘレトの言葉 1章1～18節

暗唱 聖句 見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった。
コヘレト 1：14

27 課

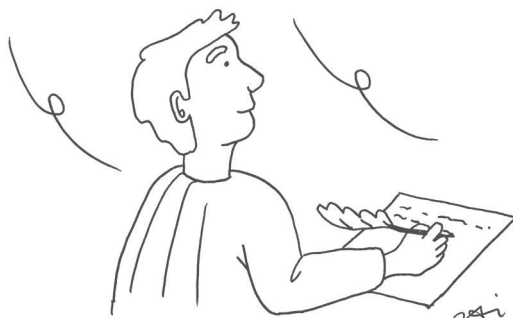
10 月 4 日

皆さんは「むなしい」と感じたことはありませんか？たとえば一生懸命努力してもうまくいかなかった、期待したようにならなかった、そんな時、「むなしい」と感じますね。

旧約聖書の「コヘレトの言葉」という書は「なんというむなしさ、すべては空しい」という言葉で始まり、書全体に「空しい」が繰り返されます。聖書と言えば、悩んだ時に元気や勇気を、絶望した時に希望を与えてくれる神さまの本だと教えられています。確かにそのとおりです。しかし、そう思って「コヘレトの言葉」を読むと、ずいぶん戸惑います。「空しい」がたくさん繰り返されているからです。

著者コヘレトとは誰でしょうか。長い間、知恵ある王ソロモンだと言われてきました。ソロモン王は今から3000年ほど前の人です。しかし、聖書の研究者たちが調べた結果、コヘレトの生きた時代はソロモン王よりもっとあと、今から2300～2200年くらいであろうことが分かってきました。コヘレトは自分の生きた時代の中で、「自分はこの時代のソロモンである」と自己紹介してこの書を書いたのかもしれませんが。おもしろいですね。

コヘレトは確かに「空しい、空しい、チヨー空しいよ！」と言います。自然の世界の現象や世の中の動きは果てしなく同じことの繰り返しだからです。またコヘレトの生きた時代にはさまざまな急激な変化が起



こっていました。頼れる確かなものが何もなく、がんばっても報われない、正しく生きようとしてもそうできない、コヘレトはそう感じていたのです。ですから、知恵と知識を得ても結局それはまるで風をつかまえて飼おうとするようなことだ、とコヘレトは言うのです。確かに風はつかんだり、捉えたり、言うことを聞かせて思いのままにすることはできません。

ところで「風」と聞くと、イエスさまの言葉が思い出されませんか。イエスさまも風を神さまの霊の自由な働きにたとえてこう言われました「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない」（ヨハネ3：8）。そう考えると、コヘレトの言う「空しい」は、必ずしも「つまらない・がっかりだ」と言うことではなさそうです。「コヘレトさん、あなたはいったい私たちに何を伝えようとしているのですか？」この問いかけと共にコヘレトの言葉をいっしょに読んでゆきませんか。その時、コヘレトの言葉を通して神さまご自身が私たちに語っていることが聞こえてくるのではないのでしょうか。

風を追うようなこと

聖書 コヘレトの言葉 1章1～18節

暗唱 見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった。
聖句 コヘレト1：14

27課

10月4日

聖書から…

「空しい」という言葉を日頃の会話で使いますか。どのような時に用いるでしょうか。コヘレトは経済用語と共に使っています。ものを手に入れるために貨幣が用いられるようになり「お金が重要」そんな価値観が広がっていった時代、コヘレトが見渡す世界だけでも格差や差別が大きくなっていったようです。そんな空しさをコヘレトは「風を追うようなこと」とも表現します（聖書の学びより）。

風を追うようなこと…風という言葉には「霊」という意味もあります。神の霊は人間が考えるようなことを、ずっと飛び越えてしまうような自由さを持っている。そう想像しながら「空しい」そう繰り返される言葉を読むとき、コヘレトが言う空しさは「良くない」感情なのだろうかと疑問にも思います。空しさを「良くない」と感じてしまうその背景には「良い」状態が「充実している」「元気がある」「できる」「仕事で充実している」…そういった価値観で良し悪しを判断している世界があるように感じるのです。

「知恵も知識も狂気であり愚かであるにすぎない」（1：17）人間の考える知恵（謀りごと）に厳しい言葉で向き合うコヘレト。人生の歩みの中で見出した、コヘレトが読者に伝えたい価値観は何なのでしょう。これからコヘレトの言葉を読み進めてまいりましょう。

分かち合おう

- コヘレトが言う「空しい」には、どのような意味が込められているでしょうか。「空しい」という言葉（形容詞）を辞書で引くと①からっぽだ。内容がない。②むだだ。かいがない。役に立たない。…等の解説があります。しかしコヘレトは名詞の「ヘベル」を繰り返すことで「空の空」（口語訳等）と表現しています。「ヘベル」に「蒸気、息、霧、煙」などの意味があることも参考してみましょう。また、長い学生生活の中で多くの知識や知恵を身に付ける私たちですが、これは「愚か」なののでしょうか。
- SNSを利用したりしますか。複数のアカウント（SNS上でのペンネーム）を持って、同じ趣味の人とつながったり、本音と建前でアカウントを変えたりするコミュニケーション方法があるそうです。「リア充」という言葉も、SNS上で充実した生活をアピールする言葉として流行しました。きっとどの投稿も「本当の自分」なのでしょう。しかし現実とのギャップに「空しさ」を感じることはありませんか。なにか分裂してしまったような「自分」を本当に埋めるものは何でしょうか。

風を追うようなこと

聖書 コヘレトの言葉 1章1～18節

暗唱 聖句 見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった。
コヘレト 1：14

27 課

10 月 4 日

聖書から…

風は見ることができるのでしょうか？ 風は見ることはできません。どうして風は見えないのでしょうか？ 色や形がないからです。私たちは色や形の無いものを目で確認することはできません。風を起こすことはできるのでしょうか？ うちわであおぐ、口で「ふー」と、息を吐く等すると風を感じることができます。

では風を捕まえることができるのでしょうか？ ビニール袋に息を吹き入れ、「ふー」と風船を膨らませてみると膨らみますが、これで風を捕まえたことになるのでしょうか？ 捕まった風（ビニール袋や風船の中に入っている空気）は風でしょうか？ 動かない風は風ではないですね、私たちは風を見ることも捕まえることもできません。

神さまのなさる業の前には、私たちにできることがあまりにも小さくて意味のない事のように思えます。そんながっかりするような心が空になるような思いをコヘレトは「^かアッ空しい」と言っています。それならみんな神さまに任せておけばいいのでしょうか？ それでいいはずがないと皆さんは思うではありませんか？ そんなことを思う、知恵や知識についてコヘレトは悩みながら伝えようとしてくださっています。

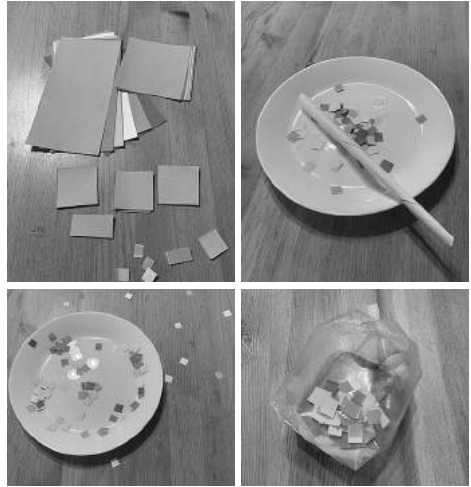
風が見えなくても大きな力があるように、見えない神さまの計画に期待して、神さまの言葉を聞いていきましょう。

活動①

「風の吹くまま」

●準備●ちぎった色紙、皿、ストロー、ビニール袋

- ①皿にちぎった色紙を入れ、ストローを向けて吹きます。
- ②色紙が吹き飛んで、テーブルや床に綺麗な模様ができます。
- ③吹き飛んだ色紙をビニール袋に入れて、ボールを作って遊びます。ふーっと息を吹きかけ風を起こしてコロコロと転がし、風を感じてみましょう。



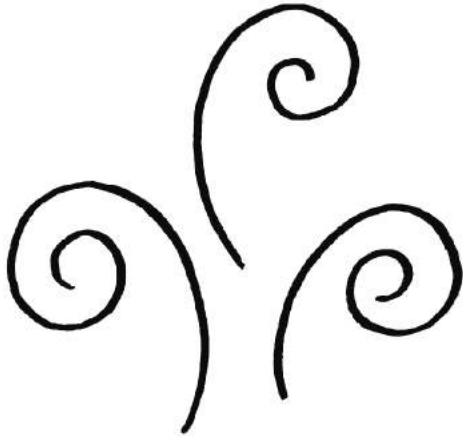
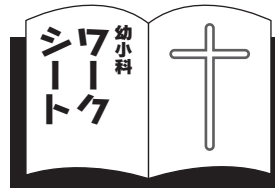
活動②

ワークシート

「風はなにいろ？」

●準備●ワークシート人数分、色鉛筆

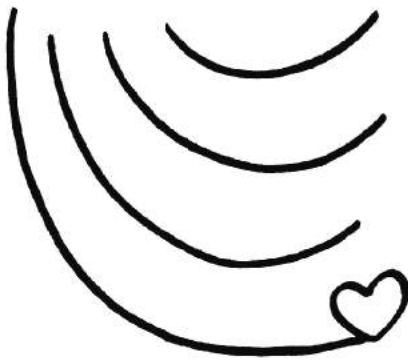
- ①ワークシートに自分がイメージするそれぞれの色をぬっていきます。
- ②色をぬった後、どんな色をぬったのか、紹介し合ってみましょう。



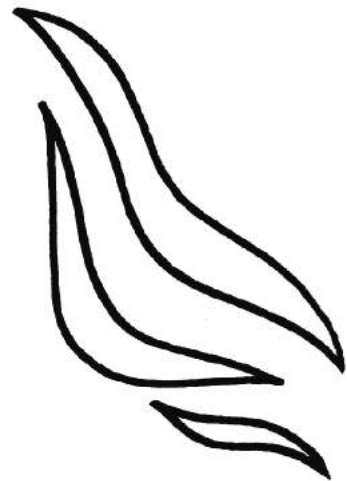
うれしいとき



かなしいとき



かみさまのかぜ



あしたのかぜ

何事にも時がある (3:1 ~ 8)

ギリシア語では流れ行く量的な時間を「クロノス」、それに対して質的な時間、つまり一定の意味を持つ時、いわば決定的瞬間を「カイロス」と呼んで区別します。コヘレト3章の「時」はヘブライ語で「エート」と言っ
て「時期、時機、頃合」等と訳され、カイロスの時を意味します。「神によって定められた時」です。2～8節は対立並行法で14対の対句が詩的に語られます。2節の人間の誕生と死の時、農作業に関わる判断の時はいずれも人間の力の及ばない「時」です。3～4節は「殺す・破壊する・泣く・嘆く」の消極的な行為が先に、「癒す・建てる・笑う・踊る」の肯定的・積極的な行為が後に書かれます。表現上の単調さを破るリズムを感じます。これら対句になって表現されている一つひとつに、私たちは自らの人生で体験する出来事を重ねて読むのではないのでしょうか。

神はすべてを時宜に適うように造り、また永遠を思う心を人に与えられる

1～8節のさまざまな行為の主語は実は人間ではなく神ご自身です。その「時」の背後に、この方が物事を真の意味で決定なさる方であることをコヘレトは告白しています。「神はすべてを時宜にかなうように造られ」の「かなう」は「美しい・麗しい」(ヤーペー)が原語で、「神の時のふさわしさ」を表します。有限な人間は神の与えられる「時」の中に永

遠を思い、神の永遠性にあずかるのです。しかし人間には神のなさる業を初めから終わりまで、つまり永遠性を見極めることは許されていません。人間がそのような限りある存在であること、それは、「神は人間が神を畏れ敬うように定められた」(3：15)からです。「神は天にいまし、あなたは地上にいる」(5：1)のです。

神の賜物としての日常生活の喜び

コヘレトは、そのような人間にとって最大の幸福は、喜び楽しんで一生を送ることだと言います。人だれもが飲み食いし、その労苦によって満足することは神の賜物だ、と言います(3：12～13)。彼は2章でも、「人間にとって最も良いのは、飲み食いし、自分の労苦によって魂を満足させること。しかしそれも、わたしの見たところでは、神の手からいただくもの」と言っています(2：24～26)。「幸福・良い」は「トープ」で神の祝福を表す言葉です。創世記1章の「神はこれを見て、良しとされた」(1：3、10、12、18、21、25)、「極めて良かった」(同1：31)と同じ語です。

この「神の賜物」についてコヘレトは繰り返し語っています(2：24～25、3：12～13、3：22、5：17～19、8：15、9：7～9)。それは実は「コヘレトの言葉」全体をつらぬくもう一つの大きなテーマです。世界や人生を「空」(ヘベル)と見極めたこの知恵の教師コヘレトは、その「空」なる世

界の中で神は「隠されている神」であり、時と共に働く方だと告白しています。しかしその「隠されている神」が、実は私たちの日々の生活の中で共に生き、飲み食い等の小さな日常生活を「神の賜物・喜び」として与えてくださる方なのです。神は人間が神を畏れ敬うように定められました(3:14)。確かに「主を畏れることは知恵の初め」です(箴言 1:7、9:10、15:33)。

15節の「追いやられたもの」(ニルダブ、コヘレトの書のみ言葉)は「迫害された者」、「失われた者」とも訳されます(岩波訳脚注)。そのような者を神は尋ね求められておられます。そして、「空」である世界と人生の中において、そのように働かれる神と神ご自身の時が、私たちの真の希望なのです。

準備のための聖書日課

5日	㊦	創世記1:31~2:3	天地万物は極めて良かった
6日	㊦	箴言9:7~12	知恵の初めとは何か
7日	㊦	箴言16:1~9	あなたの業を主に委ねよ
8日	㊦	コヘレト2:1~11	すべては風を追うようなこと
9日	㊦	コヘレト2:12~26	神の手からいただくもの
10日	㊦	コヘレト5:1~6	神は天にいます



成人科

- 「何事にも時がある」とは、決して運命論や宿命論ではありません。

人間には時の受け手として、時を最善に用いて生きる責任があるのではないのでしょうか(エフェソ5:16、IIテモテ4:2)。私たちには限界があり、最終的にすべてを時に適うようになさるのは神さまご自身です(参照:箴言16:3、16:9、16:33)。その中で、人間は選択肢を与えられ、自ら決定して主体的に生きるということを考えてみましょう。

- どのような時に、すべてのことには神さまの定めた時があるのだと感じたか、分かちあってみましょう。但し何事でもこじつけのように「み心だったのだ」とつじつま合わせをする必要はありません。ある人は「神のみ心は(車の)バックミラーでしか分からない」と言いました。振り返ってみて初めて分かるもの、という意味です。
- 教会生活で食事を共にするのは誰にとっても楽しいひとときです。現代では大人も子どもも日常的な「孤食」がめずらしくありません。共なる食事は神さまの恵みそのものです。

神の永遠の中で

聖書 コヘレトの言葉 3章1~17節

暗唱 聖句 神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。コヘレト 3：11

28 課

10 月 11 日

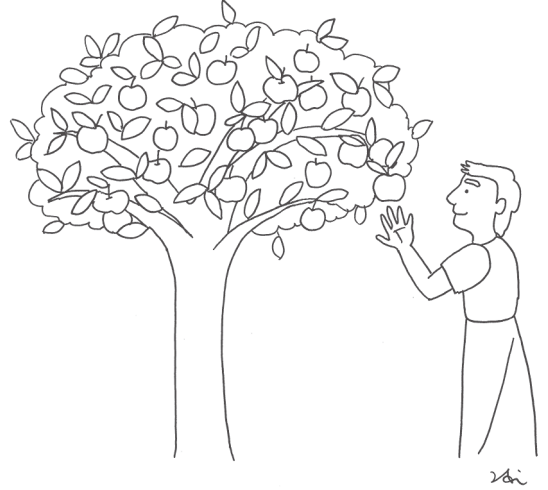
ある日、コヘレトは考えました。

空しいこの世界、神さまはいったいどこにいるのだろうか。神さまは正しい者と悪い者をきちんと裁いてくださる方ではないのだろうか。正しい人が苦しみ、悪い人が好きほうだいしているようなこの世の中、神さまはいったい何をしているのだろうか。

そんなことを考えながら庭園の中を散歩していたコヘレトは、いつも見かける1本の木に小さな実がなっているのを見つけました。その木はいままで決して実がなかった木です。「おや、この木に実がなったのは初めてかな？」コヘレトはうれしくなりました。

振り返ってみると、今まで気がつかなかったことにいろいろと気づかされ、はっとしました。庭園の木はいつのまにかずいぶんと枝ぶりがよくなり、たくましく育っています。毎日見ていたのに考え事でいっぱいだったコヘレトの目には、木の成長が目に入っていなかったのです。「命と成長を与える神さま、あなたはいつのまにか働いておられたのですね」、コヘレトはそっと心の中でつぶやきました。

コヘレトはそれから町に出て、にぎやかな市場の中を歩きました。ところどころでいろいろな人々が食事をしています。家族らしき人たち。友人同士の人たち。年取った人たち。子どもたち。ぜいたくな食べ物は何一つないけれど、皆は笑顔でいっぱいです。ささやかな食事を共にできること。



「これこそ神さま、あなたがくださる恵み、喜びなのですね」、コヘレトはふたたびの中でつぶやきました。

神さまの恵みはバックミラーをのぞいてわかるもの、と言った人がいます。私たちは何が神さまのみ心で、どれが神さまのご計画か、前もってわかりません。だから悩むのです。そして悩みながら何かを選んで行動します。そして時間が経ってあとから振り返ってみた時、わかるのです。確かにそこに神さまが共にいてくださり、働いてくださったということが。

「神はすべてを時宜にかなうように造られた」。コヘレトは小さな声で言いました。「そうであるならば、神さま、たとえ目には見えなくても、あなたは今、この時も、私たちと共にいて、たしかに働いていてくださるのですね」。コヘレトはもう一度前を向き、力を込めて一歩、足を踏み出しました。それが、コヘレトの知恵。

神の永遠の中で

聖書

コヘレトの言葉 3章1～17節

暗唱
聖句

神はすべてを時宣にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。コヘレト 3：11

聖書から…

暗唱聖句である3章11節は、前半だけを讀むと、いささかの戸惑いを覚えます。地震や水害などの天災やそれに伴う人災を経験したり目の当たりにしたりするとき、思いもかけないような悲しみに出会ったとき、「そんなことを簡単に言わないで」と感じることもあるでしょう。11節後半の「永遠を思う心」に視点を向けて、前半のみ言葉に向き合ってみました。

長い長いときの流れの中で「わたし」の人生の時間は、ほんのわずかな時間に過ぎません。私たちが口にする永遠は、とうてい神の永遠性には及ばないものです。「わたし」の時間の中で起こった「(良い・悪い) 時」に焦点を当てて神を思うのではなく、神の永遠の時の中で「わたし」の人生が決定的な「時(エート・カイロス)」として刻まれ、神に覚えられていく…コヘレトはそう考えたのかもしれませんが。だからと言って、身の周りの悲しい出来事がすべて「時」なのだから諦めなさい、ということではないと思います。「人間にとって最も幸福なのは 喜び楽しんで一生を送ることだ」(3：12) 人間だれもが喜びのうちに生ききることを、神さまは望んでおられます。現にコヘレトはこの喜び(飲み食いし 自分の労苦によって満足すること)は神の手からいただくもの(2：24、3：14)と語ります。神に属する「時」の中で生かされている、そのような私たちです。

分かち合おう

- 「人間は突然訪れる「時」の謎の中で神さまに出会うと(コヘレトは) いうのです」(『聖書教育』2013年10月11日月号P.45)との言葉が印象に残りました。思いもかけない人生の出来事の中で、神さまに「なぜですか」と問うても良い、そのような関係性を私たちは神さまからいただいているように思います。皆さんはどのように感じますか。
- この原稿を書いている最中、世界は新型コロナウイルス感染拡大のニュースで大混乱をしています。この冊子がお手元に届く頃には落ち着いていることを祈るばかりです。時々刻々変わる情報の中で、生活や学校生活なども混乱したことでしょう。2020年4月14日の朝日新聞に次のような言葉がありました(先の見通しが立たず、子どもが不安定になっているという記者の問いに)。「それじゃ、逆に聞くけど、コロナの前は安定してた？ 居心地はよかった？ こういう時『早く元に戻ればいい』って言われがちだけど、じゃあその元は本当に充実してたの？と問うてみたい。混乱や困惑の中で、神さまの「時」をどのように捉えますか。

神の永遠の中で

聖書 コヘレトの言葉 3章1～17節

暗唱 聖句 神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。コヘレト 3：11

28 課

10 月 11 日

聖書から…

朝ごはんを食べましたか？ 何を食べてきたでしょうか、お昼ご飯は何を食べたいですか？ 夕ご飯は何が食べたくないとしますか？ 今思い浮かべたメニューが、明日も明後日も、毎日同じだったとしても食べたいものになるのでしょうか？

私たちが今思い浮かべた「食べたいもの」は、きっと明日には変わってしまいますね。では、「お腹が空いて、食べなくなる」という体のリズムはどうでしょうか？

神さまは、私たちが健康に生きるために、お腹が空いて、体が必要としている栄養を取る機能を備えてくださいました。毎日繰り返し食べることは、私たちが考えてできるようになったのではなく、神さまがくださった恵みです。毎日食べ物を「美味しい」と感じて食べる事ができるのは喜びですね、神さまはそうした日常の喜びをくださる方です。

毎日何気なく見ているものや、いただいている恵みも、振り返って見て見なければ気づけない事がたくさんあります。私たちがどんなふうにご経過して、どんな時に神さまが働いていてくださったか思い出してみましょう。

活動①

「昨日何食べた？」

●準備●鏡、リーダーが前の週に食べたものをマジックで描いた用紙（文字で書くと逆さまになるので、絵で表します）、B5 程度の大きさの用紙、マジック

- ①用意した食べ物の絵をメンバーの後ろに置きます。
- ②メンバーは鏡を見てリーダーが先週食べたものを当てます。
- ③白用紙を配ってメンバーに食べたいものを描いてもらいます。
- ④描いたものを自分の前に置いて紹介してもらいます。
- ⑤鏡で見た先週食べた物、これから食べたいと思う物、過去にも未来にも神さまが働いてくださっていることを感じます。

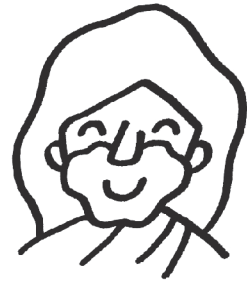
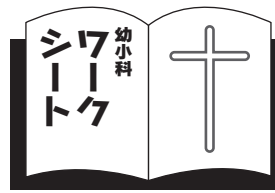
活動②

ワークシート

「何事にも時がある」

●準備●ワークシートを人数分、鉛筆

- ①対になっている言葉を線で結びます。聖書を開いて答えを見つけましょう。
- ②私たちの毎日感じる気持ちワークシートに並んでいますか？ その時、その時に神さまが共にいてくださることをおぼえていきたいですね。



- なげくとき ●
- うまれるとき ●
- うえるとき ●
- なくとき ●
- もとめるとき ●
- あいするとき ●
- たたかうとき ●
- たもつとき ●
- わらうとき ●
- おどるとき ●
- にくむとき ●
- しぬとき ●
- うえたものをぬくとき ●
- へいわのとき ●
- はなつとき ●
- うしなうとき ●



交わりの中で生きる勇氣

聖書 コヘレトの言葉 4章1～12節

暗唱聖句 ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。
コヘレト 4：9

29課

10月18日

「見よ、^{しいた}虐げられる人の涙を …、見よ、^{かこく}虐げる者の手にあ る力を…」

1節の原文は「見よ、涙を、虐げられる人の、見よ、力を、虐げる者の手にある」で、「涙」と「力（権力）」が強調されています。抑圧に苦しむ人、いじめられている人、差別されている人たちの状況は非常に過酷で、それがそのまま苦しめる側の人たちの手にある力の大きさを物語っています。状況のあまりの厳しさに慰める者さえいません。慰めの言葉も見つからず、なすすべがないのです。コヘレトはそのような状況を見て悲痛に叫びます。既に死んでしまった人間の方がむしろ幸せだ、こんな苦しみを味わわないですむから。いや、いっそ生まれて来なかった人間はもっと幸いだ…。コヘレトの憤りは、自分の生まれた日を呪ったあのヨブの悲嘆と響き合います。「なぜ、わたしは母の胎にいるうちに死んでしまわなかったのか。せめて、生まれてすぐに息絶えなかったのか」（ヨブ3：11）。

但し、コヘレトは別の箇所では正反対のことも言っています。「命あるもののうちに数えられてさえいればまだ安心だ。犬でも、生きていれば、死んだ獅子よりましだ」（コヘレト9：4～5）。おそらくどちらも本心なのです。コヘレトは、この空であって風を追うような世界でその両方を実感しているのだと思われます。

人間の努力の背後にある 嫉妬心・競争心

人間同士の抑圧に心を痛めるコヘレトは、人間の思いの根っこには互いに競い合い、相手より少しでも抜き出ようとする「競争心」（原語は「妬み」、キンアー）が動機にあることを見えています（4：4）。「太陽の下、人は労苦するが、すべての労苦は何（の益）になろう」（1：3）というコヘレトの嘆きは、人のあらゆる労働や活動が嫉妬に基づく競争心に動かされ、生きることそのものを歪め、人生を根こそぎ汚染していることへの嘆きです。「これまた『空』で風を追うようなこと」なのです。

確かにこの世は嫉妬と競争の世界です。人は生まれた時から他人と比べられ、他人より少しでも秀でることを期待され、そのためにあくせくする状況に追い込まれています。成績絶対・偏差値絶対は能力・業績・効率優先の社会を形づくります。そのような中において人はともすれば自分にしか関心を持たず、他者と共に生きることが面倒でしかなくなります。

そのような価値観に対してコヘレトはチャレンジします。両手を満たしてなお労苦するのではなく、満たすのは片手だけにして、同時に憩いも得よ、と。そしてその実例としてある人の生き方にふれます（4：7～8）。際限のない労働で富だけを追い、誰のために働くのか考えたこともなく、人生の喜びを分かち合う相手もない人、「これまた空（へベル）で不幸なこと（ラ・ウ）」とコヘレトは言います。

ひとりよりもふたりがよい。 共に労苦すれば、その報いは 良い

これらをコヘレトはただ他人事のように語っているわけではありません。おそらく彼自身も痛みや損失を経験した人なのです。だから、人間は傷つきながらも他者との関係の中で真に生き、生かされることを知っています。

コヘレトは今までの論議を踏まえ、慰める者、共に助け合える仲間の大切さを説きます。

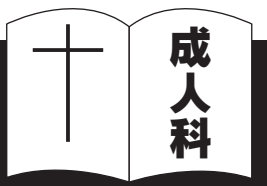
「倒れれば、ひとりがその友を助け起こす。倒れても起こしてくれる友のない人は不幸だ」(4:10) 一人でできないことでも二人、またそれ以上ならできるのです。「ふたりで寝れば暖かい」は当時、旅で野宿する者たちが寒い夜空に互いに身体を寄せ合い暖を取る場面を想像させます。一人が誰かから攻撃されても二人で相対すれば心強く、安心です。

自分と違った他者と共に生きることは決し

準備のための聖書日課			
12日	㊦	創世記2:6~18	人は独りでいるのは良くない
13日	㊦	ヨブ記3:1~10	生まれた日を呪うヨブ
14日	㊦	ヨブ記3:11~19	なぜ、生きているのか
15日	㊦	ヨブ記3:20~26	なぜ、生かされているのか
16日	㊦	コヘレト3:18~22	すべては塵に戻る
17日	㊦	コヘレト9:4~6	命あるものの安心さ

て楽ではありません。しかし、共に生きる交わりの中で、人は自分だけでは得られない生きる勇気と希望を与えられるのです。

12節はメソポタミア神話「ギルガメシュ叙事詩」にも見られる古代西アジアの格言です(岩波訳脚注)。



- 9節は創世記2:18「人が独りでいるのは良くない」を思い出させ

ます。但し、それは単に男女の結びつきや結婚だけを意味するものではありません。あらゆる人は助け合うこと、寄り添い合うこと、共に働くことでお互い「良い報い」を得、共に生きるのです。それは決して楽な道ではないかもしれませんが、交わりに生きることは、その意味で、勇気が必要です。

- 日本バプテスト連盟の特別問題委員会の働きについてご存知ですか。それらは社会

が持つ諸課題の中で抑圧され虐げられている人びとと共に生きようとする、宣教の働きです。現在、靖国神社問題、公害問題、日韓・在日連帯、部落問題、ホームレス支援、性差別問題、の6つの特別委員会があります。

- 妬みや競争心は、妬み競う者も相手も同様に傷つけ、交わりを損ないます。私たちは正しさや信仰深さにおいてさえも競い合うことがないでしょうか。教会が互いの違いを越えて相手を尊重し、共に助け合う共同体であるために、必要なこととは何でしょうか。

交わりの中で生きる勇気

聖書 コヘレトの言葉 4章1～12節

暗唱 聖句 ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。
コヘレト 4：9

29
課

10
月
18
日

ある日、コヘレトは見ました。

町で下働きの労働者の人が、やとい人からひどい仕打ちを受けていたのです。その人は苦しさのあまり涙を流し、コヘレトは胸がつぶれる思いでした。しかし反対に、こき使っているやとい主は権力も腕力を持っていますから、みんな恐れて何もすることができないのです。力を持っているってこわいことだ。ああ、こんな世の中に生きていたって何になる！コヘレトの心は悲しみと怒りの混ざった複雑な気持ちでいっぱいになりました。

コヘレトはまた、いろいろな場所で、人間というのは少しでも自分が相手よりすぐれた人になろうと必死になることを見てきました。お互いを高め合うよいライバルならいいのですが、そうではなく、相手を妬んでやっかみ、出し抜いて、自分だけが有利になりたい、そんな欲深なことばかり考えている人間を見ていると本当に空しくなる、とコヘレトは思います。風をつかまえて飼ひ慣らすことができないように、そんなことをしても人間は決して幸せにはなれないのに、とコヘレトはため息をつきます。実際、コヘレトが知っているある人は、お金もうけのために働いてばかり、誰のために、何のためにそれだけ働くのか考えようとしません。自分のことだけのことばっかりで、他者の存在に無関心な人。コヘレトはそんな人を見て、これで良いのだろうかと思ってしまうのです。



ひとりよりもふたりが良い、とコヘレトは言います。一緒に働いて一緒に良かったねと言えること、どちらかが倒れたらもう一人が助け起こすこと、それはひとりではできません。また旅に出て野宿する時に一枚の毛布しかなくても、一人でくるまるよりは、二人でくるまればよけい暖かです。誰かが攻めてきても二人なら抵抗することができます。

たしかに、共に生きることは、めんどうくさいことでもあります。その意味で、誰かと共に生きるのは実は勇気が必要です。でも、その勇気は意味のある勇気です。

人間がこの世界に生きているのは、いじめ合うためでも、妬み合うためでもありません。お互いが共に生きるためです。そしてそれは、神さまが、共に生きるために人間を創造されたからなのです。

「人が独りでいるのはよくない」(創世記 2：18)

それが、コヘレトの知恵。

交わりの中で生きる勇気

青少年科



聖書 コヘレトの言葉 4章1～12節

暗唱 聖句 ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。
コヘレト 4：9

29
課

10
月
18
日

聖書から…

左頁のおはなしから、コヘレトの心境を想像してみます。立場の弱い人が虐げられているところを目の当たりにし、もはや死者をもうらやむほどの苦しみの中にある状況をコヘレトは憂います。人と人が生きていくことでこのような苦しみが生まれてくるのではないか、他者の存在は競争心や嫉妬心しか生まれないのではないか。ここでも「空しい」という言葉を用いながら、この世に「生まれる」ことにすらコヘレトは絶望します。では「ひとり」で生きていくって、どんな感じなのでしょう。7、8節は少し極端なたとえではありますが、この男を通してコヘレトは「ひとり」「ふたり」と形態や数の問題ではなく「生き方」や「視点」の在り方の問題なのだと気づいたのかもしれませんが。この男の生き方は「他者が見えていない」ように思えます。

人が交わりの中で生きていくのは勇気が要ります。他者を「共に生きる存在」として信頼することができなければ、人は自分しか信じることができず、他者と共に生きていくことはできません。9節は、ともするとすぐにそのような束縛に生きてしまう私たちを解放へと導きます。解放の道を示されたとき10～12節で語られるように、お互いが「生きる」生き方へと人は変えられていくのではないのでしょうか。

分かち合おう

- 日本バプテスト連盟では「少年少女隣りに出会う旅」「青年ミッショントリップ」などを通じて青少年期を生きる皆さんと「共に生きる」ことを考えています。以下の感想や参加者の証しを参考に考えてみましょう。

(青年ミッショントリップ感想：ふじみ野バプテスト教会山下真実さんの証しより抜粋)「出会いたい」と思っていたのに、出会っていただいて、「寄り添いたい」と思っていたのに、寄り添っていただいて、「手を差し伸べたい」と思っていたのに、手をとっていただいて…私たちはそのようにして、いつも「共に生きる」ことに招かれているのだと思われています。自分の中に、自分を相手より優れたものであると思い、相手を助ける側に自分を置いている、そのような無意識の差別性があることに気づかされます。できる／できないではなく、それゆえに価値がある／ない、幸せ／不幸と決めつけるのではなく、互いに限りある命として、生かし生かされて「共に生きる」…私自身が、自分の限界や弱さを認め、大切に抱えながら、いつも誰かに寄り添っていただかなければ生きていけない私として、これからも生きていきたいと思われています。

交わりの中で生きる勇氣

聖書 コヘレトの言葉 4章1~12節

暗唱 聖句 ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。
コヘレト 4：9

29課

10月18日

聖書から…

私たちは、どんな時に「楽しい」と感じるでしょう？好きなゲームを楽しむ時、得意なことに取り組んでいる時に「楽しい」と感じるかもしれません。では、友だちと一緒に勝負するゲームはどうでしょう？勝つことばかりでなく、負けて悔しい思いをする事があるかもしれませんが、それも楽しいと思うことができますか？

得意なことも一人で黙々と取り組んで達成させるばかりでなく、自分が楽しんでやっていることを、関心を持ってくれる人に、「こんなふう^にやるんだ」と、説明して、話す事ができるとやり甲斐^が出たりします。時には、困っている人を手伝って、「ありがとう」と感謝されたら、それもうれしい気持ちになりますね。自分以外の誰かと関わりを持つ時、一人で楽しんでいる時とは違う喜びや楽しさに出会うことができます。それは私たちが、善きものを分かち合うために創られたからです。誰よりも優れた自分を目指すのと、誰とでも楽しむことができる自分、どちらを目指してみましようか。

活動①

「1枚より2枚、2枚より…」

●準備●新聞紙

- ①新聞紙を長細く割きます。
- ②割いた新聞紙を引っ張ると、簡単にちぎれます。

- ③2枚、3枚と重ねて引っ張る、糸をよめるようにして引っ張る等して遊びます。
- ④1枚のときと違うのでしょうか？どうして違うのか考えてみましょう。
- ⑤遊び終わったら、ゴミ箱に入れましょう。

活動②

ワークシート

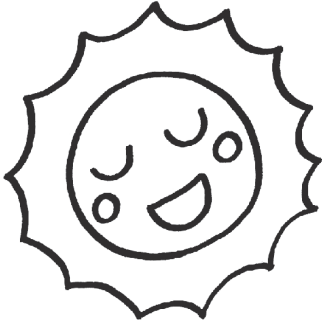
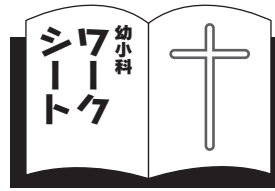
「ひとりよりふたり」

●準備●ワークシートはA4に拡大してください。作り方を見ながら、「手つなぎ人形」を完成させます

手つなぎ人形作り方

- ①A4用紙を切って正方形用紙にします。
- ②正方形の用紙を4つ折りにします。
- ③中心になる頂点を変えないようにさらに半分にあります。
- ④手になるところが繋がるように人形を描き、切り取ります。
- ⑤切り抜いた手つなぎ人形とワークシートに色をぬります。
- ⑥完成した人形をワークシートに貼ります。
*人形はリーダーが完成させ、ワークシートの色をぬる活動にすることもできます。





ひとりより ふたりがよい

ともにろうくすれば そのむくいはいよい

コヘレト4：9

コヘレト、両極端を戒める

コヘレトは、「善人がその善のゆえに滅びることもあり、悪人がその悪のゆえに長らえることもある」（7：15）というこの世の現実を見ました。彼は人々に極端に走れば善悪賢愚のどれかが滅びと死に至る、と警告します。「生まれる時、死ぬ時（エート）がある」（3：1）と言ったコヘレトが、「どうして時（エート）も来ないのに死んでよかろう」、といさめています（岩波訳「時をまたずに、どうして死んでよいだらう」）。善悪賢愚、あれかこれかの二者択一ではなく、相反するものどちらも手放さずに持つように彼は勧めます。

コヘレトの執筆年代とされる紀元前3～2世紀、パレスチナは急激な社会的変化を経験しました。貨幣経済の発達と経済的急成長の時代を象徴するかのようによコヘレトは経済用語の「イトロン（利益）」を度々使います（1：3、2：11、3：9、5：8、5：15、10：10～11、第27課参照）。金儲けのチャンスをつかんだ人もいれば財産をすっかり失う人もいて貧富の差は拡大しました。大国支配のもとで人々は王の権力を恐れ（8：2～5、8：9、10：20）、社会正義は失われ人々は不安感を募らせ、生きること働くことに疲れ果てていました。コヘレト自身が実は投資の結果没落した起業家だとする説もあります。そのような中でコヘレトは懐古趣味を戒めます。「昔の方がよかったのはなぜだろうかと言うな。それは賢い問いではない」（7：10）。人は過去に囚われ、未来に不安を持つ時、「今という時」を見失います。コヘレト

の時代、正しい者が必ず報われ悪しき者が必ず悪を暴かれる勸善懲悪がもはや通用しません。神は「隠された神」でどこにおられるのかわかりません。コヘレトは善悪賢愚すべての極端を戒め、現実をしっかりと生きる知恵を語ります。

神を畏れ敬えば

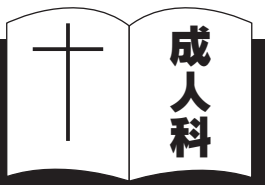
18節後半は複数の解釈が可能です。「一つのことをつかむのはよいが、ほかのことからも手を放してはいけない。神を畏れ敬えば、どちらをも成し遂げることができる」（新共同訳）。ここは「神をかしこむ者は、このすべてからのがれ出る」（口語訳）、「神を畏れる者はいずれをも避ける」（聖書協会訳）、「神を恐れる者は、この両方を持って出て行く」（新改訳）、「神を畏れる者はどちらにも拘泥しない」（岩波訳）等々に訳されます。文脈から言えば「善悪賢愚」の偏重とそのような二分法価値体系そのものへのこだわりを戒めている箇所、原語「イエーツエー」は「避ける」とも「進み出る」とも訳せます。従って「そのどちらも（あるいはすべてを）避ける（逃れる）」のか、または「両方とも持って行く（成し遂げる）」のか、両方に解釈できます。「神を畏れ敬えばその両方を越えて前進する」との訳もあります。皆さんにとって「神を畏れ敬うこと」は、どの訳が一番響くでしょうか。

知恵の持つ力

19節「十人の権力者」はヘレニズム期、

エルサレムや他の町々に10人の支配者が置かれていた状況と関係すると言われます。「知恵」は賢者を力づけてそれらの支配者よりもたのもしい存在とします(箴言21:22)。20節「善のみ行って罪を犯さないような人間はこの地上にはいない」はローマ書の「正しい者はいない。一人もいない」(ローマ3:10)を思い出させます。7:21～22などは、きわめて現実的な言葉として響きます。このようなコヘレトの知恵は現代的にも通用する知恵です。

準備のための聖書日課			
19日	㊦	箴言21:20～22	知恵ある人の幸い
20日	㊦	詩編14:1～3	善を行なう者はいない
21日	㊦	コヘレト5:12～19	神の賜物を感謝せよ
22日	㊦	コヘレト6:1～6	幸福とは何か
23日	㊦	コヘレト7:7～14	神の御業を見よ
24日	㊦	コヘレト7:23～29	賢者でありたいとの願い



成人科

- コヘレトは善悪賢愚のいずれの極端も戒めています。しかしそれは

何でも適当に、という事なかれ主義・ご都合主義とは違います。今日の聖書からその違いを読み取りましょう。

- 世の中の価値観が変化し、今までの物差しが当てはまらなくなる時、善悪賢愚の基準もまた変化します。信仰に立つて守ることと、信仰に立つからこそ変えること、について具体的に考えてみます。
- 「昔の方がよかったのはなぜだろうかと言うな。それは賢い問いではない」(7:10)。今の時代、伝道や教会形成の困難はすべての教会共通の課題です。教会が「昔」ではなく「今」というこの時を前向きに生きてゆくために必要な視点を出し合ってみましょう。

コラム

コヘレトの謎かけ?—「苦い女・良い女」は女性蔑視の言葉ではない—

7章28節で「良い女」と新共同訳にある語は原語ではただ「女」一語で、「良い」という形容詞はありません。他の和訳にも「良い」はありません。ある研究者はこの箇所全体が士師記14章のサムソンの謎かけと同様の高度な言葉遊びであり、26～27節が謎かけ、28～29節が答えだとします。つまり「苦い女」(7:26)は戦争の^{ひん}比喩、「千人(=戦争の部隊)に女はいない」は8章8節の「戦争を免れる者はいない」の先取りです。その意味で「苦い女」、「良い女」(7:28)は決して女性蔑視の言葉ではないのです。詳しくは小友聡『コヘレトの言葉を読もう』(日本キリスト教団出版局、P.73～76)をぜひお読みください!

わからない「今」を生きる

聖書 コヘレトの言葉 7章15～22節

暗唱 聖句 一つのことをつかむのはよいがほかのことからも手を放してはいけない。
コヘレト7：18

30課

10月25日

ある日、コヘレトは考えました。

人間とはおかしなものだ、正しすぎても悪すぎても、賢すぎても愚かすぎても、よくないものだと。実際、コヘレトの周囲ではそのいずれも度がすぎて、人生の困難を招いた人も多かったのです。正しさと賢さがあればすべてうまく行くと思えますが、実際はそうではないことをコヘレトは経験から知っていました。コヘレト自身、かつては自分の知恵と力を誇り、神さまのみ心を自分はよくわかっていると自負し、人にもそう教えていたのです。しかし、時代と世の中の変化はコヘレトが考える以上に予測不能なものでした。実際、コヘレトが手がけた仕事であてがはずれたことがありました。うまくゆくと自信をもっていたのに、そうはならなかったこともありました。それらの出来事から、「知恵があるといってパンにありつくのでも、聡明だからといって富を得るのでも、知識があるといって好意をもたれるのでもない」(9：11)、それを身にしみて体験したコヘレトでした。コヘレトはまた言います。昔の方がよかったなんて問わない方がいい。また未来のことは人間にはわからない。大切なのは「今」、今日という日をしっかり生きること。

だからコヘレトは自分の言葉を聴く人たちにアドバイスします。二兎を追う者は一兎をも得ず、とは言うけれど、二兎を追ってもいいのだよ、いや、二兎を追った方がいいかもしれないと。一つのことをつかむ



のはよいが、ほかのことからも手を放さずにいた方がいいと。神さまを畏れ敬えば、どっちがいいか、どっちが得かなどということを超えて、前に進む道が開けるのだと。本当にたのもしい存在とは、町を治める偉い人よりこうした知恵を持つ人だと。

コヘレトの助言は続きます。「人の言うことをいちいち気にするな！」あれこれよくよする私たちの背中をコヘレトはど〜んと押して励まします。「あなたただて人のことを無責任にあれこれ悪く言ったことがあるではないか！」

コヘレトの言うことはとても現実的なので、まるで彼は今の21世紀、私たちの時代に生きている人かと錯覚するほどです。それはきっと、コヘレトの言う「今」がきっと時代を超えた「今」であり、神さまからいただく知恵は「今」、生きて働くものだからではないでしょうか。

それが、コヘレトの知恵。

わからない「今」を生きる

青少年科



聖書

コヘレトの言葉 7章15～22節

暗唱
聖句

一つのことをつかむのはよいがほかのことからも手を放してはいけない。
コヘレト 7：18

30
課

10
月
25
日

聖書から…

前課で学んだ4章6節と今日の暗唱聖句(7：18)とは一見逆のことが書いてあるように見えます。しかし、16、17節で度を過ぎるなと戒める「善」「賢さ」「悪事」「愚かさ」の主語が人間であると読むならば、おそらくコヘレトにとって、片手を満たすことと、ほかのことからも手を放してはいけないことはどちらも「人間の範疇」でしかないでしょう。度を越えて極端に生きることを戒めながら、コヘレトは自己を絶対化しないことの大切さを伝えたかったのかもしれませんが、わたしたちにとって善悪の判断基準はあくまで「人間の」善悪・正義でしかありません。「神の」正義ではありません。その境界線を見誤ることが、宗教の持つ危険性だと感じます。しかし、見誤ってしまうほどに神は「隠された神」であることを思います。私たちが見ているのは「神」のほんの少しの部分に過ぎないのです(聖書の学びより)。

しかし、人間にはわからない「隠された神」であるからこそ、わたしたちは不条理な事柄に直面した時、神に「なぜですか」と問い、迷い、考え続けることができるのだと思います。隠された神との関係性は18節の訳の多様さにも表れています。そして「隠されて」はいますが、わたしたちはまったく神のことを知ることができないわけではないでしょう。神はご自身を示す方としてイエスさまをこの世に遣わされました。コヘレトが形態や状況にとらわれずに「生き方」に焦点を当てたように(29課参照)、イエスさまは「生き方」を示されました。

分かち合おう

- 18節後半のみ言葉はいろいろな表現に訳すことができます(聖書の学びより)が、あくまで「神を畏れ敬う」ことから、次の出来事が起こっています。「どちらも成し遂げることができる」の訳の多様さにも注目しながら、「神を畏れ敬う」とは、どのようなことか考えてみましょう。
- 今課の暗唱聖句を読むときに、利益や良いことをつかんで手を放さない姿を想像するかもしれません。神はご自身を示す方としてイエスさまをこの世へと遣わされました(ヨハネ1：18)。イエスさまの生き方は、決して楽ではない苦難とも言える道を歩まれた生き方であったことを思います。必ずしも1つとは限らない答えを前に、つかみ、手を放さない姿や生き方をどのようにイメージしながらコヘレトはこの言葉を書いたのでしょうか。

わからない「今」を生きる

聖書 コヘレトの言葉 7章15～22節

暗唱 聖句 一つのことをつかむのはよいがほかのことからも手を放してはいけない。
コヘレト7：18

30課

10月25日

聖書から…

私たちは、日々たくさんのことを選んでいきます。迷わず選ぶことができれば良いけれど、「どちらか」決められないこともあります。

日曜日は教会にいくと決めているのに、友だちに「遊ぼう」と誘われるとちょっと残念で悲しい気持ちになってしまうのはどうしてでしょう？ 神さまのことを大事にしていないからですか？ 大事に思っているけど、同じくらい友だちと過ごす楽しさを知っているから教会に行くことを残念に思ってしまうのです。教会に行くことを喜べたなら、それは神さまの祝福です。でも、友だちと一緒に過ごすことを選んだ時、神さまは怒るでしょうか？ 神さまはそんな時にも私たちの気持ちを知っています。そして待っていてくださいます。神さまは私たちをロボットのように思い通りに操作するのではなく、自分のやりたい事を選ぶ自由をくださいました。だから、良いことを選ぶことも、よくないと思えることを選ぶこともあるのです。思い通りに事が運ばなかった時や自分の弱さを感じて落ち込む時こそ、「答えはひとつじゃないよ」と応援してくれる神さまを思い出して、「今」を生きる自信を取り戻して歩みたいですね。

活動①

「誰が強い」

●準備●ネズミ、ネコ、イヌ、トラ、猟銃を持った人間を絵に書いておきます。

- ①ネズミとネコの絵を見せて「どっちが強い？」と聞きます。
- ②ネコとイヌ、イヌとトラ、トラと人間と順番に強い方を残します。
- ③「人間には怖いものがない？」と尋ねます。
- ④コヘレト7：18を読んで、神を畏れ敬うことが「最高の強さ」であることを伝えます。



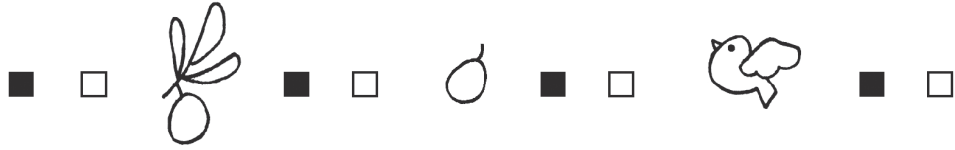
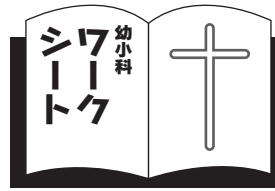
活動②

ワークシート

「どっちも大事」

●準備●ワークシートのコピー、印をつけるシールかマジックなど

- ①命とお金、優しさと厳しさ、速さと性能、友だちと家族、信じることと疑うこと。大事だと思う方に印をつけます。
- ②どちらか1つを選ぶ事が難しいと感じることに気づきます。
- ③コヘレト7：18を読んで、選ばなかったもう一つにも印を付けます。
- ④ワークシートをしながら、感じたことを話し合ってみましょう。



いのち

おかね



やさしさ

きびしさ



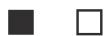
はやさ

せいのう



しんじる こと

うたがう こと



なお、そこで生きる

聖書 コヘレトの言葉 8章8～17節

暗唱 聖句 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。
エフェソ5：16

31課

11月1日

悪事の横行する中で

8節は「何事が起こるかを知ることはできない。どのように起こるかも、誰が教えてくれようか」(8：7)と言う、前の節を受けた文章です。将来を知ることができないように、人間は「霊」(ルアハ)や「死の日」を支配することはできません。ルアハは「息・風」も意味しますから(第27課参照)、「息を支配し息を止められる人はいない」(聖書協会訳)、「風を支配し、風を止める人はいない」(岩波訳)とも訳されます。戦争や悪に対しても人間は無力です。戦争はコヘレトの時代状況の一つと思われます。(前課のコラム7：26～29を参照)。

こうした背景には支配者である「王」が他者を犠牲にして権力をふるい君臨する社会があります(8：1～4)。それをコヘレトは「人間(アダム)が人間(アダム)を支配して苦しみをもたらすような時(エート、第28課参照)だ」と表現しています(8：9)。「苦しみをもたらす」はヘブライ語で「レラ・口」で「不幸・彼にとって」という意味です。

逆転した世の中で

コヘレトは社会の倫理観が完全に逆転していることに憤っています。悪と正義が転倒し倫理観がまったく失われているのです。悪人が立派な人として尊重され、正しい人が世の不当な評価によってひどい扱いを受けています(8：10、8：11～12、8：14)。これこそまさしく「空」(8：10、8：14)です。「悪

事に対する条例」の「条例」の原語「ピトガム」はペルシャ語由来の言葉で「判決」とも訳されます。そのような世の中だからこそ、コヘレトは改めて明言します。「神を畏れる人は、畏れるからこそ幸福になり」、悪人は神を畏れないから、「決して幸福にはなれない」(8：12～13)と。「幸福」は「トーブ」で神の祝福を表す言葉です(創世記1：4他)。そしてコヘレトは生きる上での「快楽」をたたえます。快楽といっても欲望を際限なく満足させるための享乐的な「愚行」(2：3)のことではなく、日常生活で「飲み食いし、楽しむ」という素朴な人間の「喜び」のことです。それは「太陽の下、神が彼(人間)に与える人生の日々の労苦に添えられたもの」(8：15)で、コヘレトがこの書の中で繰り返し強調する大きなテーマです(2：24、3：12～13、5：17、9：7～9)。それは「神の手からいたたくもの」(2：24)、すなわち「神の賜物」(3：13)であり、「人の受けるべき分」(5：17)、「太陽の下で労苦するあなたへの人生と労苦への報い」(9：9)なのです。

どんなに労苦し追求しても

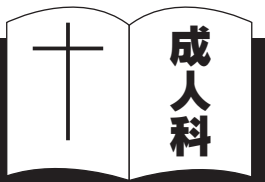
コヘレトは「この地上」(8：16)に起こることを見極めようと知恵を深め、心を尽くし、昼夜を分たさず努め、神のすべてのわざを観察しました。そして知りました。神は神であり、人は人であり、人は決して神のようにはなれないことを。「焦って口を開き、心せいて、神の前に言葉を出そうとするな。神は天にいまし、あなたは地上にいる。言葉数

を少なくせよ」(5:1)。嵐の中から主に呼びかけられ、沈黙したヨブを思い出します(ヨブ40:4~5参照)。

人間がどんなに労苦し追求しても、神のすべての業を悟ることはできません。知ることも許されていません。たとえ賢い人が分かったと言っても本当は悟っていないのです。それは「空」であって風を飼いならすようなことです。このようなコヘレトの視点は一見「あきらめ」のように響きます。そもそも漢和辞典を引けば「諦め」には「はっきりさせる・物の真実をよく見る・明らか・つまびらか」という意味があります。コヘレトの言葉は、その意味で、明らかな目でこの世を見つめ、神と人との関係をつまびらかに語った書物だと言えないでしょうか。

準備のための聖書日課

26日	㊦	ヨブ記40:1~5	口に手を置くヨブ
27日	㊧	マタイ6:25~34	まず神の国と神の義を求めよ
28日	㊨	ヨブ記21:22~34	誰が裁くのか
29日	㊩	ローマ2:1~16	神の憐れみによる裁き
30日	㊪	ローマ11:33~36	神の富と知恵と知識
31日	㊫	コヘレト8:1~7	ふさわしい時を求めて



成人科

- 倫理観が逆転した社会とは現代社会そのものです。政治家の不正、権力の座にいる者たちの横暴、目的のためには手段を選ばない論理、すべては正義の喪失です。そのような社会で私たちはどのようにして、「神の国と神の義をまず求める」生き方ができるでしょうか。
- コヘレトの「明らかな目でつまびらかに見る視点」について考えてみましょう。自分の受け入れがたい過去も「負の歴史」としてではなく新たな意味を発見するかもしれません。
- 「神さま」を自分の願望達成、目的の合理化に利用していないでしょうか。思いどおりにならないこと、自分の理解と異なる信仰理解、聖書の読み方、それらを切り捨てていないでしょうか。真理や正義はいつも自分の側にあるかのように考えていないでしょうか？
- まもなく東日本大震災から丸10年を迎えます(2021年3月11日)。この10年の私たちの教会の歩みを振り返ってみます。

なお、そこで生きる

聖書 コヘレトの言葉 8章8～17節

暗唱 聖句 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。
エフェソ 5:16

31課

11月1日

ある日、コヘレトは思いました。

人間はいろいろなものを支配したが、自由にしたいと願うけれど、実は大事なことは何一つ思いのままにすることはできない。しかしそれでも人間は支配することをやめようとはせずに、力を持てばその力を自分がいいように使いたがると。「まったく、今という時代は人間が人間を支配して苦しきをもたらしている時代だ」とコヘレトは嘆きます。自分の欲望のままに悪事を働く人が野放しにされ、神さまにも人にも正しくあろうとする人が不遇な目にあっている現実。それは、人々のいのちの営みがないがしろにされている時代です。そしてその理由を知ろうとどんなに労苦し追求しても、すべてのことの意味と目的を人間は完全に知ることはできないのです。

「にもかかわらず」、とコヘレトはあらためて思い返します。人間の幸福はやはり神さまから来るのだ、神さまを離れて本当の幸福はないのだと。コヘレトは今日も町に出て市場の中を歩いてみたのです。人々は今日もあちこちで集まって食事をしていました。親しい人と共の食事、ごくふつうの日々の食事、食べながら交わす何気ない会話、はじける笑顔、いのちの力があふれていました。これこそ神さまからの大きな恵みの贈り物、コヘレトはしみじみそう感じました。善と悪がひっくり返ったこの世の中で、神さまはどこでどうやって働いてお



られるのでしょうか。私たちが遠く離れておられるのでしょうか。いいえ、神さまは私たちの近くに、私たちの毎日の生活の中に、共におられる方なのです。

昨年末アフガニスタンで亡くなった医師の中村哲さんは、地球温暖化による大旱魃で農地が砂漠化し、難民となった人々が故郷に帰って農業を再開できるように、現地の人々と共に1500の井戸を掘り25キロに及ぶ用水路を拓きました。中村さんは言います。「三度の食事が得られること、自分の故郷で家族そろって暮らせること。それが平和です」。

どんなに時代が悪くても、神さまは日々の生活の中で私たちと共に生きておられます。そして日々の飲み食いは、私たちの労苦に対する神さまからの恵みなのです。

それが、コヘレトの知恵。

なお、そこで生きる

聖書 コヘレトの言葉 8章8～17節

暗唱 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。
聖句 エフェソ 5：16

聖書から…

聖書を読むとき「聖書は神の愛とかなんとか言うけれど、絵空事ではないか」と感じたことはありますか。コヘレトもそのような気分だったのかもしれませんが。神から一番離れていると思えるような人が利益を独り占めして、のうのうと生きている姿が目に残って仕方がなかったのでしょうか。世の中のありさまに嘆き憂いを覚えるコヘレトですが、何気ないささやかな日常の恵みを目にすると、「神の報い」が名声や名誉、出世などではないことに気がきます。欲望を際限なく満足させるための享樂的な愚行ではなく、「飲み食いし、楽しむ」という素朴な「喜び（快樂）」を「神の手からいただくもの」として受けていくことが人間の分であると（聖書の学びより）。

2016年相模原の障がい者施設で起きた殺傷事件の報道に触れるとき、「私は『命』を喜ぶことができているだろうか」と自問することがあります。私自身も軽度の脳性まひを持ちながら、私はこの障がいを理由に自分を評価されないようにと勉強して仕事のスキルを身に付けてきたように感じます。鎧で身を固め、両手に多くを握りしめた私。では、ありのままの私はいったい何なのか…今となつては握ったものを手放すことすらできない私が、ありのままの私です。

目に余るような悪事が横行する中で、またはどんなに労苦し追求しても神の業を悟るこ

とができない世の中（8：17）で、しかしコヘレトも私たちも「なお、そこで生きて」いくのです。それはこの世では何もわからないから世捨て人のように生きる、というのではないでしょう。神が共におられるということ、ささやかな日常の営みから感じ「喜び」生きることです。そのような「今日」を「生きる」ことから、命を喜ぶことが始まるのかもしれませんが。

分かち合おう

- 聖書の教えと現実の価値観の間でギャップを感じることはありませんか。あるとしたら、それでもなぜ私たちは聖書を読むのでしょうか。神の愛や、イエスさまの生き方は、現実の生活にどのように反映されますか。
- 日本バプテスト連盟特別委員会の働きを知っていますか。同様の課題を取り扱った働きは、いわゆる一般のNPOなどにもあります。なぜ、教会（連盟）がこれらの働きを担っていると思いますか（第29課成人科参照）。どのような聖書のみ言葉につき動かされて、これらの働きは担われているのでしょうか。各委員会による主催で、青少年向けのプログラムも企画されています。

なお、そこで生きる

聖書 コヘレトの言葉 8章8～17節

暗唱聖句 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。
エフェソ5：16

聖書から…

私たちの周りには、「どうしてこんな不公平なことが起こるのか」と思えることがたくさんあります。どんなに理解しようと考えても、「分からない、納得できない」と思えることがあります。そんな時、最後は「諦める」しかありません。諦めたら、なんだか投げ出したような気分になりますが、「諦める」という言葉には「真理を明らかにする」という意味があります。コヘレトは労苦して追求しても人間の力では理解できないことを、諦めることによって見つけました。それはどんな時にも新しい一日が始まり、命が与えられ、ご飯を食べ、水を飲み、また眠る。そんな特別でない普通の暮らしこそ神さまからの恵みだということでした。だから、神さまがくださる1日を、今自分にできることで丁寧に誠実に生きたなら、本当の幸せを知る事ができるのです。

●暗唱聖句について●

コロナ危機の中で、私たちは「いつもと同じ」ことができない経験をしました。毎日、学校や幼稚園に通うことだったり、友だちと手をつなぐことや、ご飯を食べながら、楽しくおしゃべりすることもできません。「我慢することばかりだ」と不満に思うのではなく、そんな生活を受け入れて、楽しみを見つける「時を用いる」とはそんなことかも知れません。

活動①

「時をよく用いなさい」

●準備●日用品や文具など、身の回りにある物、ティッシュ、紙、鉛筆、消しゴム、など

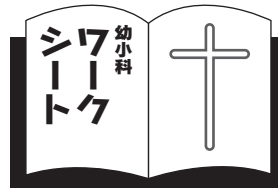
- ①二人の間に品物を置き、ジャンケンをします。
- ②勝った人は、素早く品物をとります。負けた人は取られないように品物を手で覆います。
負けた人が品物を守ることができたら勝った人に向かって「時をよく用いなさい」と言います。
勝った人は「今は悪い時代なのです」と言います。
- ③勝った人が品物を取ることができたら負けた人に向かって「時をよく用いなさい」と言います。
負けた人は「今は悪い時代なのです」と言います。

活動②

ワークシート

「暗唱聖句を探せ」

- 準備●ワークシートのコピー、色鉛筆
- ①ワークシートの下の部分に書いてある文字をマスの中から順番に見つけて○をつけます。
 - ②○のついてないマスを塗りつぶすと暗唱聖句が残ります。



あ	と	さ	む	き	へ	す	た	こ
さ	あ	ろ	ね	し	を	ぬ	よ	あ
く	も	ん	ち	う	い	お	な	え
み	さ	か	い	け	い	あ	ま	む
は	ね	わ	る	あ	い	た	じ	だ
ん	い	あ	こ	な	け	し	の	え
ぬ	で	え	す	あ	エ	フ	エ	ソ
ぬ	け	5	そ	し	よ	う	こ	た
そ	た	め	16	せ	つ	ね	え	し

ときをよく もちいなさい いまはわるいじだいなのです

エフェソ5：16

それでも、種を蒔こう

聖書 コヘレトの言葉 11章1～6節

暗唱
聖句 あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。コヘレト 11：1

32課

11月8日

●分かち合うことの勧め

「空しい」（「空」）という言葉で始まり、嘆きと諦め（明ら目）のオンパレードのようなコヘレトの言葉は、終章に向かって積極的なトーンが強まってゆきます。11章から12章は、その意味で、コヘレトが最も聴き手に伝えようとしている大事な部分です。

1節の「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう」は見返りを求めずと与える慈善を促す言葉としてのほか、当時の社会的背景から海外貿易への投資の勧めとの解釈があります（箴言 31：14）。いずれにしても、「さあ、喜んであなたのパンを食べ」（9：7）とあるように、「パン」はコヘレトにとって神さまからいただく人生の喜び、食事の楽しみの象徴です。それを一見無駄になるかのようなあり方で手放す時に将来それを再び見出す、という表現は示唆に富んでいます。続く2節の勧めも同様です。自分の持ち分（「あなたの受ける分」の意）を身近な7～8人と分かち合うことは、予期せぬ災害のときに何よりの力となると言っています（「7～8人」の解釈はミカ 5：4 参照）。そこにはルカによる福音書 16章9節の「不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたを永遠の住まいに迎え入れてもらえる」との共通性が感じられます（岩波訳脚注）。

人間の認識と 将来の予知の限界

3～5節は自然現象や人間の誕生の神秘を通して人間が認識できること、予知できることの限界を描写しています。そのような中で人が自然現象に振り回されてばかりいれば何事もなし得ないことが農業のたとえで語られます。風向きを気にしてばかりいれば種は蒔けなくなるし、雲行きを心配してばかりいれば刈り入れもできません。どこかで決断して行動に移さねばなりません。

「風」は繰り返し見て来たように「ルアハ」、「霊・命の息」をも意味します。5節の「霊や骨組み」は原語では「風の道」（デレーク・ルアハ）という一つの語で4節の「風」を受けています。つまり、「あなたは、風の道も妊婦の胎で骨がどうなるかも知らないのに、これらいつさいのことを行う神の業を知りえようか」（岩波訳）という意味で、神の業である風／霊の道と創造の神秘は私たちの理解を越えていることを意味します（詩編 139：13～16）。私たちにできること、私たちがすべきことは、「今」という時の決断と行動です。

あれかこれかではなく

コヘレトは聴く者たちに、朝、種を蒔き、夜にも手を休めないようにと励まします。夜は原語では「夕」で、日中が暑い地域での涼しい夕方の労働を示唆しています（岩波訳脚注）。朝だけでなく夜（夕）まで種蒔きを続

けるのは、どの種が実を結ぶのか、あれかこれか、それとも両方なのか、人間には分からないからです。コヘレトは先に、善悪賢愚のどれにも極端に偏ることを戒め、「ひとつのことをつかむのはよいが、ほかのことからも手を放してはいけない」（7：18）と勧めました。また、「足の速い者が競走に、強い者が戦いに必ずしも勝つとは言えない。知恵があるからといってパンにありつくのでも、聡明だからといって富を得るのでもない、知識があるからといって好意をもたれるのでもない。時と機会はだれにも臨むが、人間がその時（エート）を知らないだけだ」（9：11～12）と警告しました。人間には完全な認識や予知ができないからこそ、逆に、「今」と言う時をかけがえのない時として、手を休めず、最

準備のための聖書日課			
2日	㊦	箴言31:10～14	商人の船のように
3日	㊧	ミカ5:4～5	七人の牧者と八人の君主
4日	㊨	詩編139:13～18	神の御計いを感謝して
5日	㊩	ルカ16:1～9	この世の子らの賢さ
6日	㊪	コヘレト9:7～10	喜んであなたのパンを食べよ
7日	㊫	コヘレト9:11～12	時と機会を生かして

善を尽くして生きること、コヘレトは私たちにそう励ましているのです。「何によらず手をつけたことは熱心にするがよい」（9：10）。



成人科

- 「国にどのような災いが起こるか、分かったものではない」（11：2）

は現実をよくわきまえたコヘレトらしい言葉です。異常気象や社会的事件、また新型コロナウイルスの蔓延など人間の想定を揺るがすことが次々起こります。それらはあらかじめ備えることができるものもあれば、想定さえできないこともあります。「今」というとき、あなたとあなたの教会は何を、大事にしようとしていますか。

- 「今」という「時」の代表は「礼拝」です。礼拝は毎週同じ繰り返しのようであり、実は一週一週がかけがえのない「永遠の

時」です。一方、かつて礼拝は「礼拝死守・礼拝厳守」が強調されました。しかし、新型コロナウイルスの蔓延は、いのちを守るために礼拝を休止する選択もあり得ることが現実となりました。礼拝で共に集う恵みをあたりまえとせず、礼拝の恵みをさまざまな形で分かち合う可能性について話し合ってみましょう。

- 「今」を最善に生きる、それは主イエスが言われたことと響き合うのではないのでしょうか。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の労苦は、その日だけで十分である」（マタイ6：34）。

それでも、種を蒔こう

聖書 コヘレトの言葉 11章1～6節

暗唱 聖句 あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。コヘレト 11：1

32
課

11月8日

ある日、コヘレトは皆を集めて言いました。

「あなたのパンを水に浮かべて流しなさい。ずっとあとにそれを見出すから」。みんな不思議な顔をしています。パンを水に流すなんてもったいない！ どうしてだろう？ さらにコヘレトは続けます。「あなたの持ち分を7人や8人と分かち合っておきなさい。国にどんな災いが起こるか、誰も知らないのだから」。なるほど、みんなちょっとわかったような顔になりました。先が見えないこの時、どんなことが起こるか分からないからこそ、計算づくではなく、むしろ損をするように見えることを大胆に行うことが大切だとコヘレトは言いたいのだなと感じたのです。

確かに、しばらく前に国に大きな災害が起こった時、知らない人同士が本当に力を合わせて助け合ったことを皆、思い出しました。とつてもつらくてとつても悲しいことだったけれど、助け合う近くの皆の勇氣に力をもらい、遠くから応援してくれる人たちの励ましに支えられて来たのです。

コヘレトはまた言います。「種を蒔く時、雨がいつ降るか、風がいつどちに吹くか、雲がどう流れるか、そればかり気にしては、種蒔きも刈り入れもできないよ。赤ちゃんの体がお母さんのおなかの中でどのように造られるか知っている人はだれもないように、神さまのなさることは我々に



はわからないし、わかるはずがないのだよ」と。確かにそのとおり、みんなふんふんうなずいています。

「だから」とコヘレトはにっこり笑ってみんなを見まわします。「朝種を蒔いたら、蒔き続けて、夜になっても手を休めないで蒔くのだよ。どこから芽が出るか、どれが実を結ぶか、もしかしたら両方からか、分からないじゃないか」。聞いているみんなの顔にもいつしかほほえみが浮かびます。そうだ、明日が分からないからこそ今日を一生懸命生きる、今日できることを今日力いっぱい取り組む。その歩みの中に神さまは共にいてくださるのだと。

イエスさまの言葉が思い出されます。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞はその日だけで十分である」(マタイ 6：34)。

それが、コヘレトの知恵。

それでも、種を蒔こう

聖書 コヘレトの言葉 11章1～6節

暗唱 聖句 あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。コヘレト 11：1

聖書から…

水に浮かべたパンや、かつて分け合った糧を月日が経ったときに実りとして再び見出すことができる。経済活動に詳しくたであろうコヘレトにとって、パンは神からいただく喜びの象徴しょうちゆうでした。また、将来のことは人間が知ることができないことも語っています（3～5節）。しかし、そこにも神さまが働いてくださることがある、だから一見損に思えることさえ、実際に行っていくことも大切、そうコヘレトは勧めているのかもしれませんが。すべては神の業だから人間は努力をしなくても良いという話ではなく、限界を知る私たちだからこそ「今」という時の決断と行動を、期待されているのです（聖書の学びより）。

とはいえ、「手を休めるな」（6節）の言葉は強い印象を残します。創世記にさかのぼると「労働」はエデンの園を追放されたアダムへの苦役として課せられたものでした（創3：23）。見通しの立たないような種蒔き、その中であって「成長させてくださったのは神です」（1コリ3：6）のみ言葉を知る私たちです。蒔かれた種、そこにも神さまの手が働かれることを知らされているからこそ、朝に夕にあれかこれかと工夫をしながら私たちは「今」を見極めるように種を蒔くことができるのかもしれませんが。「目を覚ましていなさい」（マルコ13：35）とのイエスさまの言葉も連想されます。

分かち合おう

- 「空しい（くうしい）」と繰り返しながら、コヘレトは人間の限界性と神への畏れおそを明らかにしています。自分（人間）を超えた存在に対して、どのような思いを抱きますか。力でねじ伏せる存在、恐怖の存在でしょうか。自分の思いを超えている存在、「それでも」私たち（人間）を支える存在としての神を語るコヘレトです。「恐れ」と「畏れ」の違いは何でしょう。
- 成人科でも触れられていますが、パンを水に浮かべることや種蒔きの出来事は、文字通りの労働や労苦だけでなく「礼拝」も連想させます。あなたは「礼拝」や「献金」を守ることをどのように捉えますか。週に一日、仕事や用事の手を止めて「時間」を取り分ける礼拝。十戒の中で「安息日」として聖別せよと聖書が勧める意味を想像してみましょう。
- 小休止（楽しみましょう）
「風が吹けば桶屋おけやが儲かる」ということわざを知っていますか。「パンを水に浮かべる」から始まって「見つける」までのストーリーを自由に想像してみたいかがでしょう。水に浮かべたパンを、魚が食べて、釣り人が釣ったその魚をネコが横取り…など。

それでも、種を蒔こう

聖書 コヘレトの言葉 11章1～6節

暗唱 聖句 あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。コヘレト 11：1

聖書から…

良いことをしたからといって、いつも思い通りになるわけではありません。そんな時にはがっかりしますね。でもどうしてがっかりするのでしょうか？ 良いことをしたらきっと良いものを手に入れることができるかと期待しているからでしょう。私たちは、将来のことを予測しますが、将来を決めることはできません。コヘレトは、今の積み重ねが将来を創るのだといっています。将来のために種を蒔くのではなく、今の自分にできること、精一杯生きることを重ねることで創られる未来に希望を見たいと思います。どんな自分が育っていくのか楽しみです。

活動①

「おおきくなるっていうことは」

●準備●絵本を入手できる方は『おおきくなるっていうことは』中川ひろたか 著 村上康成絵 童心社（パソコンで検索すると『おおきくなるっていうことは』の動画を見る事ができます）、画用紙、クレヨン

①絵本には、おおきくなるっていうことは「ようふくが ちいさくなるってこと、あたらしいはが はえてくるってこと、みずに かおをながく つけられるってこと」と書いてあります。

②絵本や動画の内容を紹介し（実物が用意できれば一緒に見て）、自分だったらどんなことを想像するか尋ねて絵本の続きを作ります。

活動②

ワークシート

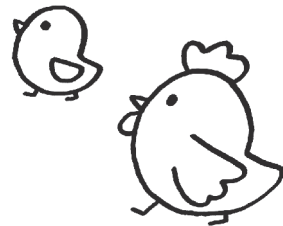
「おおきくなったらなにになる？」

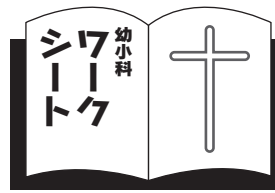
●準備●ワークシートの絵に色を塗りカードを完成させます

①ワークシートで作ったカードを子どもとおとなに分けておき、子どものカードを見せて「おおきくなったらなにになるか？」と聞いて、おとなのカードを見つけてもらいます。

②おとなと子どものカードをペアにして遊びます。

自分はどんな大人になりたいか、尋ねてみましょう、時間があればワークシートのカードと同じように今の自分の絵と将来の自分の姿を絵に描いてみましょう。





 <p>おたまじゃくし</p>	 <p>かえる</p>
 <p>ひよこ</p>	 <p>にわとり</p>
 <p>さなぎ</p>	 <p>ちょうちよ</p>
 <p>あかちゃん</p>	 <p>おとな</p>
 <p>ライオンの あかちゃん</p>	 <p>おとなの ライオン</p>

お前の若さを喜ぶがよい (11：9～10)

11章9～10節でコヘレトは若者に対し、若さを喜び、青年時代を楽しく過ごし、自分の心と目に従って生きるがよいと呼びかけます。「喜ぶがよい」は原語では「喜びなさい」(命令形)です。ここに至るまでにコヘレトは、喜びと楽しみへの招きを6回行っており(2：24～25、3：12～13、22、5：17～19、8：15、9：7～9)、この箇所が7回目です。7は聖書の完全数ですから、コヘレトが11章9節の招きをいかに重視しているかが分かります。「喜ぶ」は「喜び祝う」、祝祭を表す言葉です(レビ23：40、申12：12、12：18)。

続く11章9節後半は一読したところ冷ややかな脅しのような言葉です。しかしここでコヘレトの若者への命令の中心は、前述したように、一貫して喜ぶこと、楽しく過ごすこと、(自らの心と目に)従って行くことに集中し、次に続く勧めも「心から悩みを去り、肉体から苦しみを除け」です。つまり、神がすべてのことを必ず意味づけ、明らかにされる方だからこそ、喜び、楽しく過ごし、自らに従って生き、悩みと苦しみから解放されて生きよ、という肯定的な励ましが、この文章全体の中心です。しかしコヘレトは若さを絶対視しません。若者は悩みやすく、その悩みが肉体をも苦しめることを知っています(11：10)。「若さも青春も『空』」でやがて過ぎ去ります。だからこそ、今という時に若さを喜ぶよう命じるのです。それが次の章につながります。

青春の日々にこそ、 お前の創造主に心を留めよ

創造主を覚える、それは、人が自らを被造物(造られたもの)として知ることです。それは自分の衰えを知っていくことでもあります。「お前の『創造主』」は「(お前の)井戸・穴(墓穴)・死」とも読み替えられます。まさに「メメント・モリ」です。「メメント・モリ」とは「死を覚えよ」を意味するラテン語で中世の修道院では日常の挨拶の言葉でした。「心に留める」は「想起する・心に刻む」が原意で出エジプト記20章8節「安息日を心に留め、これを聖別せよ」と同じ語です。青春の日々に創造主を覚えることは、すなわち老いと死を覚えることなのです。その意味で、「青春の日々」とはいわゆる若者だけを特定して若さを謳歌せよと言っているのではなく、今を生きるすべての年代の人に向けられた呼びかけです。誰もが「今日」は人生で一番若い日だからです。そして「今日」から始まるこれからをどう生きるか、それが問われているのです。

塵は元の大地に戻り、 霊は与え主である神に帰る (12：7)

創造主を覚えることは、被造物には命の終わりがあり、死に向かう存在であることを覚えることです。3～8節は老いと死の比喩です。「震え、屈む、減る、失われる、目はかすむ…」(3～5節)は加齢による衰えの

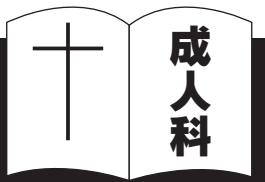
描写です。「アーモンドの花、いなご（「ばった」とも訳される）、アビヨナ（ケッパーの実、夏の夕方咲いて翌朝しばむ）」もすべて肉体面の衰えを象徴しています。

一人の人間の生には確実に終わりがある、それが12章3～8節で述べられています。しかし人の命の終わりは「塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る」（12：7）と告白されており、明らかに創世記2章7節と3章19節に呼応します。そこに響くのはただ創造主の元へ帰る喜びと平安です。

その意味で、コヘレト12章8節の「なんと空しいことか」（空の空）は冒頭の1章2節と対をなす締めくくりの「終詩」（岩波訳）であって、前の7節にかかって人間の死に対する虚無感や悲観、諦念を表しているわけではないことが読み取れます。

準備のための聖書日課

9日	㊦	申命記12:8～12	主の御前で喜び祝え
10日	㊦	イザヤ65:17～20	代々としえに喜び躍れ
11日	㊦	フィリピ4:4～7	主において常に喜べ
12日	㊦	テサロニケー5:16～22	いつも喜び、祈り、感謝せよ
13日	㊦	出エジプト記20:8～11	安息日を心に留めよ
14日	㊦	申命記8:11～18	あなたの神、主を思い起こせ



- 「喜びなさい」は新約聖書で繰り返し語られる勧めです（1テサロニケ5：16、フィリピ1：4、3：1、4：7）。

喜べないことが多い日々の歩みの中で、私たちの喜びは主イエス・キリストがいつも共にいてくださり、どんな時も一緒に歩んでくださることを知ることに来ます。旧約聖書にも神は民を喜ぶ者として創造されたとあります。（イザヤ65：18～19）

- 私たちの喜びの質を問うてみます。私たちの喜びが、他の誰かの犠牲の上になり立っていることはないでしょうか。私たち

が当然のこととして享受している便利さも同様です。社会で小さくされている人が喜べる世界はどのように実現できるのでしょうか。

- 日本ではどこでも、年配者は皆「おじいちゃん・おばあちゃん」とひとくくりで呼ばれてしまいます。いくつになってもその人を一人の個人、「〇〇さん」として敬意をもって受け入れる雰囲気教会はもっているのでしょうか。また「教会に若い人が来てほしい」と言うとき、若者を教会維持のための手段として見ていないでしょうか。

喜びなさい

聖書

コヘレトの言葉 11章9節～12章8節

暗唱
聖句

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。
コヘレト 12:1

33課

11月15日

ある日、コヘレトはふたたび、皆を集めて言いました。「若い人たちよ、今のあなたの若い日に、あなたの創造主を覚えなさい。あなたに命を与えたのは、あなたを創造されたまことの神さまなのであることを知りなさい。そしてあなたの若さを喜びなさい」。

それを聞いた若い人たちは互いに顔を見合わせます。その顔は、「若いのだって楽じゃない」と言いたそうです。確かに若いということは、はた目で見るとすばらしいことではありません。若いからこそつらいこと、できないこと、不安なことは山ほどあるのです。悩んで悩んで体の調子をくずしている友だちもいます。でもコヘレトは言うのです。

「若い人たちよ、自分の心を信じ、目に映ることに導かれながら、今という時を生きなさい。心の悩みを取り去って体も元気になりなさい。若い日々は永遠に続くわけじゃない」。

みんな年をとってゆく。どれが神さまのみ心に適うかと不安がる必要はない。大丈夫、何が神さまのみ心なのかはいずれ神さまご自身が明らかにしてくださる。だからあなたたちは今日という日を喜びなさい。誠実に、ていねいに、せいっぱい、生きなさい」。

それを聴いていた年配の人がつぶやきます。「今日という日は誰にとっても人生で



一番若い日。その今日を、創造主なる神さまを覚えて誠実に生きる。そうする人が本当の意味での若者かな？ なんだか力がわいて来た！」

フランクという人がいます。オーストリアのウーンの精神科医でしたが、第二次大戦中ナチス強制収容所に入れられ、日々死と背中合わせの極限の経験をしました。奇跡的に生還した戦後は再び神経科医として働き、その体験をもとに多くの本を書きました。

彼の言葉の一つです。「あなたが人生に期待するのではない。人生があなたに期待しているのだ」。つまり、人生に何かを与えてもらうことをあなたが期待するのではなく、人生、すなわちいのちの方があなたに期待している、ということです。「あなたは生きていていいのだよ。生きなさい！」、そう人生が呼びかけているのです。だから喜んでいいのです。

それが、コヘレトの知恵。

喜びなさい

聖書

コヘレトの言葉 11章9節～12章8節

暗唱
聖句

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。
コヘレト 12：1

青少年科



聖書から…

進学や就職等のための受験を控えている方もいるでしょう。なぜ懸命に受験のための勉強や訓練をするのでしょうか。希望の学校に入るために、希望の仕事に就くために…。将来のために、努力をしたり備えたりすることは大切です。その中で、あなたの若い「今」を生きているかい？ コヘレトは問いかけているように思います。

人生では「得ていく」一方で、「失う」ということも起こります。人は必ず死にます。死に向かって、さまざまなものを手放していくのです（12：3）。たとえ、いま健康に自信があるという人、また学歴やキャリアがあるという人、社会的な肩書を持っているという人でもそれらを手放さなくてはならない日が来る。将来自分が若い頃を振り返るとき、どんな私を振り返るのでしょうか。そんな視点でこの箇所を読むと、説教臭くは感じないかもしれません。がむしゃらに頑張っている姿でもいいのですが、自分が「造られた者」であることを知るがゆえに軽やかにしなやかに生きている姿を振り返ることができたら、なんだか素敵な気がします。明るい見通しが立たなくても、たとえ明日に希望が持たなくても、「今」というときを、投げださずに、諦めずに、希望を失わずに、丁寧に、大切に、生きることができる…。「喜びなさい」（11：9の原語訳）との命令形は、コヘレトの言葉というよりも「いのち」が呼び掛けているメッセージなのかもしれません。

分かち合おう

- 「若い人」と言われる中には、どのような思いが込められているように感じますか。「元気で明るく生命に満ち溢れてほしい」そんな期待があるかもしれません。もちろん明るい性格ではない、元気ではない、はつらつとしていない、もしくはそうできない私があります。「〇〇さん」の存在を喜ぶことができるといいですね。そしてそれは「若い」に対しても同様の見方ができるでしょう（成人科より）。
- 学生の頃は進学や就職などを、大人になると将来設計や老後のことを、老後は死のことを心配し…。先のことには気を揉みますが「今」のことには案外無関心な私たちです。もしくは「今忙しすぎて、先のことなんて考えられない」という方もいるでしょう。フランクルの言葉や「メント・モリ（汝の死を覚えよ）」という言葉を参考に「今を生きる」「今を喜ぶ」とはどんなことか考えてみましょう。明日も見えない中で「今日」を諦めずに生きたフランクル、その力（希望）はどこから来るものだったのでしょうか。

33
課

11
月
15
日

喜びなさい

聖書 コヘレトの言葉 11章9節～12章8節

暗唱 聖句 青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。
コヘレト 12:1

聖書から…

33課

11月15日

「大きくなったら何になりたいですか？」
そんな質問をされることはよくありますね。
先週はどんなおとなになりたいか考えてみ
ましたね。では、「今、あなたはどんな人
ですか？」と質問されたらなんと答えます
か？

神さまはどんなことを託して、あなたを
創造してくださったのでしょうか？ 私たち
は近くにいるおとなからたくさんのことを
習います。感心して学ぶこともあるけれど、
時には自分の考えとは異なることもあるで
しょう。「わがままを言うてはいけない」
と言われる事がありますが、それはおとな
が言う通りにすることでしょうか？ 大事
なことは、私たちを創造してくださった神
さまが、そのことを応援してくれるかどう
かを考えてみることです。コヘレトは、若
い今を「喜ぶがよい」といっています。今
朝目を覚まして、自分を喜ばせる何かをし
ましたか？「今、生きている！」そのこと
を喜ぶ事ができていますか、神さまは私た
ちが心から喜ぶ姿を喜んでくださる方です。

活動①

「喜ぶがよい」

●準備●クラスのメンバーの喜ぶことを考
える、ビスケット、チョコペン、湯
煎用のお湯と入れ物

- ①例：むぎゅっとハグ、絵本をいっぱい読
む、キャッチボール、お散歩、ゲーム、
リーダーは、いつも一緒に過ごしている
子どもたちの喜ぶことを知っているでし
ょうか？ 前もって、本人やお家の人に
リサーチしたり、想像力を働かせて、色々
と準備して思いっきり楽しいことをして
一緒に喜びを味わいましょう。
- ②ビスケットにチョコペンで、ニコニコの
顔を描きます。
- ③できた顔をみんなで楽しみ「いただきます
す！」

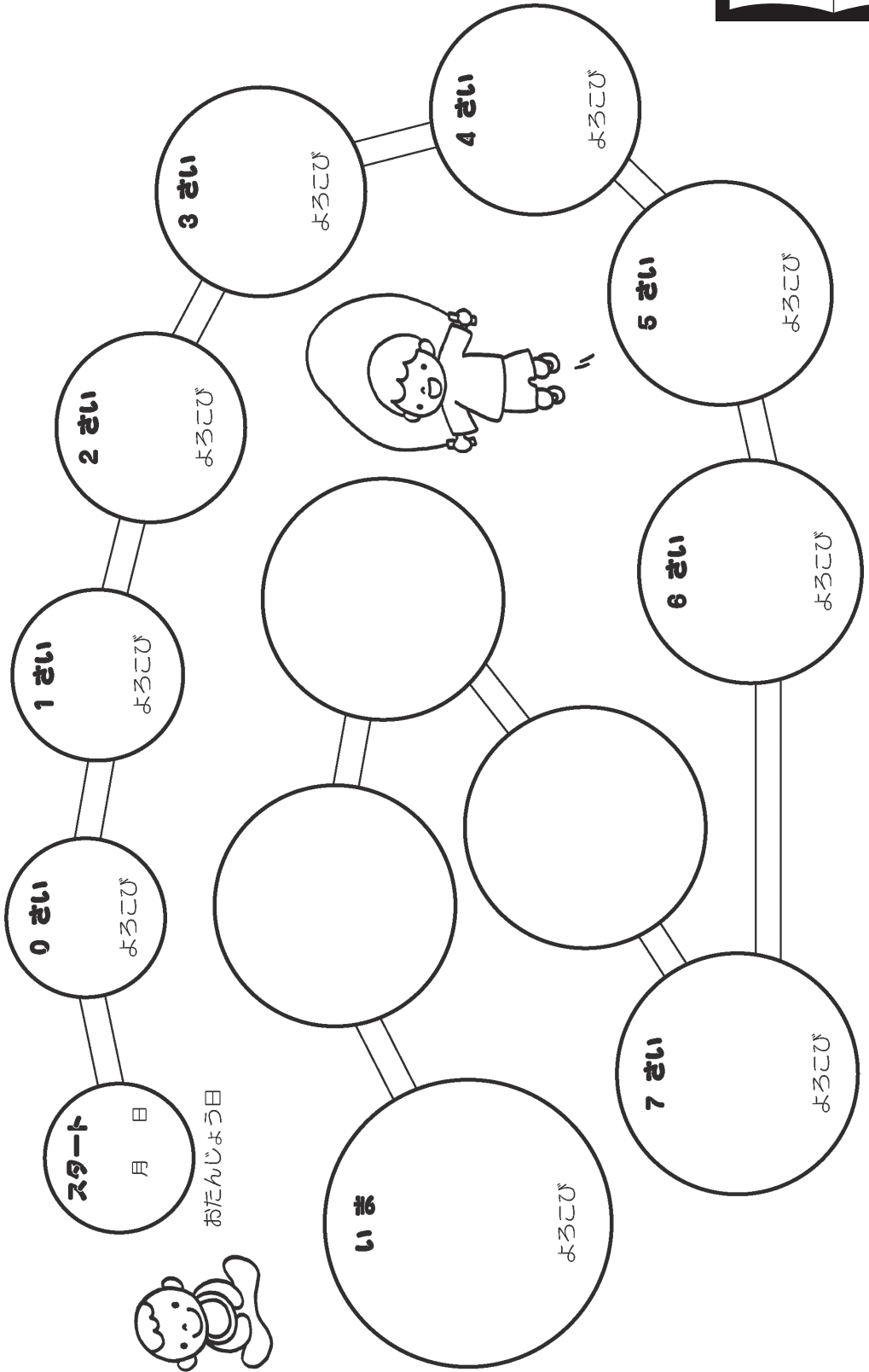
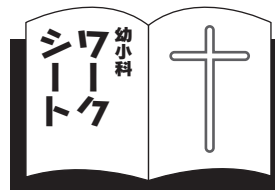
活動②

ワークシート

「わたしのよろこび年表」

●準備●ワークシートのコピー、ペン

- ①ワークシートを配って、自分がそれぞ
れの年齢のときに何を喜んでいたのかを考
え、また思い出し、丸の中に書き込みま
しょう。例：だっこされること、自転車
に乗れる、など
- ②7才以上のメンバーは、年齢が書いて
いない丸に自由に年齢も書き込みましょ
う。そして、今の自分、未来の自分が喜ん
でいたいと思うことを発表します。
- ③みんなでそのことを応援して、祈ります。



コヘレトの解放の言葉

聖書 コヘレトの言葉 12章9～14節

暗唱 聖句 「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。
コヘレト 12：13

34課

11月22日

あとがきの言葉

12章9～14節は、後に編集者により付記された「後書き」あるいは「補遺」と考えられています。書全体がコヘレトの自伝的経験談として書かれているのに対し、この部分だけはコヘレトを三人称で呼んで今までの教えを要約すると同時に（12：13）、それに対する応答の言葉ともなり、読み手への推薦文にもなっているからです。事実、「コヘレトの言葉」がその独特な内容のゆえに賛否両論ある中で最終的にヘブライ語正典とされたのは、この「神を畏れ、その戒めを守れ。これこそ人間のすべて」というイスラエルの伝統的な律法遵守の教えがあるからだと言われます。

賢者の言葉は すべて突き棒や釘

9節でまずコヘレトが人生を傾けて労した働きが述べられます。彼は「知恵」を深めると共に「より良く民を教え、知識を与え」ました。格言の吟味、研究、編集、語句の探究、真理の言葉の忠実な記録、これらはすべてコヘレト自身が忍耐強く、時間をかけて取り組んだものです。現代人で言えばコヘレトは自分自身が感じたり考えたり経験したことを心の中に蓄え、それらの膨大な知恵や知識をくまなく言葉化して整理保存し、必要に応じて自由自在に取り出すことができた人だと言えるでしょう。さらにそれらを実際に語って聴かせる説教者、人々に教える教師でもあった

のです。

「賢者の言葉はすべて、突き棒や釘」、これは畜産用語です。突き棒とは牛を誘導するための杖であり、釘は杖の先に埋め込まれました。昨今、「刺さる言葉」という表現がよく聞かれます。インパクトのある言葉、印象深い言葉、人の心に影響を与える積極的な表現として使われています。コヘレトの言葉にはたくさんの「刺さる言葉」があります。「知恵が深まれば悩みも深まり、知識が増せば痛みも増す」（1：18）とあるとおり、コヘレト自身が深く悩み、痛みながら編んできた言葉の数々なのだと思像できます。

「ただひとりの牧者（ローエー）」と言う語は詩編 23 編 1 節（「主は羊飼い（ローエー）」）を思い出させます。羊飼いなる主の鞭と杖が迷いやすい私たちをそのつど導いて正しい道に導かれるように、コヘレトの言葉もまた現代にあって胸に刺さり心に届く言葉として私たちを主に在って生きる道へと導いてくれるのです。

神を畏れ、その戒めを守れ

「コヘレトの言葉」全編を読んでわかること、それは、コヘレトは体裁をつくらわずに本音を大胆に語る、現実的な知恵の教師だということです。コヘレトは「神さまを信じていれば悩みは何もなくなり、良いことばかりがありますよ」とは言いません。反対に、神さまを信じているからこそ人間は悩み、時には疑い、葛藤すると言っています。また災いや思わぬ出来事は正しい人にもそうでない

人にも同じように起こり、人はそれを予知できないとも言っています。更に、神さまがどこにおられて何をしておられるのか人に悟ることはできません。それでも必ず神さまの時を設けて働いておられます。そしてこの神さまに信頼して日々生きることが人間の幸福であると語っています。「書物はいくら記してもきりがなく、学びすぎれば身体が疲れる」(12:12)はコヘレトならでのユーモアでしょう。

彼は「すべてに耳を傾けて得た結論」を13、14節で宣言します。最終的に神が隠れたことをも含めてすべてを正しく位置づけ、意味づけ、明らかにされる、これは解放の言葉です。だから神をのみ畏れ、その戒めを守るのです。その呼びかけは、空なる人生を生

準備のための聖書日課			
16日	㊦	申命記6:1~9	すべての掟と戒めを守れ
17日	㊧	申命記6:10~15	あなたの神、主を畏れよ
18日	㊨	詩編23:1~6	主は羊飼い
19日	㊩	ルカ10:25~28	あなたは どう読んでいるか
20日	㊪	ローマ8:18~25	被造物のうめきを共にして
21日	㊫	コリント二5:16~21	新しい創造への招き

きる私たちへのコヘレトからの励ましであり、エールの言葉ではないでしょうか。



- 伝統的な「知恵」理解とは知恵を得ることが社会的、物質的、宗教

的な成功をもたらすことでした。しかし価値観が破綻し逆転した世界ではこのような知恵理解はもはや通じないとコヘレトは語ります。彼は、「神を畏れて生きる知恵」とは何かをもう一度問い、再構築しています。読者に語りかけ、対話を求めています。「あなたはどう思うだろうか?」と。

- 主イエスもまた、ご自分の時代の中で律法を問い直した方です。「あなたがたも聞いているとおり…と命じられている。しか

し、わたしは言うておく。…」(マタイ5章)「律法にはなんと書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」(ルカ10:26)あなたは今、聖書をどう、読んでいますか?

- 「空とは虚無ではない。そこに『豊かさと神聖さを秘めたなにものか』なのである」(中村哲『天、共に在り』P.47NHK出版)。この神に在る豊かさに与り、「被造物のうめき」(ローマ8:22)を共にうめく時、私たちは「キリストに結ばれた新しい創造」(IIコリント5:17)へと招かれます。それは神を畏れ、その戒めに生かされ、み名を賛美する生への招きです。

コヘレトの解放の言葉

聖書 コヘレトの言葉 12章9～14節

暗唱聖句 「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。
コヘレト 12:13

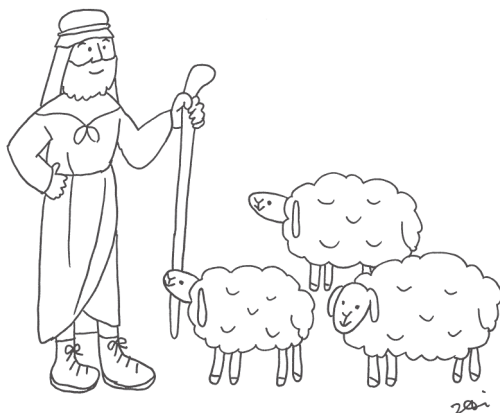
34課

11月22日

これまで共に学んできたコヘレトの言葉も終わりの章になりました。コヘレトの言葉を読んでみて、今どのように感じていますか？ コヘレトの言葉が前より少しは身近になりましたか？

確かにコヘレトの言葉は旧約聖書の他の書物と比べてもきわめて独特です。知恵の書物がふつう言うように、このように生きることが神さまのみ心ですよ、と分かりやすく書いてあるわけでもありません。かなり極端で時々正反対のことさえも言います。しかし、この8週間コヘレトの言葉を共に学んできた私たちにはだんだんとわかってきました。コヘレトが言いたいこと、それは、この世界は「空」（ヘベル）であること、しかし、空とは決して空しくてつまらない、おもしろくないということではないことが。いやむしろ反対に、コヘレトは生きにくい世の中を生きている私たちにいろいろと現実的な生き方のヒントを与えて私たちを励まし、「今日という日をせいっぱい生きなさい！」とエールの言葉を送っているのだということが。

コヘレトは、イエスさまがお生まれになる200年～400年前ほどの人であろうと思います。イスラエルはその時代、外国の統治の影響で、それ以前とはずいぶん人の考え方が変わってしまっていたのです。今まで正しいとされていたことがみんなひっくり返ってしまいました。何を信じ、支えにしたらよいのか、みんな右往左往して



いました。神さまは一体どこにおられるのか？ そのような思いが人々の心を占める中、コヘレトは皆の心に「刺さる言葉」を語ったのです。コヘレトの言うことは不思議だなあ、おかしいなあと思っているうちに、どんどん気になる言葉になってきて、繰り返し聞いて、また読んでみたくなりますのです。この最後の章は言います。コヘレトの言葉は牧者の言葉だと。つまり、羊飼いが棒や杖をもって家畜を囲いへと導くように、コヘレトの言葉はこの世界の空の現実をしっかりと見据えながら、私たちをいのちの主である神さまのもとへと導いてくれる言葉なのです。そうです、ちょうど詩編23編の「主は羊飼い」と同じように。

コヘレトの言葉の結論です。「神を畏れ、戒めを守れ。これこそ、人間のすべて」。良いことも悪いことも、隠れたことも、今わからないことも、いっさいのことを最後に明らかにし、神さまのみ心にかなう正しさを決めるのは、創造主なる神さまご自身だけなのです。

それが、コヘレトの知恵。

コヘレトの解放の言葉

青少年科



聖書 コヘレトの言葉 12章9～14節

暗唱 聖句 「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。
コヘレト 12：13

聖書から…

「あとがき」として補われたと考えられている今課の箇所ですが（**聖書の学び**より）、これまでコヘレトの言葉を読んできて、どのように響きますか。「賢者の言葉はすべて、突き棒や釘」（12：11）の言葉から、私たちを導いてくれる書物であることが示唆されていますが、そのつもりでコヘレトの言葉を読んでも、参考書のようにそのまま答えが書いてあるわけではないことは、これまでの学びで実感したのではないのでしょうか。

今課の週題に「解放」との言葉を付けました。旧約聖書の中から解放の出来事を思い起こしてみますと、出エジプトの物語では、エジプトの地から引き出されることで、人は命を得ていきます。一方バベルの塔の物語では、一つに集まろうとする人間を神は言葉も通じないほどに散らされます。どちらかに大きく偏ろうとしてしまう人間の知恵や正義、その偏りとは逆方向に働く問いかけが、神の「解放」の出来事なのかもしれません。12節でユーモアたっぷりに私たちの心を和ませるコヘレト、13節では「結論」とまで言い切りながら、「神を畏れる」ことによって、人間の価値観から私たちを解放へと導きます。「聖書が答えだと思っていないかい？ そうじゃない…でも答えなのだよ」にやりと笑うコヘレトを想像します。聖書をあなたはどう読むか、問われ続けた書物です。

分かち合おう

- 「コヘレトの言葉」全体から、今のあなたの心に「刺さった言葉」はありましたか。同じ書物の中で相対することも記していたコヘレト。また、翻訳されていく中で、解釈もさまざまであることを知りました。このような聖書を、なぜバプテスト教会は「唯一の規範」とするのでしょうか。むしろ固定化した教理や信条、教憲教規は持たないことを選び取った教派です（**教会員手帳**より）。

本紹介 『線は、僕を描く』

砥上裕将 講談社

突然の事故で両親を亡くした主人公。水墨画との出会いの中で自分自身の心と向き合い始める彼が、大切な人の喪失感を「疲れてしまう」と表現するのが印象的です。コヘレトが繰り返す「空しい」との言葉の中にも、いろいろな思いが込められているように思います。「遺された人間はこうやって毎日のある瞬間の中で見送った人たちとの距離を測り直していく（本文より）」。「定められた「時」を思いながら、振り返る時の流れ。この世界を「空（ヘベル）」と表現し、しかしそれは空しくてつまらない、おもしろくないということではないよと、しなやかに生きるコヘレトの姿を想像します。

34課

11月22日

コヘレトの解放の言葉

聖書 コヘレトの言葉 12章9～14節

暗唱聖句 「神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。
コヘレト 12：13

聖書から…

私たちは考えることを知ってから、自分の力で生きていこうとして、自分の知恵や力を蓄える事が大切だと思ふようになりました。だから、一生懸命勉強し、習い事を頑張り、スポーツに打ち込み、自分のことにたくさんの時間を使っています。

コヘレトは、本当に大事なことが何か、考えに考えて、そのことを人々に知識として与えました。そして、格言を研究し、言葉を忠実に記録しました。たくさんの時間と労力を費やしたコヘレト、人々はコヘレトの言葉をどのように評価したでしょうか？コヘレトの残した言葉は「突き棒や釘」です。それはどういう意味でしょう、羊飼いが杖をもっている風景を想像してください。羊に危険のないように、杖を使って囲いの中へと導きますね。コヘレトの言葉は羊飼いの杖、「牧者の言葉」のようだということです。人から言われたくないけど大事だと心の奥の方で感じていることを、人から言われたら、心がチクッとしませんか？コヘレトはチクリ！と私たちの心を目覚めさせてくれました。一番大事なものは「神を畏れその戒めを守ること」です。

活動①

「手話で暗唱聖句」

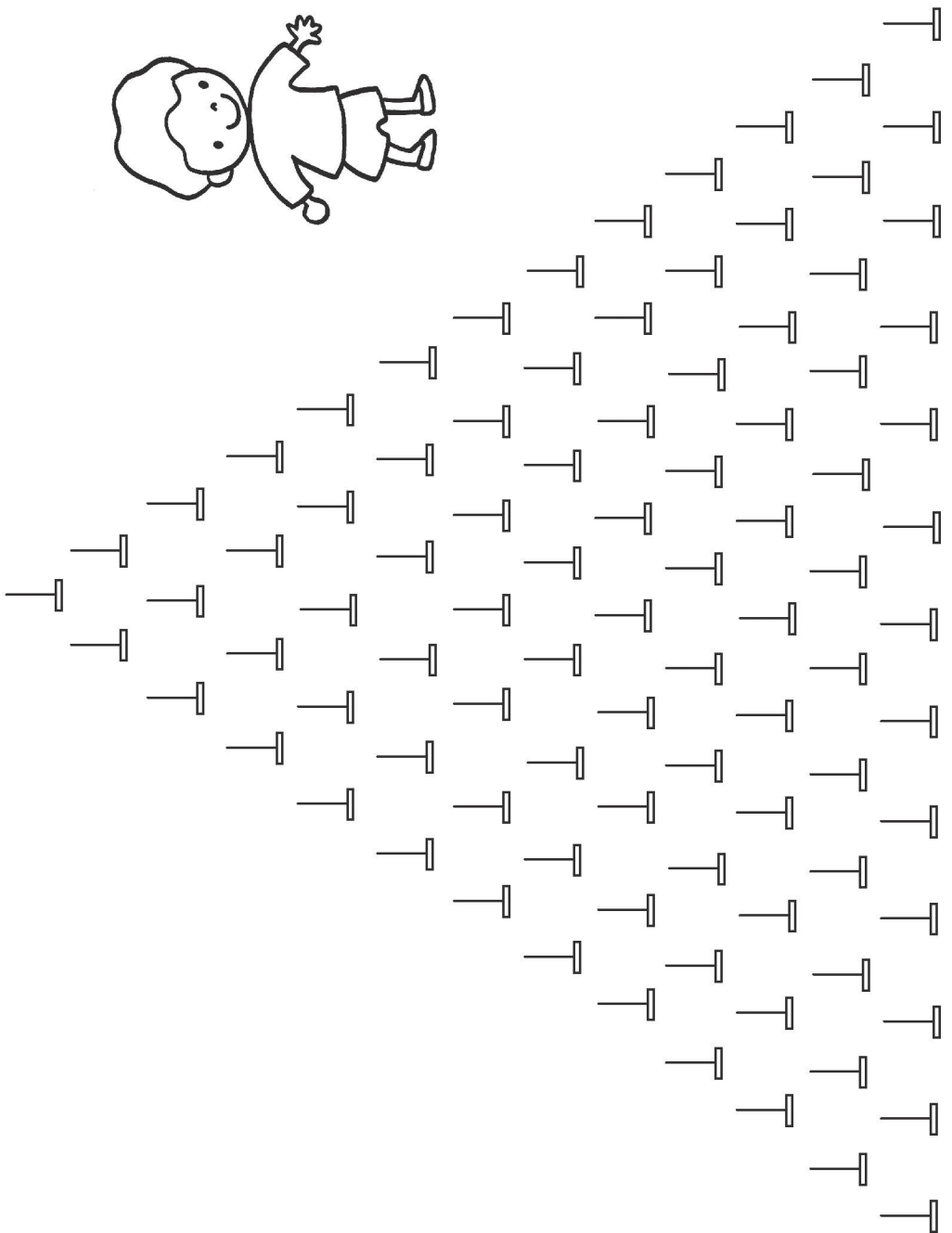
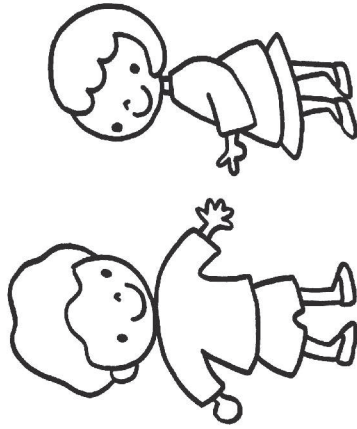
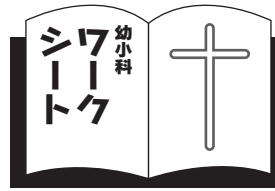
- 準備●暗唱聖句手話ページ(P.92、93)を拡大コピーしてA4サイズくらいの画用紙に、単語ごとに貼ったものをメンバーの人数分作ります。
- ①1組はリーダーが持ち、他のカードを床に広げます。
- ②リーダーが示すカードと同じ手話をしているカードを見つけます。
- ③全員がカードを集める事ができたら、手話写真の貼ってあるカードを、聖書を見ながら並べます。
- ④カードを見ながら、手話で暗唱聖句を試みましょう。

活動②

ワークシート

「コヘレトの知恵を使って」

- 準備●ワークシートのコピー、ペン
- ①ジャンケンをして、勝った人が先攻、負けた人が後攻です。
- ②先攻の人は、好きな所の釘を好きな数だけ、横棒を引いて消します。横棒なら、どこの段から初めてもOKです。
- ③順番に好きな数の釘を消していきます。
- ④一番最後に残った釘を消すことになった人の負けです。
- ⑤どんなに知恵を使っても、人の知恵には限界があることを知って、暗唱聖句を覚えます。



34課

11月22日



だから、こう祈りなさい

聖書

マタイによる福音書 6章9～13節

暗唱
聖句

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
マタイ 6：11

35課

11月29日

本日からアドベント（待降節）です。クリスマスに向けてマタイによる福音書を共に学びます。また、この一週間は世界バプテスト祈禱週間です。世界を覚えて祈り献げるこの時期、私たちは「主の祈り」の持つ世界性の広がりや深みを改めて心に留めたいと思います。

イエスさまが 教えてくださった祈り

「主の祈り」は「主イエス・キリストの祈り」です。主イエスが弟子たちに教え、また教会を通して私たちにも教えられた祈りです。聖書の時代、ユダヤ教をはじめ信仰を同じくする共同体には共有された祈りがありました。主イエスも一日の内に定期的に時間を取って祈っておられた様子が福音書に描かれています。その姿を見て、弟子の一人が、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と主に願いました（ルカ 11：1）。この時代、宗教的指導者たちは会堂や大通り等、人の見ている前でまるでパフォーマンスのように施しや祈り等の宗教的行為を行っていました。それに対し主イエスは弟子たちに、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられる父である神に祈ること、そしてその祈りは言葉数の多いくどくどとした祈りではなく、シンプルであることを求められたのです（マタイ 6：6～8）。「焦って口を開き、心せいで、神の前に言葉を出そうとするな。神は天にいまし、あなたは地上にいる。言葉数を少なくせよ」（コヘレト 5：1）

キリスト者の最も基本的な祈り ～「だから、こう祈りなさい」～

「主の祈り」は旧約聖書の十戒と並んでキリスト者の信仰の基本であり、礼拝のたびに私たちが祈る、最も基本的な祈りです。また、幼い子どもたちも、祈ることができるようになると、「主の祈り」を祈ります。その意味で、「主の祈り」は子どもから大人にいたるまでキリスト者共同体で共有されている大切な祈りです。ハワーフスという神学者は、「キリスト者とは、主の祈りを祈る人びとのことである」と言っています。

主が教えてくださった「主の祈り」は次のような構成になっています。

- 神に対する呼びかけ①：「天におられるわたしたちの父よ」とみ名を呼び、たたえること。

主イエスは神を親しい呼称である「父」（アッバ）と呼び、この神が「あなたの父、あなたがたの父」（マタイ 6：6、8）であると私たちに教えておられます。アッバは小さな子どもが用いる愛情のこもった呼び方で、祈りではふつう使われていなかったとされます。神と私たちは主イエスを介してそれほど親しい関係にあるのです。

- 神に対する呼びかけ②：み国の到来を願い、み心が天におけるように地の上にもなること。

み国、み心、それらは共に神ご自身の主権を表します。この世界に神の国をもたらすことがおできになるのは神ご自身であり、その

神ご自身だけがその意志を自ら表されることがおできになる方なのです。私たちの理想や願望の実現ではありません。ギリシア語の文法（間接命令法）に沿って考えれば、「神さま、どうかあなたご自身が成し遂げてください」という私たちの「強い懇願」であるのです。

世界のための、 世界と共なる祈り

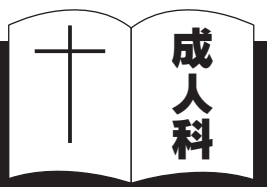
後半部分は私たち人間の側の必要を求める祈りです。願う前から私たちに必要なものをご存知な父なる神であるからこそ、私たちは求めよとの促しを受け、求めるのです（7:7）

- 私たちの必要の求め①：必要な糧を今日与えてください。
- 私たちの必要の求め②：負い目を赦してください。
- 私たちの必要の求め③：誘惑に合わせないでください。

必要な今日（日々）の糧、罪の赦し、誘惑

準備のための聖書日課			
23日	㊦	ルカ11:1~4	祈りを教えてください
24日	㊦	詩編89:20~30	あなたは、わたしの父
25日	㊦	マルコ14:32~42	アッバ、父よ
26日	㊦	ガラテヤ4:1~7	神の子とされるために
27日	㊦	マタイ7:7~12	求める人は受ける
28日	㊦	マタイ6:5~8	願う前からすべてをご存じの神

からの守り、それらは、私たちの共なる祈りです。「私」だけが満たされ、赦され、誘惑されないためではなく、「私たち」、つまり、隣人、共同体の人びと、さらには顔も知らない、まだ見ぬ世界の人びと、その人びとのために、またその人びとと共に祈る祈り、それが「主イエス・キリストの祈り」なのです。



成人科

- 外国籍の人々が共に礼拝する教会が増えています。生活習慣や文化

が異なる中で「主の祈り」は世界共通の祈りです。いろいろな言語の「主の祈り」を探してみましょう（YouTubeにもあります）。

- 「今日の糧」は決して当たり前ではありません。世界には、そして日本にも今日の糧を欠く人々がいます。今日の糧はまた、「日毎の糧」であり、神さまの恵みです。

具体的に誰かを思い浮かべて、この祈りを祈ったことがあるでしょうか。

- 神を父と呼ぶのは、主イエスがみ子だからです。「神は性別という人間的な概念を超える存在であり、…神ご自身のいのちの中に、家族にたとえられるような親しい交わりがあることを言い表すため」（『主の祈り～今を生きるあなたに』W.H. ウィリモン、S. ハワーワス著、平野克己訳、日本キリスト教団出版局）なのです。

だから、こう祈りなさい

聖書 マタイによる福音書 6章9～13節

暗唱 聖句 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
マタイ 6:11

35課

11月29日

「じゃらん、じゃらん！」街角にお金の音がひびきわたります。イエスさまの時代、宗教的と言われる人たちは、自分の熱心さをとても自慢にしていました。自分たちはこれだけ一生懸命神さまに献げているのだということを見せるため、町の通りや神殿で大きな音を立てて献金していました。お祈りする時も同じです。彼らの一番の関心はどれほど自分たちが信仰深く、お祈りに熱心か、それを人に見せびらかすことでした。

「お祈りするときには」、とイエスさまはある日弟子たちに言いました。そして祈るときに大切なふたつのことを教えてくださいました。ひとつは、そのような人びとのまねをしないこと、つまり、人に見せるためではなく、神さまだけに向かって祈ること。もうひとつは、神さまが何もご存知ないかのようにくどくど、長々と言葉ばかりを並べる呪文のような祈りは必要ないこと。そうして、イエスさまは、「だからこう祈りなさい」と言って、「イエスさまのお祈り」を教えてくださいました。それが、今も私たちが祈っている、「主の祈り」です。

「主の祈り」は「主イエスさまのお祈り」です。神さまを「天におられる父」と親しく呼んだみ子イエスさまと共に、私たちも親しく神さまに心を開きます。神さまのみ名を呼んであがめ、み国が来るように、み心がこの地上にもなるようにと、まず祈る



のです。次に私たちの必要を祈ります。日々私たちが生きるために必要な今日の糧、ほかの人と共に生きていくために必要な罪のゆるし、そして私たちの心を神さまから離そうとするあらゆる誘惑から私たちを守ってくださいとの祈り、それらはすべて私たちにとって、なくてはならない必要な祈りです。「必要」とは、ただ欲しいからくださいと求めることではありません。体が栄養を必要とするように、私たちも「主の祈り」を必要としています。それは神さまとの親しい交わりのために、また他の人々と共に生きるために、なくてはならない祈りなのです。

「主の祈り」はだれでも覚えられる短いお祈りですが、大切なことがすべて入っている力強い祈りです。きっとイエスさまご自身も毎朝、毎日、この祈りをご自分で祈っておられたのでしょ。神のみ子イエスさまは、イエスさまの大切な祈りを、私たちも「共に祈ろう」と分けてくださいました。この喜びと共に「主の祈り」を日々祈りましょう。

だから、こう祈りなさい



聖書

マタイによる福音書 6章9～13節

暗唱
聖句

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
マタイ 6:11

聖書から…

仕事があまくいなくて「なぜだろう」と焦っていた時、私がクリスチャンであることを知る先輩から「聖書には答えはすぐに書いていないでしょう。回り道も必要よ」と励まされたことがあります。たとえ話しを用いながら、答えをおっしゃらないこともあります。しかしここでははっきりと「こう祈りなさい」と提言されているイエスさまの姿が印象的です。それほどに当時「祈り」の本質が失われていたのでしょうか。

祈りに限らず、「教えてもらう」ということは、大事なことなのかもしれません。教えられることで、祈りはその人との間で共有することができ、私たちは祈りによってつながられていきます。その教えられた『主の祈り』は、神と人との関係を明確に宣言します。すべての人は等しく神を「アッバ」と親しく呼びかけて祈ることがゆるされているゆえに、人と人とは神の家族の一員とたとえられるようなお互いであり、私たちは『主の祈り』において、人と人々が「共に生きていく」祈りへと導かれます。そのことで自分一人の力(思い)では見られないほど広い世界へと視点を向けられるのです(聖書の学びより)。「だから、こう祈りなさい」との言葉は、単なる命令ではありません。祈りが(自分の熱心さを自慢する)宗教的と言われる人たちのものになってしまっていた時代、イエスさまが教えてくださった祈りをだれもが共有できる、その喜びと解放の意味が込められているのかもしれない。

分かち合おう

- 主の祈りで「わたしたち」と祈る中には、「今日の糧」のように、その事を当たり前に享受できない状況の人々がいることを思います(成人科より)。しかし、わかった「つもり」になっていないだろうか、そのような恐れを感じたことはありませんか。私たちにどんなに心を砕いても、わかり得ない他者の苦しみがある。きっとイエスさまもそのことはご存知の上で「祈りなさい」と導かれます。祈りとは何なのか、改めて考えてみましょう。
- 私たちが自由に言葉を紡いで祈るときには「イエス・キリストのみ名によって祈ります」という言葉を添えて祈ります。神と人とは本来断絶され、み子イエス・キリストを通すことでしか、わたしたちは神に祈ることも許されない存在であるのです。そのような関係性の中で神を「アッバ」と親しく呼び掛ける祈りをイエスさまはわたしたちに共有されました。イエスさまは、どのような思いで主の祈りをわたしたちに教えてくださったのでしょうか。

35課

11月29日

だから、こう祈りなさい

聖書 マタイによる福音書 6章9～13節

暗唱 聖句 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。
マタイ 6:11

聖書から…

お祈りはどんな時にするでしょう、ご飯を食べる時や寝る時にお祈りする人がいますね、それは食事ができる事や、一日無事に過ごせた感謝の祈り。病気の時や心配事がある時にも祈りますね、それはお願いの祈り。祈りはいつも神さまがいてくださることを忘れないでいる「しるし」でもあります。だから人に見せる必要はありません。自分の思うことをいつでも神さまにお話するように祈ります。

そうしたお祈りとは別に、イエスさまが教えてくださった祈りがあります。それが今日の聖書の箇所です。皆さんは「主の祈り」として覚えているかも知れません。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に対応するために、フランシスコ教皇は、今年3月25日正午に全世界のキリスト者が一斉に「主の祈り」をささげるように呼び掛けました。キリスト者は神さまがお創りになった人々と祈りによって繋がることができます。困難な状況にある時、祈りは勇気と励ましをもたらす、最大の力になります。

活動①

「主の祈り、みつけた」

●準備●ワークシートのコピー（メンバーの人数分、厚紙にコピーして丸を切る）、紙袋

①ワークシートで作った○を紙袋に入れ、くじを引くように○をとります。

- ②中に書いてある文字を読みながら、主の祈りの言葉を順番に並べていきます。
- ③全部揃えることができたなら「主の祈り」をみんなで一緒に読んでみましょう。



活動②

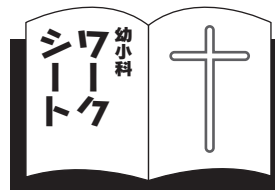
ワークシート

「世界中で主の祈り」

●準備●ワークシートのコピー（赤と緑の色画用紙にコピーする）、できたリースをはる台紙、宣教師の名前を書いた紙

※日本バプテスト連盟では、現在、数名の宣教師を各地に派遣しています。詳しい宣教師の働きについては『世の光』2020年10月号（日本バプテスト女性連合発行）をご覧ください。
カンボジア=しまだ かずゆき宣教師 しまだ かおる宣教師
インドネシア=のぐち ひゅうまん宣教師、のぐち かな宣教師

- ①赤と緑の紙の丸の部分を取り取ります。
- ②赤と緑を交互に「主の祈り」の順番で貼ります。
- ③上記の宣教師の名前や、自分の教会が祈りに覚えている宣教師の名前を貼りましょう。宣教師の働きを知らせて、世界の人と繋がれることをイメージして主の祈りをします。



てんにまします
われらのちちよ

ねがわくはみなを
あがめさせたまえ

みくにを
きたらせたまえ

35課

11月29日

みこころの
てんになるごとく
ちにもなさせたまえ

われらの
にちようのかてを
きょうもあたえたまえ

われらにつみを
おかすものを
われらがゆるすごとく
われらのつみをも
ゆるしたまえ

われらを
こころみにあわせず
あくより
すくいだしたまえ

くにとちからと
さかえとは
かぎりなくなんじの
ものなればなり

あーめん

図書紹介『子どもと話そう神さまのこと』

古谷正仁著 日本キリスト教団出版局
「主の祈り」を子どもとの対話で学ぶことができます

図書紹介『かみさま、きいて！こどものいのり』

大澤秀夫、真壁巖 監修 日本キリスト教団出版局
子どもの言葉で「祈る」ことを学ぶ1冊

アブラハムからマリアまで

聖書 マタイによる福音書 1章1～17節

暗唱
聖句 このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。
マタイ 1:16

イエス・キリストの 「系図」と「誕生」

マタイはイスラエルの伝統に基づいてイエス・キリストの系図から福音書を始めます。「系図」はギリシャ語で「ゲネシス」で「誕生」も意味します。1章1節と18節に同じ「ゲネシス」の語が使われ、その間にはさまれて各14代を3代ずつに分けた人々の名前が書き連ねられているのです。ちなみに「ゲネシス」は創世記の英語名 Genesis (ジェネシス) の語源です。従って、このマタイ1章全体が、イエス・キリストの誕生を通して神さまがなさった新しい創造の出来事を記していると理解できます。

アブラハムから ダビデまで14代

信仰の先達^{せんだつ}アブラハムは、神さまからの呼びかけを受けて「行く先も知らずに出発」(ヘブライ 11:8) しました。「あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう」(創世記 22:17) との神さまの約束は、待ち望んだ末に生まれたイサク、そしてヤコブを経て、ユダを含む12人の兄弟たちに受け継がれます。ダビデ王へと続くその系図は、イスラエルが^{はんえい}繁栄を求めて力を拡大していった時代として通常捉えられています。しかし、そこに含まれる3名の女性の名前は、そのようなイスラエルの歩みのもう一つの真実を伝えます。「ユダはタマルによってペレツとゼラを」(1:3) とあるのは、ユダが死んだ

息子の妻であったタマルへの義父の責任、つまり、彼女の法的権利であるレヴィレート婚を果たさなかったことに対し主なる神がタマルの人権を守られたことの証しです。ラハブは遊女(ヨシュア 2:1)、ルツは異邦人モアブの女(ルツ 1:4) です。系図の純粋性を守るためなら本来は含まれないはずの彼女たちの名前、それは偏見^{へんけん}の中で自ら積極的に、かつしなやかに道を切り開いていった女性たちの存在を告げるものです。

ダビデから バビロンの移住まで14代

ダビデからエコンヤまでの14代の内、8～9節のヨラムとウジヤの間には実は3名の王の名前が省略されています。歴代誌上 3:11～12を見ればヨラムからウジヤ(別名アザルヤ、歴代上 3:11)の間にはアハズヤ、ヨアシュ、アマツヤの3名の名前があることがわかります。これは系図として14代を整えるためのマタイの技法です。そして「系図」の目的が実は「系図」そのものよりもキリストの「誕生」にあることのあるしなのです。

この2番目の14代は、イスラエルにとっていわば^{そうしつ}喪失と^{すいたい}衰退の時代です。ソロモンにおいて頂点を極めたイスラエルの「栄華」(マタイ 6:29) は北王国と南王国の分裂、及びバビロン捕囚における国の喪失によって^{こな}粉微塵に^{ふんさい}粉碎されました。しかし、その破綻^{はたん}の^{がれき}瓦礫の中から「草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」(イザヤ 40:8) という神の出来事が立ち上っ

てくることを表現している箇所でもあります。

ちなみに1:6でバト・シエバ個人の名前が記されず、「ウリヤの妻」とだけ表現されているのも、王としてのダビデが欲望と権力のもとで犯した人間的な罪が、キリストの誕生にいたる系譜の中であらためて痛みの出来事として記録され、そこに悲しみの声を聞こうとしているからだと読めます。神さまの新しい出来事は、時として、痛みや悲しみを浮き彫りにします。

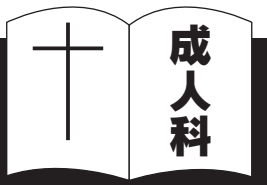
バビロンへ移されてから キリストまでが14代

この部分で登場する人びとの名前は、捕囚民の一人として名前が歴代誌その他にあげられているゼルバベル(歴代上3:19、エズラ3:2)以外、私たちにはほとんど馴染みがありません。この部分は、捕囚からの帰還と復興、国の再建の長い歴史の部分です。また、メシアという一条の光の到来を各世代が代々に渡って待ち望む、忍耐の時代でもあります。

その末に辿りつくトンネルの出口のような16節に注目します。「ヤコブはマリアの夫

準備のための聖書日課			
30日	㊦	創世記22:15~18	海辺の砂のように
1日	㊦	創世記38:24~30	双子の母タマル
2日	㊦	ヨシュア記2:1~14	遊女ラハブの誠意
3日	㊦	ルツ記1:1~19前半	モアブの女ルツ
4日	㊦	サムエル記下12:1~15前半	ウリヤの妻 バト・シエバ
5日	㊦	ルカ1:26~38	主のはしため・マリア

ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった」。旧約聖書で多くの場合「~の妻」、「~の母」とだけ称されて固有名詞を持たなかった女性の名前が主語となり、「マリアの・夫」としてヨセフが紹介されています。そして次に18節以下で続くのが、その「マリアの夫」に起こった神さまの新しい出来事、「イエス・キリストの誕生(ゲネシス)の次第」なのです。



- 系図から、主イエスの誕生の「新しさ」をどのように読み取ることが

ができるでしょうか。

かつてよく聞き、今もまだ聞くのが、「罪深い女たちの名前が入ることで神さまの恵みと憐れみが表された」的な解釈です。こうした男性中心の上から目線ではなく、痛みを負った女性たち、あるいは神さまによって何らかの行動に促された女性た

ちの視点から見えて来る新しさについて考えてみましょう(例:「ウリヤの・妻」と「マリアの・夫」との違いなど)。

- 系図自体を「右肩上がり・右肩下がり・V字回復」と捉える解釈もよく聞かれます。しかし、その場合、何が頂点なのでしょう。経済的繁栄でしょうか?主イエスが低みに降った方であることを覚える時、系図の意味が違って見えてこないでしょうか?

アブラハムからマリアまで

聖書 マタイによる福音書 1章1～17節

暗唱聖句 このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。
マタイ 1:16

新約聖書を開いて最初の福音書であるマタイによる福音書を読むとする時、まず出て来るのがたくさんのカタカナの名前です。最初の人アブラハム、最後の人マリアです。この人たちは旧約聖書に登場する人たちがほとんどで、すべてイエスさまより以前にいた先祖の人たちです。

並んでいる名前は、実は3つに分かれています。最初はアブラハムからダビデ王までの時代。この時代は信仰の先達アブラハムが神さまの約束に従ってカナン^{カナン}の地にやって来たところから始まり、やがてカナンの地に定住して王さまを立て、王国になったところまでの時代です。つまり、イスラエルがどんどん力をつけ、二代目のダビデ王の時には周辺の国々にも注目されるようになった時期です。ふつう、イスラエルの系図には男の人の名前しか書かれないのですが、ここには女性の名前、しかも外国人である女性も含めて3人の名前があります。タマル、ラハブ、ルツです。この女性たちはそれぞれ悩みと悲しみを持ちながら力強く生きた人たちで、系図はそのことを私たちに伝えています。

次はイスラエルの第三代の王ソロモンから始まる時代です。ここに書かれた「ウリヤの妻」はソロモン王の母親です。名前はバト・シェバですが、ウリヤという人の妻だったのをソロモンの父ダビデ王が無理やり奪ったのです。ソロモン王の時にイスラエルはとても栄えましたが、やがて北と南の王国の2つに分裂してしまいます。そ



の後、北も南もそれぞれ大きな国々に滅ぼされますが、特に南王国がバビロンに敗北して多くの人^{ほしゅう}がその地に連れて行かれた出来事は「バビロン捕囚」と呼ばれています。ダビデとソロモンの時代に栄えたイスラエルが次々と試練に襲われ、ついには国を失ってしまうまでの時代です。

3つ目の時代はバビロン捕囚以降です。イスラエルの人びとはこの間、自分たちの住む各地に「会堂」を建てて礼拝と学びを続けました。そして数十年の捕囚からエルサレムに戻り、国を再建したのです。城壁を築き破壊された神殿をもう一度建てました。以前の神殿ほど大きくはなかったけれど、人びとにとっては重要な心のよりどころとなりました。この時期に人びとはやがて救い主が生まれるという希望を神さまから与えられました。系図の最後には「マリアの夫ヨセフ」とあり、「このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった」と結ばれます。アブラハムから始まった系図がマリアへとつながったのです。

アブラハムからマリアまで

青少年科



聖書

マタイによる福音書 1章1～17節

暗唱
聖句

このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。
マタイ 1:16

聖書から…

「系図」を見たことがありますか。最近テレビでは芸能人の先祖をさかのぼるような番組があります。また日本に限らず性(名字)には、王族のものを受け継いだ性も多いのだそうです。血統や血筋、過去の何かに頼りたい、安心したい気持ちが、元来人間にはあるのかもしれない。ユダヤの文化にも「ダビデの家につながる」ということは大事な事柄だったようです。イエスさまのことが書いてある福音書の冒頭にイエスの系図があることは、不自然なことではありませんでした。しかしその系図には、当時差別されていた外国人の女性の名前や、名前は表記されず『ウリヤの妻』とだけ記されている女性もいます。「ウリヤの妻」と書くことで、ダビデ王が犯した罪が暗示されています(聖書の学びより)。この書物を読んだ当時のユダヤ人の顔色が、みるみる変わっていく様子が想像されます。

マタイは、イエスさまの栄光や権威付けのためだけに、この系図を書いたのではないと思います。実にたくさんの人のつながりの先に「イエス」がかたち造られていった…。そのつながりは決して明るいとは言えない闇の歴史であったり、途切れそうになりながらも当時は差別されていた女性たちによってしなやかに継がれたりといった命のつながりです。その闇も差別する心もしなやかさも浮き彫りにしながら、神さまの新しい命の出来事として、マリアとその夫ヨセフの物語を、マタイは丁寧^{ていねい}に描いていきます。イエスさまの物語の「始まり」です。

分かち合おう

- 学校での教科として「歴史」があります。科目として多くの人が歴史を学んでいる一方で、自分の体験した歴史(戦争や公害問題、災害など)をなんとか後世に伝えるため、語り部などの活動が続けられています。歴史とは何でしょうか。語り部の体験は、「痛み」です。栄光や被害の歴史だけでなく、負の部分と言える「傷つけた」「奪^{うば}った」歴史にも向き合って、検証をしていくことが必要なのだと思います。
- マタイが福音書を記した当時のユダヤの人たちは、系図を読んでどのような反応をしたのでしょうか。想像してみましょう。これは当時のユダヤの人だけの問題でしょうか。現在、SNSなどで個人が特定しにくくなったためか、誹^ひ謗^{ぼう}中傷^{ちゆうしやう}の言葉はエスカレートしています。また、在日コリアンなどに対するヘイトスピーチも同様です。思考・価値観が違う人や、立場が弱くさせられている人たちを攻撃する動きは、なぜ生まれるのでしょうか。

36課

12月6日

アブラハムからマリアまで

聖書 マタイによる福音書 1章1～17節

暗唱 聖句 このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。
マタイ 1:16

聖書から…

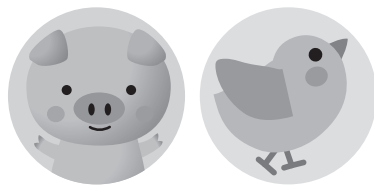
お父さん、お母さんなどの家族の名前を知っていますか？ 皆さんは「お父さん」「お母さん」と呼んでいても、名前がありますね。そしてお父さんとお母さんの、お父さんとお母さん、皆さんは「おじいちゃん」、「おばあちゃん」と呼んでいるかもしれませんが、おじいちゃん、おばあちゃんにも名前がありますね。そんな風に命はつながっていて、バトンを受けとるように、産まれ、死ぬことを繰り返しています。イエスさまは、私たちと同じようにたくさんの命と繋がって、人の子どもとして誕生しました。神さまは何もないところからでも何でも創造することができますが、私たちがよくわかるように、より近くで神さまの愛が届くように、私たち人間と一緒に喜んだり、悲しんだり、苦しんだりすることを選んで、人のかたちをとって誕生してくださいました。

活動①

「泣き声はなーに？」

①リーダーが泣き声を発してメンバーに何の泣き声か当ててもらいます。

例：ニャーニャー、ワンワン、ケロケロ、ブーブー、ぴよぴよ等



②泣き声を使って挨拶をして、何と挨拶をしたか当ててもらいます。

例：ブブブーブブブブ（おはよーございます）

③他の泣き声ではわかりにくいことを知って、イエスさまが私たちと同じ言葉を持った人として生まれてくださったことを喜び合います。

活動②

ワークシート

「イエスの系図すごろく」

●準備●ワークシートの拡大コピー、サイコロ、すごろくのコマ

①すごろくのルール説明をします。

②すごろくを楽しみながら、イエスさまの系図を知ります。

図書紹介『クリスマスってなあに？』

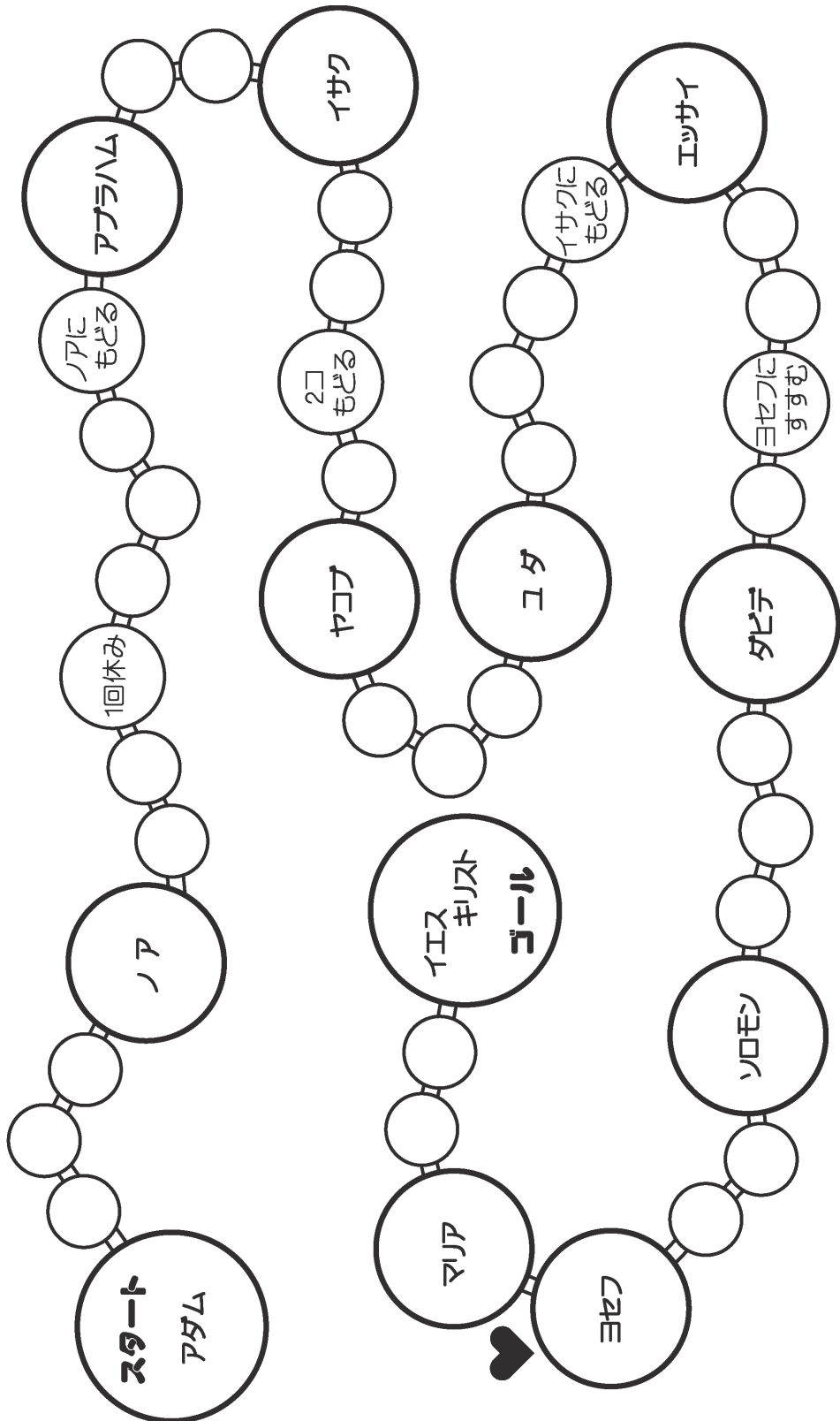
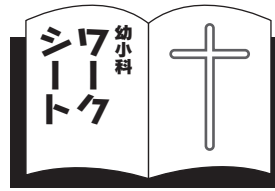
ジョン・G・ロビン文・絵
こみや ゆう訳 岩波書店

短いお話が22に分かれています。クラスの時間や、子どもの年齢に合わせて紹介したいお話を選ぶことができます。初めて知った「クリスマス」

図書紹介『クリスマスってなあに？』

マックス・ポリガー作 ジョヴァンニ・マンナ絵
らんぼると・あつこ訳 フォレストブックス

同じタイトルの本ですが、メッセージ性の高い1冊です。難民の子アッシアが初めて知った「クリスマス」



神は我々と共におられる

聖書 マタイによる福音書 1章18～25節

暗唱
聖句 その名はインマヌエルと呼ばれる。
マタイ 1：23

イエス・キリストの「誕生」 の次第～ヨセフの逡巡

「誕生」がゲネシスという語であり系図をも意味することは前課でふれました。続く誕生の次第は「マリアの夫ヨセフ」(1：16)が中心の出来事として語られます。

ヨセフはマリアの婚約者であり、ユダヤでは法的に妻と同等と見なされるマリアの身に起こった「出来事」、つまりヨセフを介さない妊娠の事実を知らされて驚き、逡巡します。マタイはこの事件は「聖霊によって」(1：18、20)引き起された奇跡的受胎であると告げます。しかし、神さまの前に「正しい人」として生きてきたヨセフにとっては、これは姦淫かんいんの罪、マリアの裏切りでしかありません(申命記 22：23～24)。マリアを愛するゆえにヨセフが非常に苦しんだことは、マリアのことを「表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」苦渋の決断が物語っています。他に選択肢がない崖っぷちの決断、それがヨセフ自身が出した結論でした。

ヨセフ、マリアを迎え入れる

しかし、そのようなヨセフに天使が夢の中で語りかけました。「ダビデの子ヨセフ」、これは前課の「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図」とのつながりを表し、「マリアの夫ヨセフ」を通して主イエスがダビデの子に名を連ねることを示します。

「恐れず妻マリアを迎え入れなさい」、苦渋くじゅうに満ちた結論を出そうとしていたヨセフ自身

が思いもよらなかったもう一つの選択肢、マリアと共に生きるという道が告げられたのです。なぜなら、このことは神さまの出来事であるからです。

天使はヨセフに続けて告げます。「マリアの胎の子は聖霊によって宿った」こと、「マリアは男の子を産む」こと、そして「(ヨセフが) その子をイエスと名付ける」こと。それらはすべて神さまの出来事であり、このイエスの誕生によってイスラエルの民が罪から救われ、聖書の預言が実現されるということです(イエスの名は「イエシュア」、救いの意)。想像さえしなかったマリアと共に生きる道。それが神さまがヨセフの前に開かれた、ヨセフが歩むべき道でした。ヨセフの存在が、イエスさまの誕生をダビデの系図につなげたのです。

インマヌエルの預言の実現

23節はイザヤ書 7章 14節「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」の七十人訳(ギリシア語訳 旧約聖書)からの引用で、「そのおとめ」(ホ・パルテノス)がそのまま用いられています。「ホ」は定冠詞ていかんしなので「一人のおとめ」がではなく特定された「そのおとめ」であるため、アモス書 5章 2節の「おとめイスラエル」を重ね合わせる研究者もいます(「まさにそのおとめイスラエルが、メシアを産むであろう」の意)(P.39、『現代聖書注解 マタイによる福音書』日本基督教団出版局)。尚、ヘブライ語聖書本文では「アルマー」(若い

女性)という言葉が用いられています。

いずれにしても、このイザヤ書の引用は、「インマヌエル」(神は我々と共におられる)の預言がイエス・キリストにあって実現することを示しています。

聖霊によって身ごもり、新しい命と共に生きるマリア、そのマリアを迎え入れ、マリアと共に生きることを決意するヨセフ、そして神さまは、その二人と共におられると約束されたのです。主イエスは、復活後、弟子たちの招集と派遣の際に、今一度この約束を新たにされます(マタイ28:20)。インマヌエルの約束はマタイによる福音書を貫く大きなテーマです。

夢の中で告げられる

マタイ1～2章で神さまは夢の中で道をさし示されます。ヨセフに4回(1:20、2:

準備のための聖書日課			
7日	㊦	申命記22:23～24	姦淫の罪の現実
8日	㊧	イザヤ43:1～7	わたしは主、あなたの救い主
9日	㊨	アモス5:1～3	おとめイスラエルの悲しみの歌
10日	㊩	イザヤ7:10～17	その名はインマヌエル
11日	㊪	イザヤ8:5～10	インマヌエルの原点
12日	㊫	マタイ28:16～20	いつもあなたがたと共にいる

13、19、22)、東から来た学者たちに1回(2:12)の合計5回です。そしてヨセフに告げられる夢の告知は、そのすべてが旧約聖書の預言の実現であることをマタイは証しています。



成人科

- マリアの奇跡的受胎、それは社会通念や常識でははかり知ることので

きない出来事です。

現代でも私たちが「そんなことありえない、おかしい」と考えることの中に、神さまの出来事が潜んでいるかも知れません。私たちは理解を越えた出来事に会った時、どのように判断するでしょうか。そしてその判断の基準は何でしょうか。

- 「神は我々と共におられる」。この約束は、マリアと縁を切ろうとしたヨセフが、マリアと共に生きることを決意する中で実現されてゆきました。マリアと共に生きる、それはまた、幼子イエスさまを抱えて生きることでした。共に生きるとは、その意味で、面倒や負担を引き受け、抱えて生きることです。そして神さまご自身が、私たちを引き受け、抱えて生きてくださる方であることを意味しています。

神は我々と共におられる

聖書 マタイによる福音書 1章18～25節

暗唱
聖句 その名はインマヌエルと呼ばれる。
マタイ 1:23

「ああ、なんてことだ！」

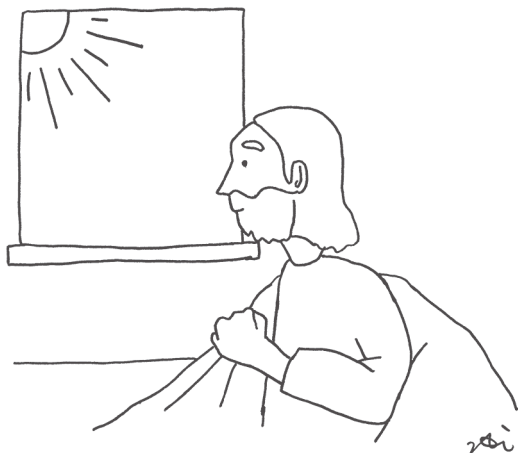
ヨセフは頭を抱えました。婚約者のマリヤがお腹に赤ちゃんを身ごもったということです。

それはヨセフの身にはまったく覚えのないことでした。しかもマリヤは、おなかの子は聖霊によって宿ったのであり、天使がそれを告げたと言うのです。神さまを信じる素直なマリヤをヨセフは大変気に入り、彼女との結婚の日を指折り数えて待っていたのです。

ヨセフはダビデの家系に属し、幼いときから律法を守り、神さまの前に正しく生きることを何より大切にしてきました。ところが律法によれば、こんな場合、マリヤは石打ちの死刑にあわねばなりません。ヨセフもまた家族や友だち、村の人びとからきびしい目を向けられ、今までのように話したりつき合ったりしてはもらえなくなるでしょう。「そんなばかな… どうしたらいいんだ」。ヨセフは頭を抱えて独り悩み苦しみ、ようやくひとつの結論を出しました。誰にも知られないようにマリヤと縁を切る、それしかできない。でもそう決めても、ヨセフの心はずっしりと重いままでした。

その晩、ヨセフの夢に天使が現れて告げました。

「ダビデの子ヨセフ、恐れずにマリヤを迎え入れなさい。マリヤのおなかの子は聖霊によって宿ったのです。マリヤは男の子を



産みます。その子をイエスと名付けなさい。この子はイスラエルの民を罪から救います。遠い昔に預言者イザヤが言ったように、その子は神の子、インマヌエルのしるしです。神はあなたたちと共におられるのです」。

ヨセフははっと目を覚ましました。みんなマリヤから聞いたとおりです。ヨセフの心に不思議な平安が満ちてきました。なぜだかはっきりわかったわけではないけれど、これが、神さまが示してくださった新しい道なのだ。ヨセフの心の中で何かがすとんと落ちました。

ヨセフはそっとつぶやきます。マリヤと共に生きていこう、マリヤにもそう伝えよう、神が私たちと共に生きてくださるのだから…。

窓の外はもう朝です。

神は我々と共におられる

青少年科



聖書

マタイによる福音書 1章18～25節

暗唱
聖句

その名はインマヌエルと呼ばれる。
マタイ 1:23

聖書から…

「正しい人」として生きてきたヨセフは、夢で聞いた天使の語りかけによって、その「正しさ」が崩されていきました。ヨセフにとって大変なことだったのではないかと思います。それはヨセフがグダヤ的に「正しい」側にいたということ、そのヨセフがマリアの出来事に際し「正しさ」でもって逡巡^{しゆんじゆん}して選んだ結果であったということからです。しかし「崩される」ことで、ヨセフという人格が無くなるわけではないことを覚えたいと思います。天使の語りかけによるヨセフの選び取りにより、縁を「切る」という生き方から、迎え入れる生き方、共に生きる道へとヨセフは再構築されていったのではないのでしょうか。

とはいえ、マリアとそのお腹の子を受け入れて生きる道は、決してきれいごとでは済まされない生き方だったと思います。不安はヨセフの頭を離れなかったでしょうし、何より二人に向けられる世間の目は無理解そのものだったでしょう。その中であって「インマヌエル（神は我々と共におられる）」との預言は、ヨセフの持っていた「正しさ」や、何が大切なことなのかを改めて問う言葉でした。「共に生きる」とは…ヨセフが縁を切っても、お腹に子のいるマリアはこの状況から逃れることはできません。「救い」のための大切な存在としてヨセフに問い、揺さぶる言葉として語られました。天使はヨセフに、子に名前をつけるという当時の父の役割を託します。ヨセフによって「救い」と名づけられたイエスさまです。

分かち合おう

- 「正しさ」って何でしょう。自分の持っている「正しさ」が崩されることは、怖いですか。それは生き方といったようなことだけでなく、聖書の読み方などでも起こってくるのだと思います。「対話」を通じて自分の正しさが崩され、変えられることを喜べる余裕（余白）を持っていたいものです。教会学校の共同学習の場がそのような場として用いられることを願っています（「教会学校ブックレット」参照）。
- イエスさま誕生の次第で、ヨセフはどのような存在として映りますか。天使のお告げに従順に従う信仰者でしょうか。「共にいる」とは、なんでも私たちを肯定するだけのものではないと思います。そんな「インマヌエル」の預言も心に留めて想像してみましょう。
- **利き〇〇ゲーム**
銘柄の違うお茶やスポーツドリンク、水などを数種類用意して、銘柄等を当ててみましょう。水は超難問です！あらゆる感覚を研ぎ澄ませても、私たちの感覚は限りのあるものです。

37
課

12
月
13
日

神は我々と共におられる

聖書 マタイによる福音書 1章18～25節

暗唱 聖句 その名はインマヌエルと呼ばれる。
マタイ 1:23

聖書から…

もうすぐクリスマス、クリスマスはイエスさまのお誕生日ですね。イエスさまのお父さんのヨセフは、妻になる約束をしていたマリアのお腹に赤ちゃんがいることを知って、びっくりしました。まだ結婚していなかったし、自分の考えていた将来とは違ったからです。予定していないことを受け入れるのは嫌だなーと思って困りました。困っているヨセフのもとに天使がきて言います。「産れた子をイエスと名付けなさい」それは「インマヌエル」「神さまが私たちと一緒にいてくださる」という、うれしい意味を持つ言葉です。ヨセフは自分の思いを超えた神さまの計画を知って、迷ったり、困ったりすることをやめました。私たちもヨセフのように「神さまが共にいてくださる」という神さまの約束を信じて、「イエスさま」というプレゼントに「ありがとう」の気持ちを持ってクリスマスを迎えたいですね。

活動①

「もっとよいもの」

●準備●トランプ、一枚だけシールなどで印をつけたカードを作り入れておきます。

- ①トランプを配ります。
- ②「もっとよいもの」と言いながら、カードを1枚真ん中に出します。
- ③一番大きな数を出した人は全員のカードをもらいます。
- ④印のついたカードが出たらみんなで「インマヌエル」と言います。
そして、「インマヌエル」カードが出たら、一番たくさんカードを持っている人は一番少ない人に自分が持っているカードを全部あげます（インマヌエルカードの人はもらえません）。
- ⑤出すカードがなくなった時に一番多くカードを持った人の勝ちです。
- ⑥イエスさまの誕生は、私たちの価値観を逆転させることを知らせます。

活動②

ワークシート

「その名はインマヌエル」

●準備●ワークシートのコピー

イエスさまを探しましょう。ワークシートの一番上の枠で囲っている絵の家畜小屋や、ヨセフ、マリア、イエスさま、全てが同じ絵を見つけます。

こたえ
上から3段目の一番左



その名はインマヌエル



37課

12月13日



喜びの道

聖書

マタイによる福音書 2章1～12節

暗唱
聖句

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。
マタイ 2：2

「星」とクリスマス

東方の学者たちをイエスさまのもとに導いたのはユダヤ人の王の誕生を告げる「星」(2：2)でした。星は聖書で創造主を指し示します。それは創造主のみ手の業であり(創世記1：16、詩編8：4、ヨブ9：9、38：31～32)、神の約束のしるしでした(創世記15：5、22：17)。一方、被造物である星や天の万象ぼんしやうそれ自体を拝むこと、また星占きぎいをするいましことは、異教的な風習として厳しく戒められていました(申4：19、18：14、列王下23：5、イザヤ47：13)。

そうした背景を覚える時、占星術せんせいじゆつの学者たちが東の方からエルサレムに来てユダヤ人の王の誕生について尋ねたことの重大な意味が改めて際立きわだってきます。彼らはイスラエルの律法と関わりを持たない異邦人、本来メシアの到来を告げ知らされる人たちではなかったのです。その彼らに告げ知らされた星による救い主誕生の知らせ、それは、イエスさまのもと世界中の人びとが招かれることを証ししています。

預言の言葉との出会い

彼らがまず首都エルサレムのヘロデの王宮に来たのは、王の誕生ということをおぼえれば当然だったでしょう。しかしその幼子は王宮にはいませんでした。彼等の訪問にヘロデ王は不安を抱き、エルサレムの町の人々も、見慣れぬ外国からの来客一行を見てやはり不安を隠せません。学者たちの質問に答えてヘロデ

王は、表向き平静を装って祭司長たちや民の律法学者たちを集め、「メシアはどこに生まれることになっているのか」と問いました。ユダヤ人の王とは、つまり、メシアとして来られる方だからです(マタイ27：37)。祭司長等は、メシアはユダの地ベツレヘムで誕生すると預言の言葉を証言します。6節はミカ書5：1～3及びサムエル記下5：2の組み合わせを、マタイが少し修正して引用したものです。「ベツレヘム」、「牧者」、共にダビデ王に深く関わる言葉です(サムエル上16：1、17：15)。

ユダヤ人の王の誕生を告げる星は、異邦人で異教的文化の中からやって来た占星術の学者たちを、イスラエルの預言の言葉との出会いに導きました。学者たちはエルサレムが旅の終着点ではないことを知り、更にベツレヘムへと進路を変更します。星に導かれて…。

彼らはひれ伏して幼子を拝み

ベツレヘムはエルサレムの南8キロ、海抜かいぼつ約800メートルの高地です。学者たちを遠く東方から導いた星はなおも先だつて進み、ついにベツレヘムの、幼子イエスさまのおられる場所の上で止まりました。彼らはその星を見て喜びにあふれました。占星術の学者として星を生業なりわいとして生きてきた彼ら、その彼らが遠く東方で見て、この地まで信じて従ってきた星の導きは、学者たちを子どものような大きな喜びで満たしたのです。

彼らは家に入って母マリアと共にいる幼子イエスさまについてお会いしました。そこは

38課

12月20日

王宮ではなかったけれど、イエスさまにお会いした彼らにとっては問題ではありません。

学者たちはひれ伏して、幼子イエスさまを拝みました。異教的文化の中にある学者たちが唯一の神であって天地の創造主、その独り子イエスさまを礼拝した瞬間です。それは彼等にとって、それまでとはまったく異なる、新しい生き方が始まることでした。

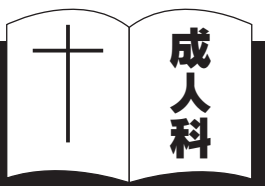
真心からの礼拝は、礼拝者を応答、つまり真心からの献げものへと導きます。彼らは東方から持参した「宝の箱」を開けて、高価な贈り物を幼子イエスさまに献げました。「黄金」は王としてのイエスさま（列王上10:2、25）、「乳香」は祭司としてのイエスさま（出エジプト30:34～38）、「没薬」(別名ミルラ)は十字架で命を献げた贖い主としてのイエスさま（ヨハネ19:39）をそれぞれ象徴していると言われます。

別の道を通して

幼子イエスさまにお会いした学者たちに、

準備のための聖書日課			
14日	㊟	詩編148:1～6	輝く星よ、主を賛美せよ
15日	㊦	エゼキエル34:23～31	群れを養う牧者
16日	㊧	ミカ5:1～3	ベツレヘム、いと小さき者よ
17日	㊨	マタイ27:32～44	ユダヤ人の王イエス
18日	㊩	ルカ1:46～56	救い主なる神を喜ぶ
19日	㊪	ルカ2:1～20	飼い葉桶の救い主

ヘロデのところには戻らないようにと夢でお告げがありました。主イエスさまに出会った者は、権力者に追従する道をもはや歩みません。主イエスだけが天においても地においてもまことの主であるからです（フィリピ2:9～11）。学者たちはヘロデの道には戻らずに、迷うことなく別の道を通して、自分たちの国へと帰って行きました。



成人科

● 占星術の学者は古代では天文学者と同義語でした。彼等は自分たちの専門である「星」を通して聖書の預言に、そしてイエスさまに、出会いました。クラシック音楽愛好家の医師がいました。この人はヘンデルの「メサイア」を聴いて聖書に関心を持ち、やがてキリストを信じました。自分が愛好するものや専門とする仕事をきっかけにクリスチャンとなった方が身近にいれば、証しをうかがう機会を持ちましょう。

- 今日にはクリスマス礼拝です。飼い葉桶に眠る幼子イエスさまを取り囲む学者たちや羊飼いは世界のすべての人がイエスさまのもとに招かれていることを表します。私たち一人ひとは皆異なっているけれど、イエスさまのお誕生を喜ぶために招かれた者たちです。互いの違いを神さまの豊かさとして喜び合うこと、それが礼拝する心です。
- 教会に外国籍の方がおられたら、それぞれの文化の中でのクリスマスの祝い方などを紹介していただくとよいですね。

喜びの道

聖書

マタイによる福音書 2章1～12節

暗唱
聖句

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。
マタイ 2：2

38
課

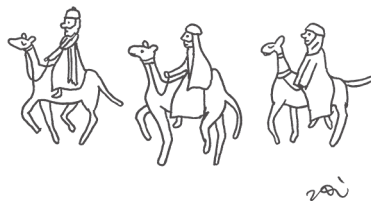
12
月
20
日

「あれは誰だ？」道行く人びとの目がエルサレムの町に入ってきた不思議な一行に注がれました。らくだに乗っている威厳のあるその人たちは、着ているものや話す言葉から、遠く東の方の国から来た外国人であることが分かります。「どうしたんだ？なぜあんな外国人がここに？」人びとは見慣れぬ突然の訪問者に不安そうです。彼らはヘロデ王の宮殿をめざして進んで行きました。

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか？ 私たちは占星術の学者です。東方の自分の国でその方の星を見て拝みにやって来たのです」。ヘロデ王のもとに通された彼らは通訳を介して尋ねます。それを聞いたヘロデ王の顔がさっと青ざめました。王は内心「何、ユダヤ人の王だと？」と動揺しましたが、気を取り直して平静を装い、答えました。「よくいらした、東からの客人どの。どれどれ、この私、王であるヘロデが調べてしんぜよう」。

ヘロデ王はさっそく民の祭司長たちや律法学者たちを皆集め、厳しく問いました。「メシアはどこに生まれることになっているのか？ 遠い東から星に導かれたという外国人がやって来たぞ」。彼らは預言の巻物を広げてしばらく調べた後、答えました。「ユダの地、ベツレヘムです！『お前から指導者が現れてイスラエルの牧者となる』とあります！」

ヘロデ王はそのことを学者たちに告げました。イスラエルの預言の言葉を初めて聞



いた彼らは、驚きながらもその言葉に従ってエルサレムからベツレヘムへと旅立ちました。ヘロデ王は旅立つ彼らに言いました。「その子のことがわかったらぜひ知らせてくれ。わたしも行って拝みたい」。

学者を導いたあの星は、ベツレヘムへの道にも彼らと共にいて、ついにあるつつましい家の上で止まりました。学者たちは大喜びです。「ユダヤ人の王さま、あなたを崇めます。どうかこの贈り物をお受け取りください」。彼らは宝の箱から黄金、乳香、没薬を取り出して、幼いイエスさまにうやうやしくささげました。彼らをさらに大きな喜びが包みます。こうして学者たちはイエスさまを礼拝した最初の外国人となりました。

「さあ、国へ戻ろう。別の道を通って」。彼らは東の国へと出発しました。夕べの夢でお告げを受けたのです。学者たちが踏み出したその道は、ヘロデ王のもとには行きません。

その道は、イエスさまに会えた喜びの道、世界の主を礼拝した心からの感謝の道でした。

喜びの道

青少年科



聖書

マタイによる福音書 2章1～12節

暗唱
聖句

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。
マタイ 2：2

聖書から…

ユダヤ人にとって「ユダヤ人である」ということは、最も大切な存在意義でした。その「血」とも言えるような繋がりに、マタイは積極的に異邦人の関わりを描きます。1章の系図では異邦人の女性の名前を記しています(36課)。そして今課は、東方からきた占星術の学者たち。イエス出生の場面から異邦人が深く関わっていくことで、ユダヤ人のためだけに来ると信じられていた「救い主」はこの世界のあらゆる人々のための救い主であることが記されています。当時持たれていた「救い」や「福音」の広がりの限界性を、マタイは覆していったのかもしれません。

救い主を待ち望んでいたユダヤの人々。それは言い換えると、救いは待っていれば自動的にやって来るイメージだったかもしれません。救い主をめぐる自らの行動・応答が問われるとは思いもしなかつたでしょう。救い主誕生の知らせは、学者たちはもとより、ヘロデにも届けられたものでした。聖書の預言も含め、学者たちよりも多くの情報を得ていたであろうヘロデ。その中でヘロデは彼自身の意志で決断し、イエスさまに従わない生き方を選びます。一方学者たちも自ら決断し、ヘロデとは「別の」道を通して生きることを選びます。イエスさまを主と礼拝し、命の呼びかけに応答する生き方です。自ら告白し、礼拝する道を選んでいく「生き方」を問われる、クリスマスの物語です。

分かち合おう

- 週題は「喜びの道」です。ヘロデとは別の道を選んだ学者たちにとっての「喜び」は何だったのでしょうか。あなたにとってクリスマスの出来事は「喜び」の物語ですか。メシア誕生の預言を知っていた人たちがむしろ喜ぶことができなかつたように、教会の内にいる私たちがクリスマスの喜びがわからなくなつてはいないでしょうか。
- マタイが福音書を記した時代に比べると、現代は比較にならないほど「グローバル社会」になりました。国境を越えて縦横無尽じゆうおうむじんに移動する人、モノ、カネ(ウイルスも)。残念ながら世界のより富を生みそうな場所に集まっています。本当に「グローバル化」は進んでいるのでしょうか。吉高叶氏は「グローバルイゼーションとは、人間の豊かな往来のことではなく、世界を一つの市場とみなした国境線を越えた弱肉強食主義のことだったのです。ほんの一部の強者による市場の独占・寡占状態かせんじょうたいであり、投資マネーの暴力的君臨でした…」(『宣教ニュースレター No.96』日本バプテスト連盟宣教研究所)と書いています。

38課

12月20日

喜びの道

聖書

マタイによる福音書 2章1～12節

暗唱
聖句

わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。
マタイ 2:2

聖書から…

星を研究していた学者たちのもとに、ユダヤ人の王が生まれたことを告げる星が現れました。学者たちは王の誕生を確かめようと、急いで宮殿に出かけていきました。でも、王が生まれたのは、宮殿ではありませんでした。学者たちは、星の導きに従ってベツレヘムに向かいました。町の人々は見たこともないお客様に、「誰だろう?」「何しにきたのかな?」とざわつきましたが、学者たちは、そんなことは気にもかけず、星を頼りに旅を続け、ついにイエスさまに出会うことができました。そして、ユダヤ人の王であることを確認して喜びでいっぱいになりました。ヘロデ王が王座を取られることを心配して、よくない事を起さないように、来るときとは別な道を選んで帰っていきました。

活動①

「別な道をいこう!」

●準備●3つのポーズを自由に考えて覚えます。

イエスのポーズ=例) すやすや寝ているポーズ

マリアのポーズ=例) 赤ちゃんを抱っこしているポーズ

学者たちのポーズ=例) 星を指差すポーズ

- ①メンバーに真似をするように伝えて、リーダーはポンポンと膝を叩いて、ポーズします。
- ②ポーズを覚えて、真似できるようになったら、次はリーダーと違うポーズをするように伝えます。
- ③同じポーズをしてしまったら、今度はそのメンバーがリーダーと交代してポーズをします。
- ④別な行動をとることは、真似するより難しいことを知って、大事なことが選べるようにと祈ります。

活動②

ワークシート

「星が先立ち」

●準備●ワークシートのコピー人数分、鉛筆

ワークシートの三人の学者たちのまががいさがしをしましょう。上の絵を見ながら下の絵と違うところを5つ見つけます。

この絵は、
①星の数、②左の学者の服の模様、③中央の学者の
かぶりの飾り、④中央の学者のツノの長さ、⑤
右の学者の持ち物の数

図書紹介「星と船と王さまたち」

シュチェパーン・ザヴジェル作
日本基督教団出版局



痛みと悲しみを抱えて ～エジプトへの避難

2020年を締めくくる今日の箇所で、私たちはイエスさま誕生の喜びの影で起こった、心痛む悲惨な出来事についての聖書の証言と向き合わねばなりません。クリスマスのもう一つの側面、救い主降誕に関わる痛みと悲しみです。

占星術の学者が別の道を通って帰って行った後、ヘロデ王の不安と疑心暗鬼と怒りが最も恐ろしい形で噴出しました。ヘロデは幼子イエスさまを探し出して殺そうとしていたのです。主の天使はいち早く危険をヨセフに夢で告げました。ヨセフの行動、すなわち「夜のうちに」エジプトへ去った迅速さが、この緊急さとヨセフの信仰を物語っています。恐ろしく、マリアを迎え入れよとの天使の言葉を身に受けた時から、ヨセフは、たとえいかなることが起きようとも、マリアと幼子イエスと共に生きる人生は、主と共にいてくださる歩みであることを固く信じていたに違いありません。マタイはこのヨセフの従順がホセア書11章1節の実現となったと語ります。

ヘロデの大虐殺と エレミヤの預言

王としてのヘロデは、いくつもの公共事業を手がける政治家でもありました。しかし他方ではイドマヤ出身のエドム人であった負目からか自分の氣にいらぬ者や王の地位を脅かす者に対して家族でも殺めるほどの非常な

残忍さをむき出しにしました。彼は占星術の学者たちが自分の命令を聞かなかったことを知って激怒し、ベツレヘムとその周辺一帯にいた2才以下の男の子を皆殺しにさせました。幼子イエスさまの誕生の陰で、同じ年代の沢山の子どもたちが無残にも権力者の手で命を奪われたのです。この悲劇を、マタイはバビロン捕囚の悲劇になぞらえて証言します。18節はエレミヤ31：15からです。激しく嘆き悲しむラケルとはヤコブの妻で、ヨセフとベニヤミンの母親です（創世記30：24、35：18）。彼女はベニヤミン出産の際に死に、ベツレヘムの近くのエフラタに葬られたと言われます（創世記35：19）。預言者エレミヤはこのラケルの伝説をもう一つの埋葬の場所と言われるラマ、そして北王国イスラエルと南王国ユダの滅亡、またバビロン捕囚の悲劇を重ね合わせます。マタイはエレミヤ書を引用することで、ヘロデ王の残虐行為への深い歴史的な悲嘆を表したのです。

ちなみにマタイ2：17の解釈は注意が必要です。この男児虐殺それ自体がそのまま預言の実現と取ると、神はこうした悲劇を預言の実現のためにあえて起される方だということになってしまいます。しかし、注意深く見ると、15節が「主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった」とあるのに対し、17節は「主」という主語は用いられず、ただ、「預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した」とだけ述べられます。また、引用されたエレミヤ31：15の「ラマで声が聞こえた」は原語では「聞かれた」と受動態であり、嘆きの声を聞かれたのは神

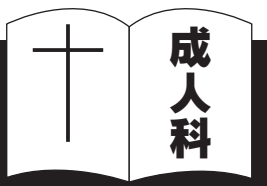
であることが暗示されています。神は民の嘆きに耳を傾け、慰めを拒否するほどの悲しみの中で共に佇み、じっと寄り添ってくださる方なのです。イスラエルの歴史はそのような神が共にいてくださる民の歩みの証しです。

エジプトからの帰国、そしてナザレの人として

ヘロデ王が死ぬと主の天使はふたたびヨセフの夢に現れ、ヘロデはもう死んでしまったから、幼子と母親を連れてイスラエルの地に戻るよにと告げます。ヨセフはここでも直ちに従い、イスラエルの地に帰って来ます。が、その地をヘロデの息子が支配していることを知り、恐れます。主の天使は三度目の夢によってヨセフに何事かを告げました。その内容は明記されていませんが、複数の預言者たちの言葉が実現したとあります。「ナザレの人」(ナゾライオス)は「若枝」(ネーツェ

準備のための聖書日課			
21日	㊦	出エジプト記1:15~22	神を畏れぬエジプト王
22日	㊦	イザヤ11:1~5	萌えいでるひとつの芽
23日	㊦	エレミヤ31:15~17	苦悩に満ちた嘆き
24日	㊦	ヨハネ1:43~51	ナザレへの偏見
25日	㊦	ヨハネ7:40~44	メシアの誕生を巡って
26日	㊦	使徒言行録2:22~24	ナザレの人イエス

ール、イザヤ11:1)や「ナヅル人」(ナヅール、神に聖別された人の意、民数記6:2)との語呂合わせです。「ナザレから何か良いものが出るだろうか」(ヨハネ1:46)と言われた寒村がメシアの出身地となるとの預言です。



- ヘロデの男児虐殺はクリスマスのダークサイド(影の部分)です。

メシアであるイエスさまが人間の痛みや苦しみを身に負う者であることが暗示されています。それは嘆きと悲しみの歴史であると同時に、イエスさまが担われる十字架へとつながってゆきます。

- 神さまは4度ヨセフに夢で告げられます。①恐れずにマリアを受け入れよ、②起きて、エジプトへ逃げよ、③起きて、イスラエルの地に行け(戻れ)、④ナザレという町に行き住め(④は直接夢の言葉は

出てきません)。これらの言葉の中にヨセフは共におられる神さまが先立って導かれていると感じたのではないのでしょうか。

- 現代において神さまはどのように私たちに語りかけるのでしょうか。礼拝の説教を通して? 教会学校のみ言葉の分かち合いを通して? 社会のさまざまな出来事を通して? 他者との出会いを通して? 私たちは「正解」はどれかと迷います。しかし、最も大事なものは、どのような道にも主は私たちと共にいてくださる(インマヌエル)という約束ではないのでしょうか。

夢でのお告げ

聖書

マタイによる福音書 2章13～23節

暗唱
聖句

「彼はナザレの人と呼ばれる」
マタイ 2：23



39課

12月27日

東の国からの学者たちの来訪の後、主の天使がヨセフの夢に現れて告げました。「起きなさい、ヨセフ。子どもと母親を連れてここを離れ、エジプトの地に行きなさい。そしてわたしが告げるまで、エジプトにとどまっていなさい」。ヨセフは、はっと飛び起きました。そして思い出しました。イエスさまが生まれる前、マリアとは別れようかと悩みに悩んだ時、天使が夢に現れたあの夜のことを。「神さまは我々と共におられる」。ヨセフはそっとつぶやき、マリアと幼いイエスさまを揺り起こし、その夜の内に急いでエジプトへと旅立ちました。

それからまもなく、ベツレヘムとその周辺の町々村々に言葉に尽くせない恐ろしい事件が起こりました。東の国の学者たちが戻ってこなかったことに激怒したヘロデ王が命令を出し、ベツレヘムとその周辺一帯にいた2才以下の男の子を一人残らず殺させたのです。なんということでしょう！家という家から泣き叫ぶ母親父親、家族の声が聞こえます。その嘆きの声は夜が明けても日が替わっても止むことはありませんでした。「ああ、この泣き声、嘆きの声。我々の先祖たちを何度も襲った苦しみが、またもや我々にも臨んだのだ…。主よ、どうか我らをあわれみたまえ」。村の長老の一人が天を見つめてつぶやきました。

それからしばらくの間、子どものイエスさまとマリアとヨセフはエジプトの地でひっそりと、つつましく暮らしていました。

数年間経った時、ヨセフは再び夢を見ました。「起きて、子どもと母親を連れ、イスラエルの地に戻るがよい。この子の命を狙っていたヘロデ王はもう死んだ」。そこでヨセフは起きて、イエスさまとマリアを連れ、エジプトからイスラエルへの道に戻りました。戻ってみると確かにヘロデ王は死んでいましたが、その後を継いでユダヤを治めていたのはヘロデの息子アルケラオでした。ヨセフが恐れてためらった時、三度夢のお告げがありました。ガリラヤのナザレに行って住むように、幼子はナザレの人と呼ばれるから、と。ヨセフは家族を連れてナザレに隠れ住みました。

これらの歩みの一つひとつには、預言者たちの言葉が深く関わっています。それは、神の子イエスさまの歩みが私たちと共なる歩みであることを告げています。権力者の理不尽な圧迫や非道な暴力、戦争の悲劇、国を挙げての災難の中で、主は私たちと共に苦しみ、共に歩んでくださいます。そのために、イエスさまは来られた方なのです。

夢でのお告げ

聖書

マタイによる福音書 2章13～23節

暗唱
聖句

「彼はナザレの人と呼ばれる」
マタイ 2：23

青少年科



聖書から…

絵本や降誕劇などでは、前課の場面までしか描かれないことの多いクリスマスの物語ですが、その後ヘロデによる恐ろしい事件が起こったのです。この幼児虐殺事件を、単に預言の成就として起こった悲嘆の出来事とだけ捉えずに、向き合ってみたいと思います。全能なる神と幼子イエス、そのアンバランスとも言える存在が、この事件を読むときに抱える「なぜこんな事件が起こるのか」という疑問に関わっているように感じます。全能者の無力、とでも言いましょうか、この事件が起きたとき、救い主イエスさまは赤ちゃんゆえに自分では何もできない存在でした。両親に抱えられてしか逃げることもできない赤ちゃんです。この事件の中で神は、預言を通して民の声（嘆き）を「聞かれる」という形で「インマヌエル」を証しされました。慰めを拒否するほどの悲しみの中で共に佇み、じっと寄り添ってくださる神です（**聖書の学び**より）。天使の言葉に従ったヨセフたちの手によって、再びイスラエルの地に戻って来たイエスさま。しかし、まだ幼児虐殺の記憶も生々しい時でした。イエスさまは、人間には想像し、寄り添うことの難しいと思われる「生き残った側（サバイバー）」の痛みを生きられたのではないのでしょうか。イエスさまご自身は幼さゆえに自覚はなかったかもしれませんが。しかしヨセフに語られた夢でのお告げによって、「ナザレ人」として生きるイエスさまの生き方が「インマヌエル」となったのです。

分かち合おう

- 2020年が終わろうとしています。本当に激動の1年、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、誰もが手探りの中で生活をしました。日々の何気ない営みが次々と制限されていく中で、「不条理」という言葉も実感できたように思います。あなたにとって、今課の物語は、どのように響きましたか。もはや「神はいない」と思われる世界に、幼子イエスさまは「いた」のです。この幼子が私たちの苦しみや悲しみをご自身のものとして、その生涯を歩まれました。
- 私たちは神からの「お告げ」を直接聞くことはできません。どのような形で、神の語りかけを「聞く」ことができるのでしょうか。み子や聖霊を通してその働きを現わされた三位一体の神、イエスさまには直接会っていないであろうサウロ（のちのパウロ）が伝道者として用いられる姿は、何か一方的に押し付けるのではない神の語りかけを感じます。「**成人科**」も参考に考えてみましょう。

39
課

12
月
27
日

夢でのお告げ

聖書

マタイによる福音書 2章13～23節

暗唱
聖句

「彼はナザレの人と呼ばれる」
マタイ 2：23

聖書から…

ヨセフの夢に天使が現れて、「子どもとマリアを連れてエジプトへ行きなさい」と告げました。よくない事が起こるかもしれないと、ヨセフは急いで夜のうちにエジプトへと旅立ちました。ヘロデ王は自分の王座が奪われないように、学者たちの知らせを聞いて、新しい王を亡き者にしようと考えていましたが、学者たちが戻ってこなかったので、とても怒って、ベツレヘムとその周辺の2歳以下の男子の命をすべて絶つように命令しました。クリスマスはうれしい楽しい日ですが、イエスさまの誕生には、私たちの苦しみや、悲しみを共にしてくださいと神さまの深い愛がありました。それは人間の中にある、負けたくないという心が生み出す暴力や、偉くなりたいと思う心が生み出すずるさや、人の不幸から逃げようとする臆病を私たちが自覚して、「神さまは私たちと共にいてくださる」と負けないで頑張れる心を生み出すために必要な「イエスさま」という贈り物だったのです。

活動①

「愛がいっぱい」

●準備●赤い色画用紙をハートに切ったもの（一人10枚分）

①ハートを部屋のいろいろなところに隠しておきます。

②メンバーは、いろいろなところから、ハート10枚を見つけます。

③神さまの愛はいろいろなところに隠れているけれど、たくさんあること、そんな時にも私たちと共にあることを伝えます。
*10枚よりたくさん見つけた人は、友だちに分けるよう勧めます。

④すぐに見つけられたら、隠す人を替えてまた見つけます。

活動②

ワークシート

「その名は？」

●準備●ワークシートのコピー人数分

①横に並んだ言葉を線で繋いで暗唱聖句を完成させます。

②ヒントは、聖書の箇所（数字）のところに聖書で開くと見つかります。

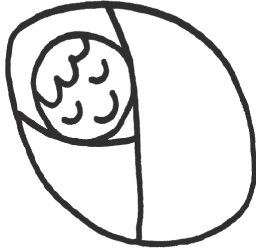
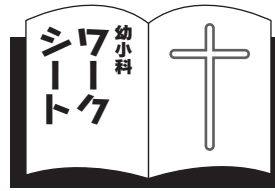
*一つだけ、12月の暗唱聖句ではない言葉があります。

活動③

「イエスさまをもらおう！」

①活動①のハートカードの裏に、ワークシートの赤ちゃんイエスさまをはります。

②お互いに今年1年どんなことがあったかを分かち合って、イエスさまハートカードをもらいましょう。



1:16

1:23

2:6

2:23

よばれる

イエスが
おうまれになった

よばれる

ほくしゃ

メシアとよばれる

インマヌエルと

イスラエルの

ナザレのひとと

そのなは

このマリヤから

かれは

わたしのため

「神を

恐れ、



「神」
右上に指文字「か」
中指腹に親指を当てた3指

「敬う」
左掌上に
親指を立てた右手を置き

(丁寧^{うやうや}に恭しく)
上に揚げる

その

戒めを



「神」
右上に指文字「か」
中指腹に親指を当てた3指

「教え」
人差指を口元付近から
手首を軸にして

2回振り下ろす

守れ。」



「守る」
軽く開いた両手を
上下に置き

体を引きつけて両手を握る

「従う」
立てた両人差指を
前(右指)後にして

これこそ、



前に動かす



「このことば」
両手人差指で「 」を示す



「まことに」(本当)
指先上向の掌の人差指側を
顎に当てる

人間の



「人生」
親指と小指を立てた手の
甲側を前にし体の前で回す



「生涯」
親指・小指を立てた右手を
左に動かして



左掌に親指をつける

すべて。



「必要」
両手の指先を
胸に引き寄せる



「すべて」
両掌下向き
指先を前方に伸ばし



上から下に向かって
円を描くように

暗唱聖句 カード

新共同訳

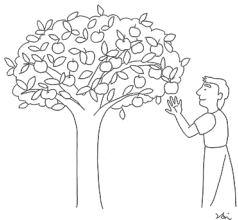
- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>



み見よ、どれもみな空しく、風を
お追うようなことであった。

コヘレト 1 : 14

28課 10月11日



かみ神はすべてを時宣にかなうよう
につくに造り、また、永遠を思う心を
人に与えられる。

コヘレト 3 : 11

29課 10月18日



ひとりよりもふたりが良い。共に
あつらく、勞苦すれば、その報いは良い。

コヘレト 4 : 9

30課 10月25日



ひと一つのことをつかむのはよいが
ほかのことからも手を放しては
いけない。

コヘレト 7 : 18

31課 11月1日



とき時をよくもち用いなさい。今は悪い
時代なのです。エフェソ 5 : 16

32課 11月8日



あなたのパンを水に浮かべて流
すがよい。月日がたってから、
それを見いださうぞ。

コヘレト 11 : 1

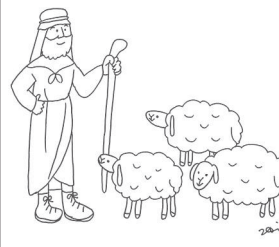
33課 11月15日



せいしゅんひび青春の日々にこそ、お前の創造
主に心を留めよ。

コヘレト 12 : 1

34課 11月22日



かみおそ「神を畏れ、その戒めを守れ。」
これこそ、人間のすべて。

コヘレト 12 : 13

35課 11月29日



わたしたちに必要な糧を今日与
えてください。

マタイ 6 : 11

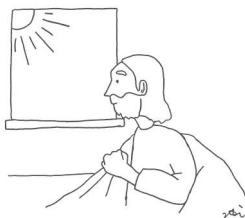
36課 12月6日



このマリアからメシアと呼ばれ
るイエスがお生まれになった。

マタイ 1 : 16

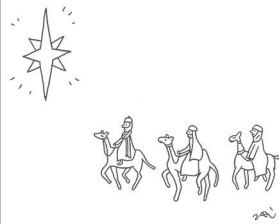
37課 12月13日



その名はインマヌエルと呼ばれ
る。

マタイ 1 : 23

38課 12月20日



わたしたちは東方でその方の星
を見たので、拝みに来たのです。

マタイ 2 : 2

39課 12月27日



「彼はナザレの人と呼ばれる」

マタイ 2 : 23

暗唱聖句 カード

口語訳

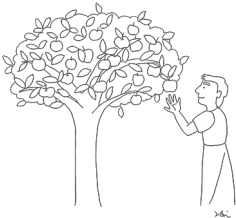
- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>

27課 10月4日



みな空であって風を捕えるようである。 伝道の書 1 : 14

28課 10月11日



神のなされることは皆その時に
かなって美しい。神はまた人の
心に永遠を思う思いを授けられ
た。 伝道の書 3 : 11

29課 10月18日



ふたりはひとりにまざる。彼らは
その労苦によって良い報いを得
るからである。 伝道の書 4 : 9

30課 10月25日



あなたがこれを執るのはよい、
また彼から手を引いてはならな
い。 伝道の書 7 : 18

31課 11月1日



今の時を生かして用いなさい。
今は悪い時代なのである。
エペソ 5 : 16

32課 11月8日



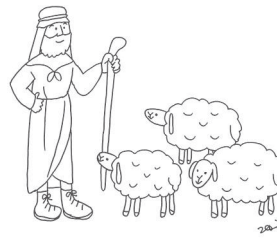
あなたのパンを水の上に投げよ、
多くの日の後、あなたはそれを
得るからである。 伝道の書 11 : 1

33課 11月15日



あなたの若い日に、あなたの造
り主を覚えよ。 伝道の書 12 : 1

34課 11月22日



神を恐れ、その命令を守れ。こ
れはすべての人の本分である。
伝道の書 12 : 13

35課 11月29日



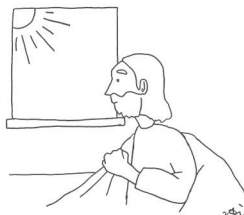
わたしたちの日ごとの食物を、
きょうもお与えください。
マタイ 6 : 11

36課 12月6日



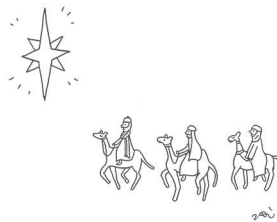
このマリヤからキリストといわれ
るイエスがお生れになった。
マタイ 1 : 16

37課 12月13日



その名はインマヌエルと呼ばれ
るであろう。 マタイ 1 : 23

38課 12月20日



わたしたちは東の方でその星を
見たので、そのかたを拝みにき
ました。 マタイ 2 : 2

39課 12月27日



「彼はナザレ人と呼ばれるであ
ろ」 マタイ 2 : 23

聖書教育



特集

レント・イースターメッセージ

才藤千津子

信教の自由を守る

藤田直彦

連載

協力伝道週間をおぼえて

石橋大輔

今、改めて
「教会学校の目的」に目を向ける

中田義直

ご意見、ご感想をお待ちしております。

FAX ● 048-883-1092 Eメール ● seishokyouiku@bapren.jp (編集担当)

聖書教育

● 2020年8月20日発行・発売 ● 定価 1,200円 (税込)

発行人 中田 義直

編集人 長尾 なつみ

発行 日本バプテスト連盟

〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 1-2-4

TEL : 048-883-1091 FAX : 048-883-1092

日本バプテスト連盟 HP <https://www.bapren.jp/>

聖書教育 HP <https://www.bapren.com/>

ご注文は連盟販売管理室まで hanbai-kanri@bapren.jp

郵便振替口座 00150-9-192579

印刷 ニューライフミニストリーズ (新生宣教団)

● 内容についての編集責任は日本バプテスト連盟にあります。

● ワーク・教材以外の複製はご遠慮ください。

● 聖書は日本聖書協会新共同訳を使用しています。

©2020 日本バプテスト連盟

● 乱丁落丁はお取り替えいたします。日本バプテスト連盟販売管理室までご連絡ください。

● 表紙 三浦あや

● みんなで聴く聖書のおはなしカット 香月 藍

● レイアウト JC ユニット

● 幼小科ワークシート 吉崎 愛



表紙「そらのそら」